佐久市埋蔵文化財調査報告書　第２５６集

東村遺跡群

山伏木遺跡

長野県佐久市上平尾山伏木遺跡発掘調査報告書

2019.3
佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書　第２５６集

東村遺跡群

山伏木遺跡

長野県佐久市下平尾山伏木遺跡発掘調査報告書

2019.3
佐久市教育委員会

山伏木遺跡空中写真

山伏木遺跡 D18 号土坑出土土器

口絵 2

山伏木遺跡 D19 号土坑出土土器

山伏木遺跡埋甕 1

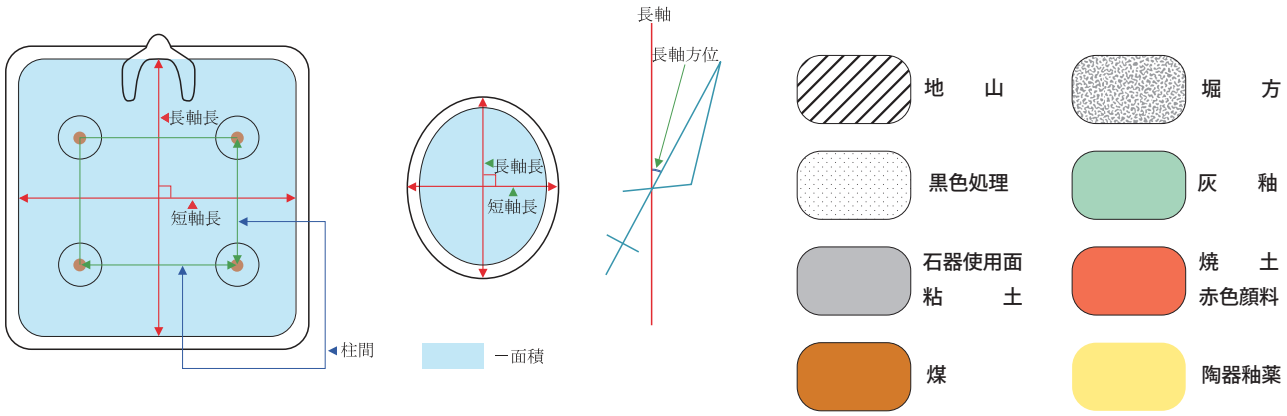
例　　言

1　本書は長野県佐久市に所在する山伏木遺跡の発掘調査報告書である。
2　調査は森泉建設工業が行う宅地造成工事に伴う記録保存を目的に佐久市教育委員会が実施した。
3　遺跡名及び所在地　　山伏木（ＳＨＹ）　　佐久市下平尾 1274-6 他
4　調査期間及び面積　　発掘作業　平成元年 6 月 28 日～ 7 月 20 日
　　整理作業　平成元年 7 月 21 日～平成 2 年 3 月 31 日
　　平成 29 年 4 月 3 日～平成 31 年 3 月 31 日
　　調査面積　1,900㎡
5　発掘作業及び平成 2 年 3 月 31 日までの整理作業については、原因者負担により実施し、平成 29 年 4 月 3 日～平成 31 年 3 月 31 日までの整理作業及び報告書刊行は全額を国庫補助金及び市費の公費により作成した。（平成 29・30 年度市内遺跡発掘調査事業）
6　本書に掲載した地図は佐久市発行の都市計画図（1：2,500）、佐久市教育委員会作成の遺跡詳細分布図（1：5,000）である。
7　本書に掲載した遺構図は簡易遣り方で作成されたものを、㈱ CUBIC「遺構君」に取り込みデジタル化し、Adobe イラストレーターで調整した。
8　遺物実測図は、当時の調査担当者が作成したものはそのまま使用し、未実測のものは手取り実測し、Adobe イラストレーターでデジタルトレースした。
9　遺構写真は当時の調査担当者が撮影したモノクロネガをスキャニングし、遺物写真はデジタル一眼レフカメラで撮影し、Adobe フォトショップで補正を行った。
10　本書の作成は Adobe インデザインを用い小林が行った。
11　本書及び発掘調査の図面・写真などの記録及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡　　例

1　遺構の略記号は竪穴住居址－Ｈ、土坑－Ｄ、集石土坑－ＳＤ、竪穴建物址－Ｔａ、ピット－Ｐである。
2　挿図の縮尺は遺構 1 ／ 80、遺物 1 ／ 4 を基本とする。これ以外のものは挿図中に縮尺を記した。
3　遺構の海抜標高は、水糸標高をスケール上に「標高」と記してある。
4　土層の色調は 1999 年版「新版標準土色帖」に基づいた。
5　調査区グリットは公共座標の区割りにしたがい、４×４ｍ間隔で設定されている。座標は旧測地系である。
6　遺物挿図番号、遺物写真番号、遺物観察表番号は一致する。
7　遺構の計測値は下図に示した部分の測定値である。面積は床面積、壁残高は最大値である。
8　挿図中の網掛けは以下の表現である。

＊ D19 号土坑 1 の土器について綿田弘実、寺内隆夫の両氏に貴重な教示を得た。記して感謝の意を表します。



竪穴住居址・竪穴建物址　　土坑　　長軸方位

目　　次

例言・凡例
目次

第Ⅰ章　発掘調査の経緯 …… 11
第１節　調査の経緯 …… 11
第２節　調査体制 …… 11
第３節　遺跡周辺の環境 …… 12
第４節　検出遺構・遺物の概要 …… 14

第Ⅱ章　遺構と遺物 …… 15
第１節　住居址 …… 15
第２節　土坑 …… 24
第３節　集石土坑 …… 43
第４節　竪穴建物址 …… 54
第５節　埋甕 …… 54
第５節　ピット …… 55
第６節　遺構外出土遺物 …… 55

第Ⅲ章　まとめ …… 57

写真図版１～28
報告書抄録
奥付

挿図目次

第１図　山伏木遺跡の位置（1：5,000） …… 11
第２図　周辺遺跡分布図 …… 13
第３図　遺跡周辺字切図 …… 14
第４図　基本層序模式図 …… 15
第５図　Ｈ１号住居址 …… 16
第６図　Ｈ２号住居址 …… 17
第７図　Ｈ３号住居址（１） …… 17
第８図　Ｈ３号住居址（２） …… 18
第９図　Ｈ４号住居址（１） …… 20
第10図　Ｈ４号住居址（２） …… 21
第11図　Ｈ５号住居址（１） …… 22
第12図　Ｈ５号住居址（２） …… 23
第13図　Ｈ５号住居址（３） …… 24
第14図　Ｈ６号住居址（１） …… 25
第15図　Ｈ６号住居址（２） …… 26
第16図　Ｈ７号住居址 …… 27
第17図　土坑１ …… 27
第18図　土坑２ …… 28
第19図　土坑３ …… 29
第20図　土坑４ …… 30
第21図　土坑５ …… 33
第22図　土坑６ …… 34
第23図　土坑７ …… 35
第24図　土坑８ …… 36
第25図　土坑９ …… 37
第26図　土坑10 …… 38
第27図　土坑11 …… 39
第28図　土坑12 …… 40
第29図　土坑13 …… 41
第30図　土坑14 …… 42
第31図　土坑15 …… 43
第33図　集石土坑 …… 45
第34図　集石土坑 …… 46
第35図　集石土坑 …… 47
第36図　集石土坑 …… 48
第37図　集石土坑 …… 49
第38図　集石土坑 …… 50
第39図　竪穴建物址（１） …… 51
第40図　竪穴建物址（２） …… 52
第41図　埋甕 …… 53

第 42 図　ピット出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
第 43 図　ピット (1) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56
第 44 図　ピット (2) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57
第 45 図　遺構外出土遺物 (1) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58
第 46 図　遺構外出土遺物 (2) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59
第 47 図　遺構外出土遺物 (3) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
第 48 図　遺構外出土遺物 (4) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61
第 49 図　山伏木遺跡全体図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 75

表目次

遺構計測表 (1) ・・・ 52
遺構計測表 (2) ・・・ 53
Ｈ１号住居址出土遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 54
Ｈ２号住居址出土遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 54
Ｈ３号住居址出土遺物観察表 (1) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 54
Ｈ３号住居址出土遺物観察表 (2) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
Ｈ４号住居址出土遺物観察表 (1) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
Ｈ４号住居址出土遺物観察表 (2) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56
Ｈ５号住居址出土遺物観察表 (1) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56
Ｈ５号住居址出土遺物観察表 (2) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57
Ｈ６号住居址出土遺物観察表 (1) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57
Ｈ６号住居址出土遺物観察表 (2) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58
Ｈ７号住居址出土遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58
Ｄ２号土坑出土遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58
Ｄ３号土坑出土遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59
Ｄ４号土坑出土遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59
Ｄ５号土坑出土遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59
Ｄ６号土坑出土遺物観察表 (1) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59
Ｄ６号土坑出土遺物観察表 (2) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
Ｄ７号土坑出土遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
Ｄ９号土坑出土遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
Ｄ 10 号土坑出土遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
Ｄ 15 号土坑出土遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
Ｄ 18 号土坑出土遺物観察表 (1) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
Ｄ 18 号土坑出土遺物観察表 (2) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61
Ｄ 18 号土坑出土遺物観察表 (3) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62
Ｄ 18 号土坑出土遺物観察表 (4) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63
Ｄ 18 号土坑出土遺物観察表 (5) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64
Ｄ 19 号土坑出土遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64
ＳＤ１号土坑出土遺物観察表 (1) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64
ＳＤ１号土坑出土遺物観察表 (2) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65
ＳＤ２号土坑出土遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65
ＳＤ３号土坑出土遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65
ＳＤ４号土坑出土遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65
ＳＤ５号土坑出土遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66
ＳＤ６号土坑出土遺物観察表 (1) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66
ＳＤ６号土坑出土遺物観察表 (2) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 67
ＳＤ７号土坑出土遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 67
ＳＤ８号土坑出土遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68
Ｔａ１号竪穴建物址出土遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68
Ｔａ２号竪穴建物址出土遺物観察表 (1) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68
Ｔａ２号竪穴建物址出土遺物観察表 (2) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69
Ｔａ３号竪穴建物址出土遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69
埋甕１出土遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69
埋甕２出土遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69
ピット出土遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69
遺構外出土遺物観察表 (1) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 70
遺構外出土遺物観察表 (2) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71
遺構外出土遺物観察表 (3) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 72
遺構外出土遺物観察表 (4) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 73

第Ⅰ章　発掘調査の経緯

第１節　調査の経緯

平成元年４月 10 日、株式会社森泉建設工業より東村遺跡群山伏木遺跡内における宅地造成事業計画に伴う埋蔵文化財発掘の届出が提出された。同年６月 26 日佐久市教育委員会と株式会社森泉建設工業は保護協議を行ない、記録保存調査を行う事となった。６月 28 日埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結し、７月 20 日に調査を終了後、平成２年３月 31 日までに、遺物洗浄・注記・調査記録の整理等の作業を完了した。

平成３０年度市内遺跡発掘調査事業の一環として本書を刊行した。

第２節　調査体制

平成元年

調査主体者	佐久市教育委員会	教育長	大井　昭二（６月退任）			
			大井　季夫（７月就任）			
事務局	佐久市教育委員会	次長	茂木多喜男			
	社会教育課	課長	北沢　馨			
		主幹	相沢　幸男			
		係長	小平　實			
		係	東城　公人	小林　正衛	林　幸彦	荻原　一馬
			山浦　俊彦	須藤　隆司	羽毛田卓也	竹原　学
			田村　和弘			

第１図　山伏木遺跡の位置（1：5,000）

調査担当者	須藤　隆司	竹原　学			
調査主任	佐々木宗昭				
調査員	浅沼ノブ江	飯沢つや子	磯貝　はな	市川　香里	
	大井　文雄	柏原　松枝	金井八重子	香山　優子	
	小金沢たけみ	堺　益子	白井おくに	内藤　治伸	
	藤巻　辰江	丸山　勝子	丸山　澄	渡辺久美子	

平成 29・30 年度

調査主体者	佐久市教育委員会	教育長	棚澤　晴樹			
事務局	社会教育部	部長	荻原　幸一（29 年度）	青木　源（30 年度）		
	文化振興課	課長	小林　義夫			
		企画幹	小林登志朗（29 年度）	武者新一（30 年度）		
	文化財調査係	係長	大塚　広樹（29 年 9 月まで）			
			塩川　宏幸（29 年 10 月から）			
		係	小林　眞寿	冨沢　一明	上原　学	久保浩一郎
			岩下　琴			
		臨時職員	森泉かよ子			
		調査担当者	小林　眞寿			
		調査員	甘利　隆雄	大矢　志慕	小林喜久子	小林　敏雄
			堺　益子	清水　律子	田中ひさ子	花岡美津子
			堀籠　滋子	宮川真紀子	山口ひとみ	柳沢　孝子
			柳沢千賀子	山田　叔正	油井　満芳	

第３節　遺跡周辺の環境

１遺跡の地理的環境

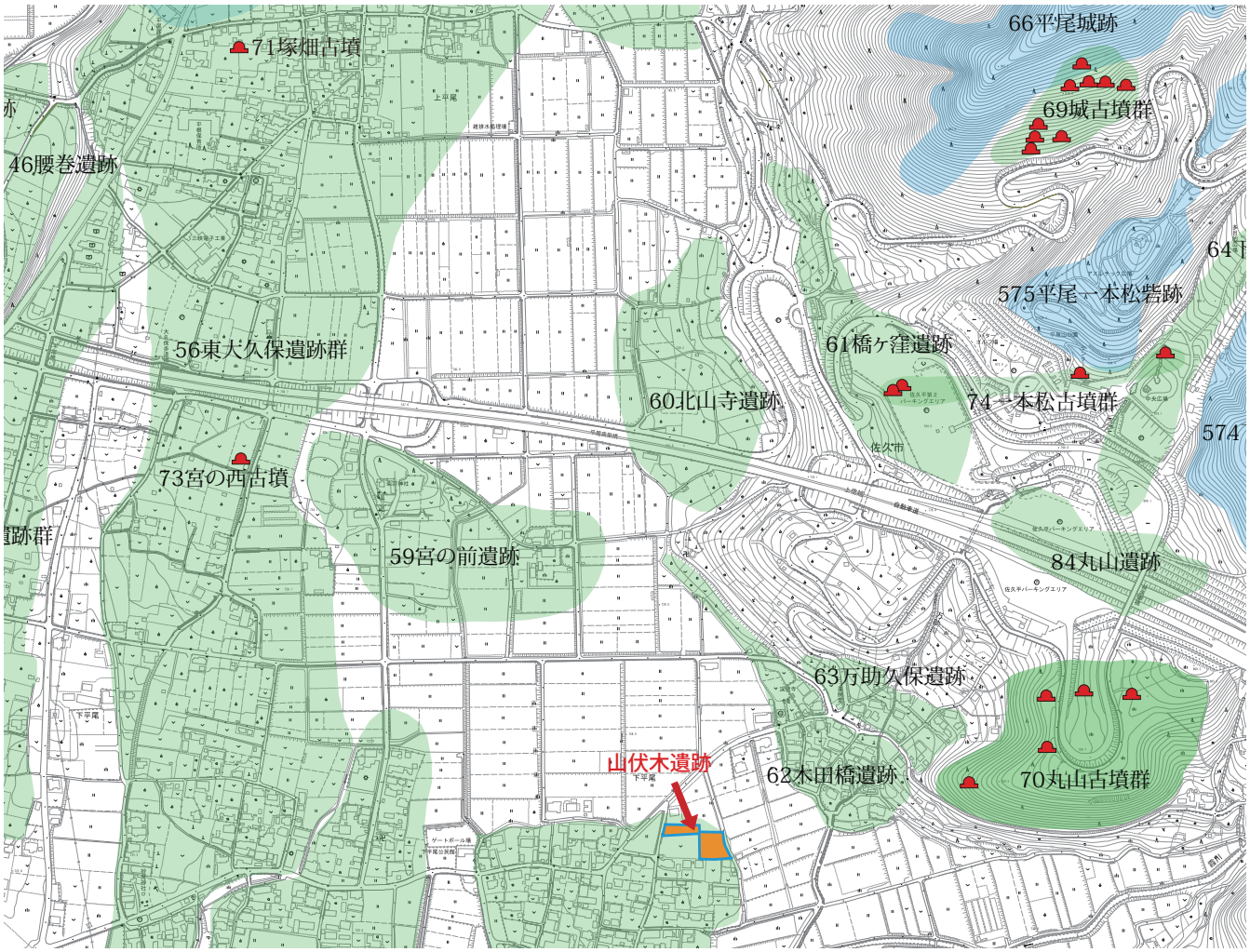
遺跡は、佐久山塊の北半部にあたる東部山地の主峰の一つである八風山から西に延びる尾根端部に位置する平尾富士の裾野に湯川により形成された沖積段丘面に立地する。標高は７２０m台であり、東側の平尾富士の裾野には万助川が南に向かい流下し、途中で閼伽流山より南流した霞川と合流する。下平尾から安原、新子田にかけての香坂川に至る平尾用水東側の水田開発はこの二河川により成し遂げられたものと思われる。東部山地の基盤層は初谷中生層で、その上部に第三紀層類が厚く堆積し、更にその上部に溶結凝灰岩類や荒船火山岩類が分布している。荒船山の台地状地形を形成しているのは、石器石材として使用されるガラス質の安産岩である。また、平尾富士は第三紀火山の死火山であり、これに由来する火山岩類は平尾富士山頂付近から北は湯川左岸、西部は平尾集落、南は霞川まで分布する。遺跡が存在する平地面は地質的には、浅間火山の軽石流二次堆積物に覆われている。土壌は黒ボク土で、植生は水田の雑草群落である。

２遺跡の歴史的環境

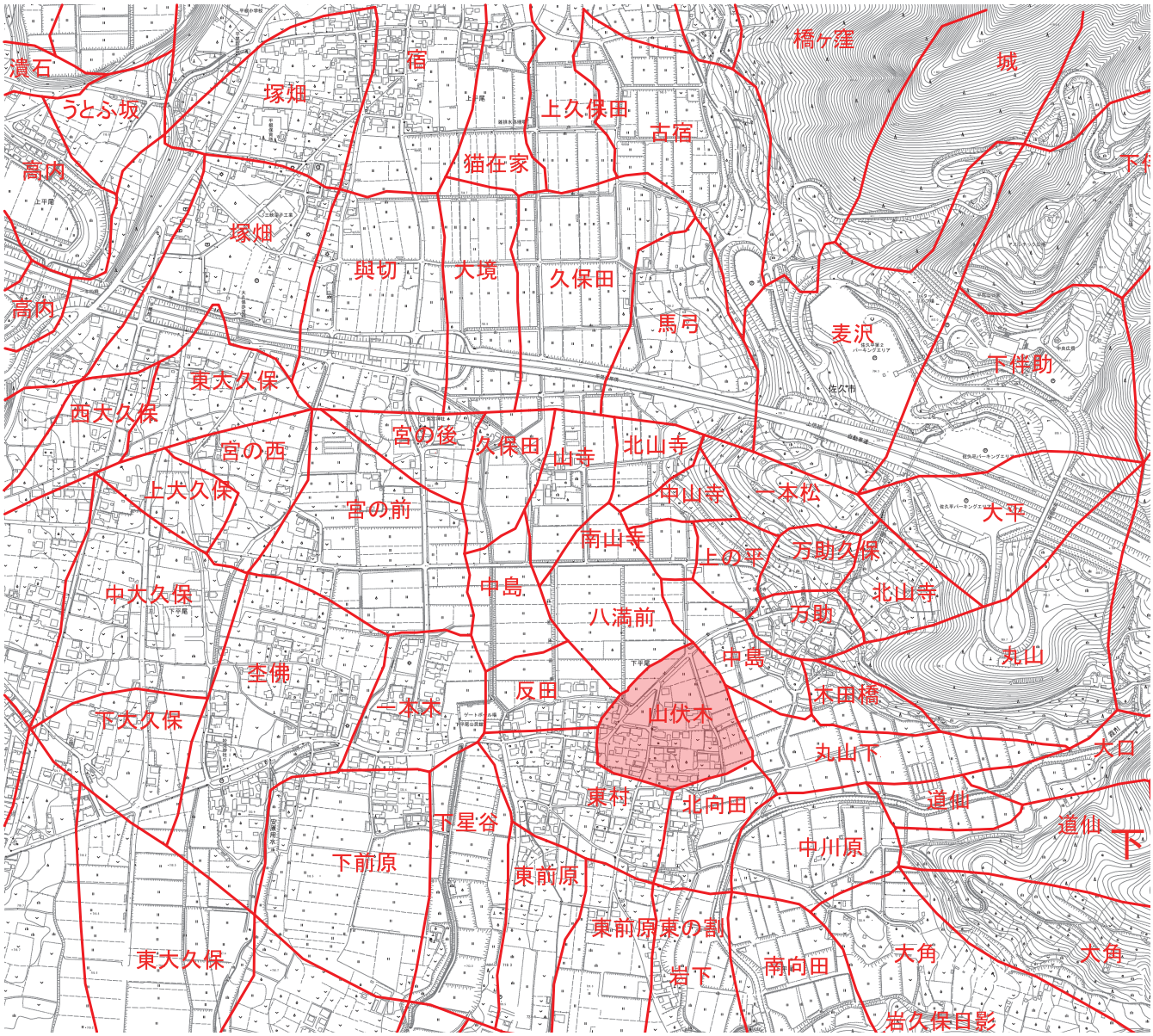
遺跡の東方の山地には数多くの古墳群が存在する。その内の大星尻古墳は昭和６３年に上信越自動車道の工事に伴い長野県埋蔵文化財センターが、また一本松古墳群の１号～４号墳は平成４・５年平尾山のスキー場開発に伴い佐久市教育委員会が調査を行っている。これら５基の古墳は全て８世紀の築造であった。上信越自動車道に伴う長野県埋蔵文化財センターの調査は、大星尻遺跡・丸山遺跡・北山寺遺跡・東大久保遺跡・西大久保遺跡で行われており、大星尻遺跡では縄文時代中期前葉～中葉の遺構・遺物や近世墳墓などが検出されている。丸山遺跡からは縄文時代中期初頭や古墳時代前期初頭、平安時代の住居址等が発見されている。北山寺遺跡では平安時代後葉の集落、および中世の遺構群と、近世の墓域が検出されている。東大久保・西大久保の両遺跡では縄文～中世の遺物と、土坑や溝址などの少数の遺構が検出されている。平尾山のスキー場開発に伴っては、下伴助Ａ・Ｂ遺跡から縄文から中世にかけての遺構・遺物が検出されており、下伴助Ａ遺跡では平安時代の集落が発見され

ている。距離的には遺跡からは少し離れるが、西方の一段低い湯川の河岸段丘上に立地する腰巻遺跡では昭和６２年佐久市埋蔵文化財調査センターが、また昭和６２・６３年には長野県埋蔵文化財センターによる調査が実施されており、弥生・古墳・平安時代の集落址が検出されている。発掘調査で出土したものではないが、昭和５３年刊行の「平根村誌」に菖蒲平出土の両面加工の石槍が掲載されている。この地域で出土した最も古い時代の遺物であろう。発掘調査されたものは少ないが、周辺部には中世城郭が多く存在する。遺跡の北東に位置する平尾城とその関連施設や、遺跡南方に位置する燕城址、遺跡北方の白岩城跡などである。白岩城跡が平尾氏の居館跡、平尾城が山城とされる。平尾城の縄張想定図は数例が公表されているが、終戦直後の昭和２３年米軍により撮影された航空写真を見ると、平尾城に限らず東信濃の山城縄張図は、大きな地形変化面以外はあくまでも参考に留めるべきだと考える。現在は山林であるが、当時は農地や木材の搬出路として山の斜面が使用されている状況が顕著である。平尾氏は、芦田・平原・相木氏などと同じ依田氏である。依田氏は、滋野氏が海野・祢津・望月の三氏に分かれるより以前に滋野氏より出た一族とも言われる。平尾氏関係の居館（白岩城跡）や山城（平尾城等）は１５世紀中葉～１６世紀末の年代のものであり、そのような背景から、この時期の遺構・遺物がこの地域に散見されるものと思われる。

字切図からみると宮の前・宮の後・宮の西など柴宮神社に係る字名が目に付く、諏訪社であるが毎年の例祭には新柴の仮殿をつくり神体を奉安して祭りをすることから柴宮と呼ばれる。圃場整備により周辺の地形は壊変されているが、かなり大規模な方形の区画が読み取れる。創建年代は不明であるが、神社ではなく、館の可能性もあるのではないだろうか。高速道南の寺地名－北山寺・中山寺・南山寺・山寺はかって存在した寺に由来するものであろう。北山寺という字名は渓徳寺西の山中にも存在する。伝承では猫在家にはかって五間四方の塚があり「猫塚」と呼んだそうである。古墳であろうか？また、在家が集落を表すのか館や屋敷を表すのか、注意が必要である。山伏木と言う地名は山間に連なる集落のような意味らしい、東の丸山から続く傾斜面の裾野を言い表したものであろうか。この地域は、現行政区的には下平尾であるが、どちらかといえば安原方面の安養寺や英田神社の関係で捉えたほうが良い場所と思われる。また、新海神社の「神幸」神事に上平尾神幸があることも、この



第２図　周辺遺跡分布図



第３図　遺跡周辺字切図

地域の開発が古いことを物語っている。

３基本層序

基本層序は３層からなる。Ⅰ層は耕作土で黒褐色（10YR3/2）を呈する。Ⅱ層は黒色土（10YR2/1）で、ローム粒・パミスを含む。Ⅲ層は暗褐色（10YR3/3）で径２センチ以下のパミス・ローム粒子を多含する。Ⅳ層が所謂「地山」であり、浅間火山の第一軽石流の堆積層である。遺構の検出は基本的に、Ⅳ層上面でで行った。

第４節　検出遺構・遺物の概要

検出された遺構・遺物の概要は以下のとおりである。

○遺構　竪穴住居址－７軒（縄文・平安）、土坑－２０基、集石土坑－８、埋甕－２、竪穴建物址－５
　　ピット－４２基

○遺物　縄文土器、土師器、石器、陶磁器

第Ⅱ章　遺構と遺物

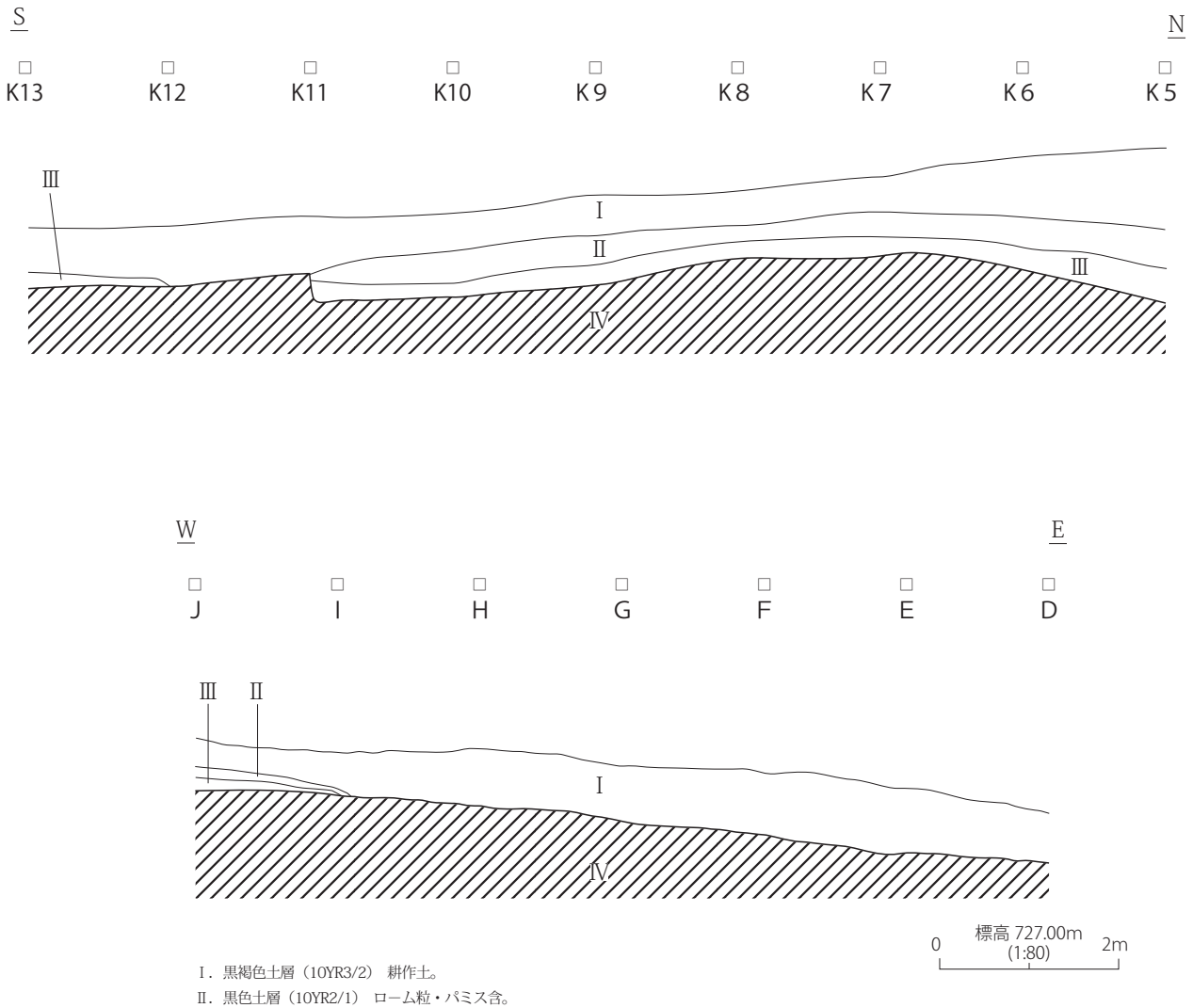
第１節　住居址

○Ｈ１号住居址（第５図）

Ｑ３グリットで検出された。Ｐ９・31・38号ピットに切られ、主軸をＮ－22°－Ｗにとる。平面形態は隅丸長方形を呈する。長軸長3.81ｍ、短軸長3.38ｍ、壁残高0.11ｍ、面積12.19㎡の規模を有する。カマドは北壁の東よりに存在するが、掘方状態に破壊されていた。西壁下には周溝が巡り、床面は幅約90㎝ほど他の床面よりも高くなっている。土層の観察からは住居の建て替えや、遺構の重複関係は認められないことから、所謂「ベッド状遺構」と思われる。ピットは掘方も含め３基検出されているが、主柱穴ではない。

遺物は土師器と石器が出土している。土師器には坏・坏蓋・武蔵甕が認められる。坏はロクロ成型で底部を欠損するが、外底周縁にヘラケズリが施される。内面は黒色処理である。坏蓋は須恵器の模倣形態である。佐久市内の遺跡では、この時期だけ須恵器模倣形態の土師器坏蓋が存在する。内面ヘラミガキ後黒色処理、つまみは貼り付けられている。武蔵甕は「コ」字口縁である。石器は打製石斧、横刃型石器、磨石、砥石が出土している。８の磨石、９の砥石は本址に伴う可能性が強いが、他は縄文時代の石器であり混入品と思われる。

以上の出土遺物の特徴から本址は聖原編年の奈良・平安時代Ⅴ期－９世紀前半の所産と考えられる。



Ⅰ．黒褐色土層（10YR3/2）　耕作土。
Ⅱ．黒色土層（10YR2/1）　ローム粒・パミス含。
Ⅲ．暗褐色土層（10YR3/3）　φ２㎝以下パミス・ローム粒多含。
Ⅳ．浅間火山第一軽石流。

第４図　基本層序模式図

○Ｈ２号住居址（第６図）

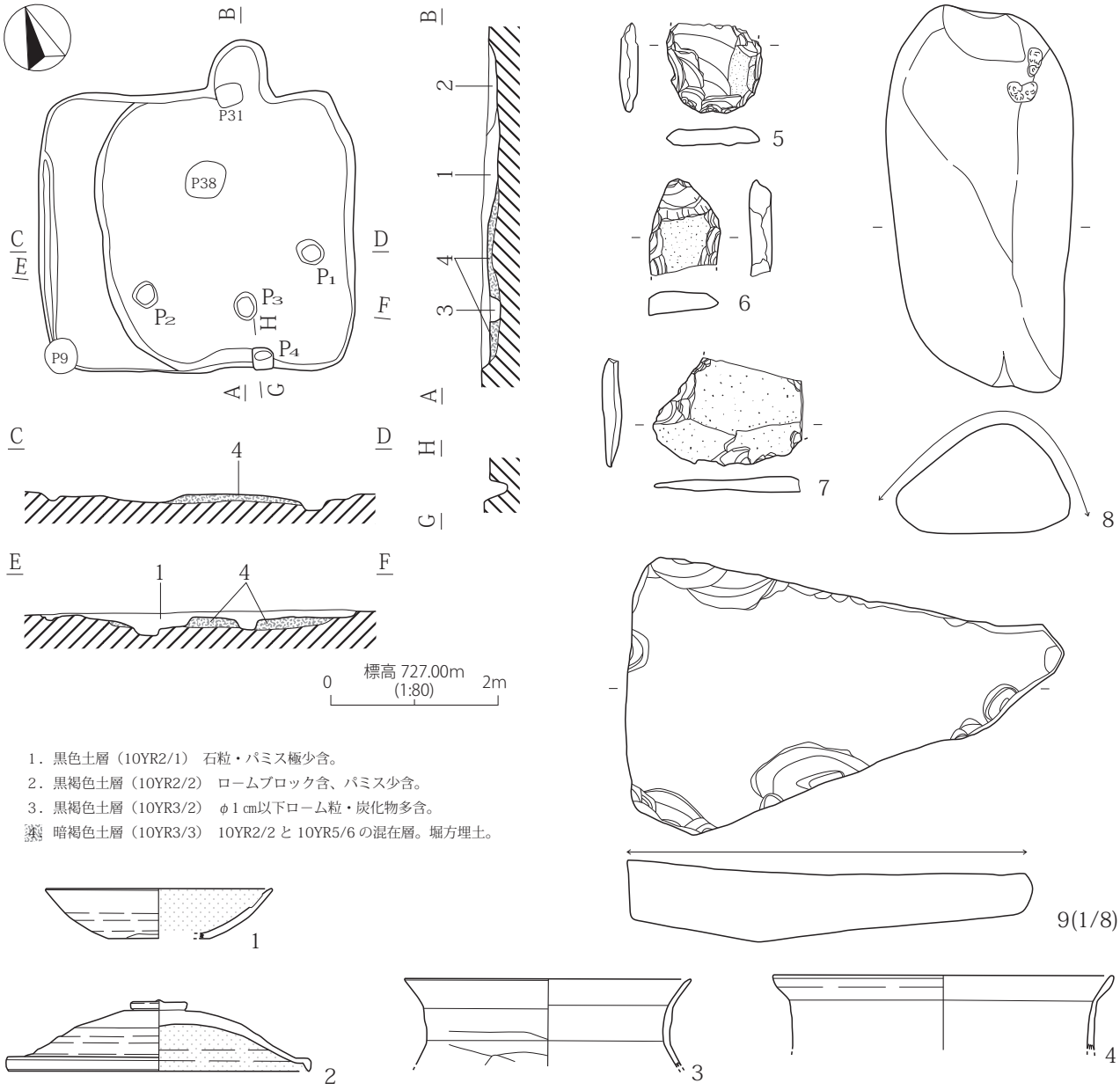
Ｎ４グリット周辺で検出された。Ｐ２・３・39・40号ピットに切られ、ほぼ真北に主軸をとる。北西隅が北東隅よりも張り出し、南北方向の中央部分が窄まる不整な隅丸長方形の平面形を呈する。長軸長 3.11 m、短軸長 2.93 m、壁残高 0.07 m、面積 8.17㎡の規模を有する。カマドは北壁の中央部分に存在するが、掘方状態に破壊されていた。ピットは掘方も含め１基しか検出されていない。周溝は有さない。

遺物は土師器と須恵器が出土している。土師器には坏・甕の器種が認められる。坏のロクロからの切り離しは回転糸切であるが、その後周縁部分も含めヘラケズリ調整を加えている。内面はヘラミガキ後に黒色処理が施される。２の外面には墨書が認められるが判読できない。甕は武蔵甕とロクロ甕が出土している。須恵器は短頸壺が１点出土している。

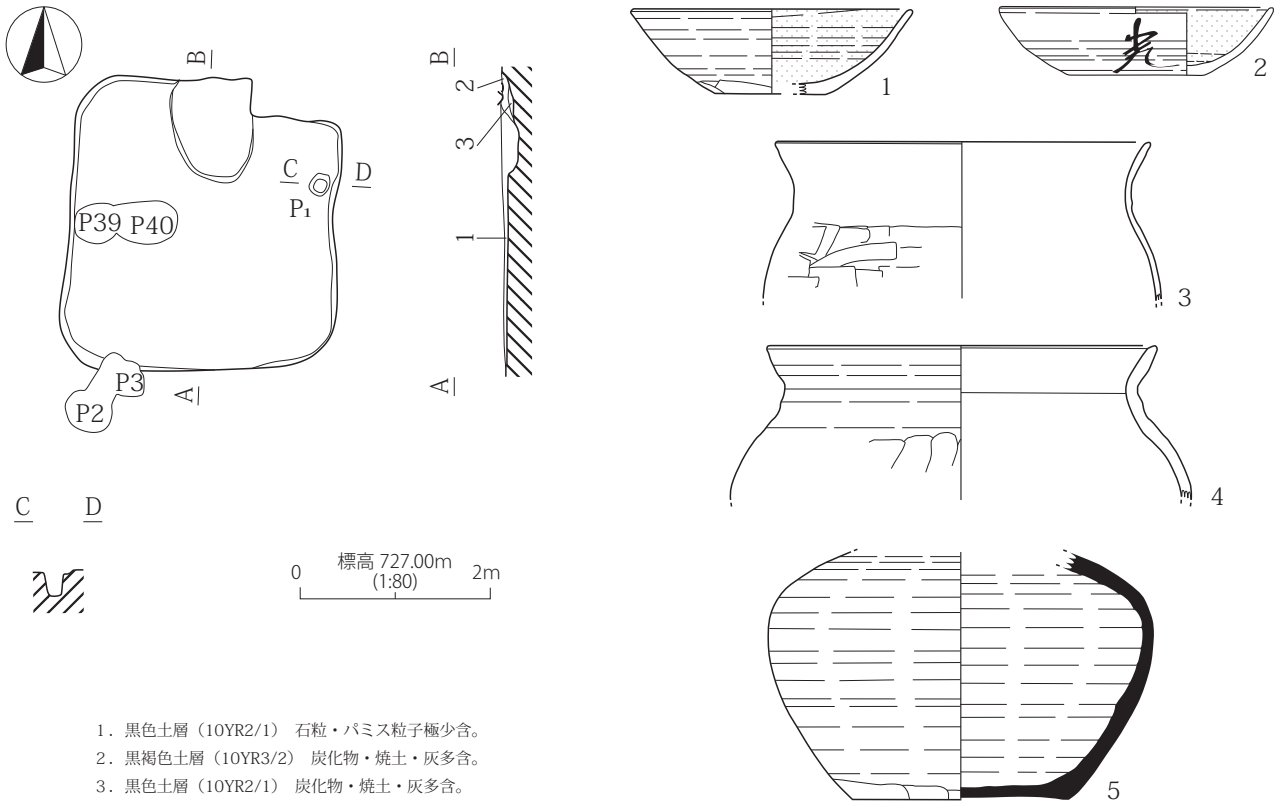
以上の出土遺物の特徴から本址は聖原編年の奈良・平安時代Ⅴ期－９世紀前半の所産と考えられる。

○Ｈ３号住居址（第７・８図）

Ｎ３グリット周辺で検出され、他遺構との重複関係は有さない。ほぼ真北に主軸をとる隅丸方形の平面形を呈する。長軸長 4.02 m、短軸長 3.87、壁残高 0.24 m、面積 12.2㎡の規模を有する。カマドは北壁中央部分に構

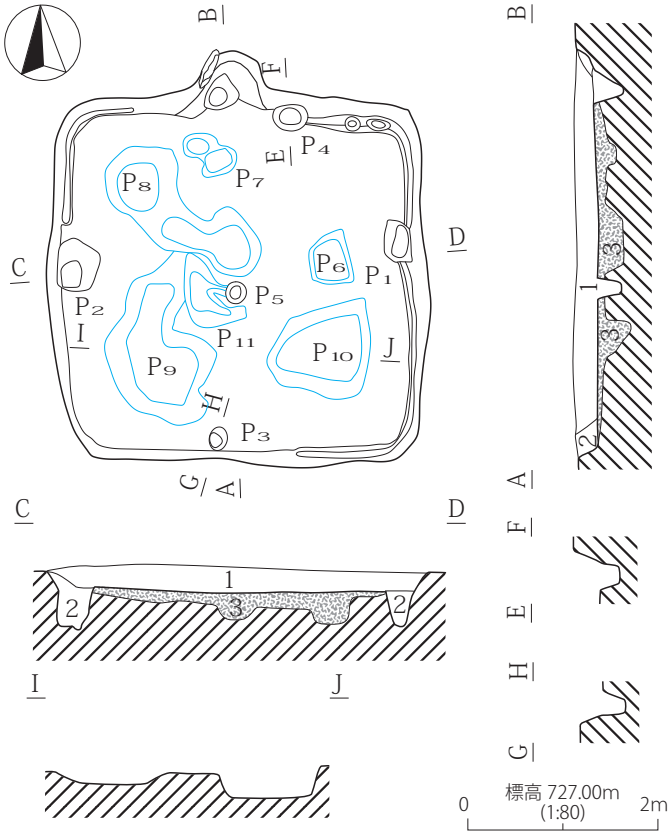


第５図　Ｈ１号住居址



1．黒色土層（10YR2/1） 石粒・パミス粒子極少含。
2．黒褐色土層（10YR3/2） 炭化物・焼土・灰多含。
3．黒色土層（10YR2/1） 炭化物・焼土・灰多含。

第６図　Ｈ２号住居址

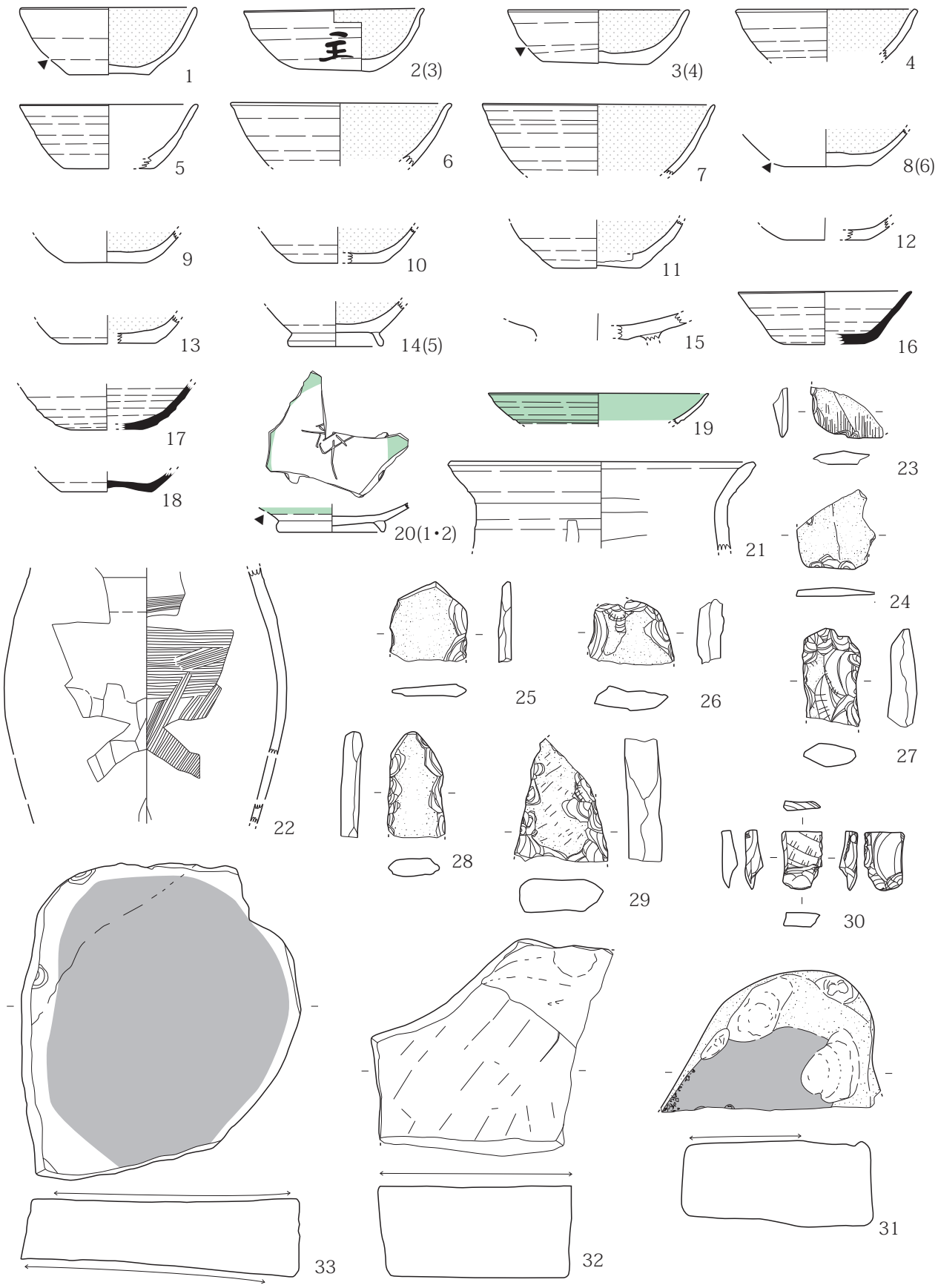


1．黒色土層（10YR2/1） φ２㎝以下パミス多含。
2．褐色土層（10YR4/4） ロームブロック含。
3．暗褐色土層（10YR3/3） 貼床・堀方埋土。ローム粒子・パミスを含む。

第７図　Ｈ３号住居址（１）

築されるが、掘方状態に破壊されていた。南壁下中央から西壁下中央部分を除く壁下には周溝が巡らされている。P1・P2 が主柱穴である。このような、短軸の相対する２辺の壁中央部分に主柱を配置する形態は、奈良時代の小型の住居址には散見されるが、平安時代では本期に特徴的な形態である。P3 は出入口施設と思われるが、掘方検出のものも含め、他は性格不明である。カマドは煙道部分の構築材と思われる石が１点だけ残存しており、石芯を粘土で被覆した石組粘土カマドであったものと思われる。

遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、石器が出土している。土師器には坏・碗・甕の器種が認められる。坏・碗のロクロからの切離しは回転糸切で、内面には黒色処理が施される。碗の高台は貼付である。15 の碗については盤の可能性もあるが、残存部分が限られるため判断できない。坏２の外面には「主」の墨書が認められる。甕は２点共ににロクロ甕で体部上半はロクロナデ、下半にはヘラナデが施される。通常はナデ調整により消去されるため痕跡は残らないが、成型には叩きが用いられる。須恵器は坏が３点出土している。ロクロからの切離しは回転糸切で、16 は内外面に火襷痕が認められる。灰釉陶器は碗が２点出土した。施釉はつけ掛けである。20 の見込みには「財」の一字が刻書されている。石器は打製石斧・加工痕のある剥片・磨石・砥石が出土している。磨石・砥石は本址に伴う可能性があるが、他は縄文時代の


1
2(3)
3(4)
4
5
6
7
8(6)
9
10
11
12
13
14(5)
15
16
17
18
19
20(1・2)
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33

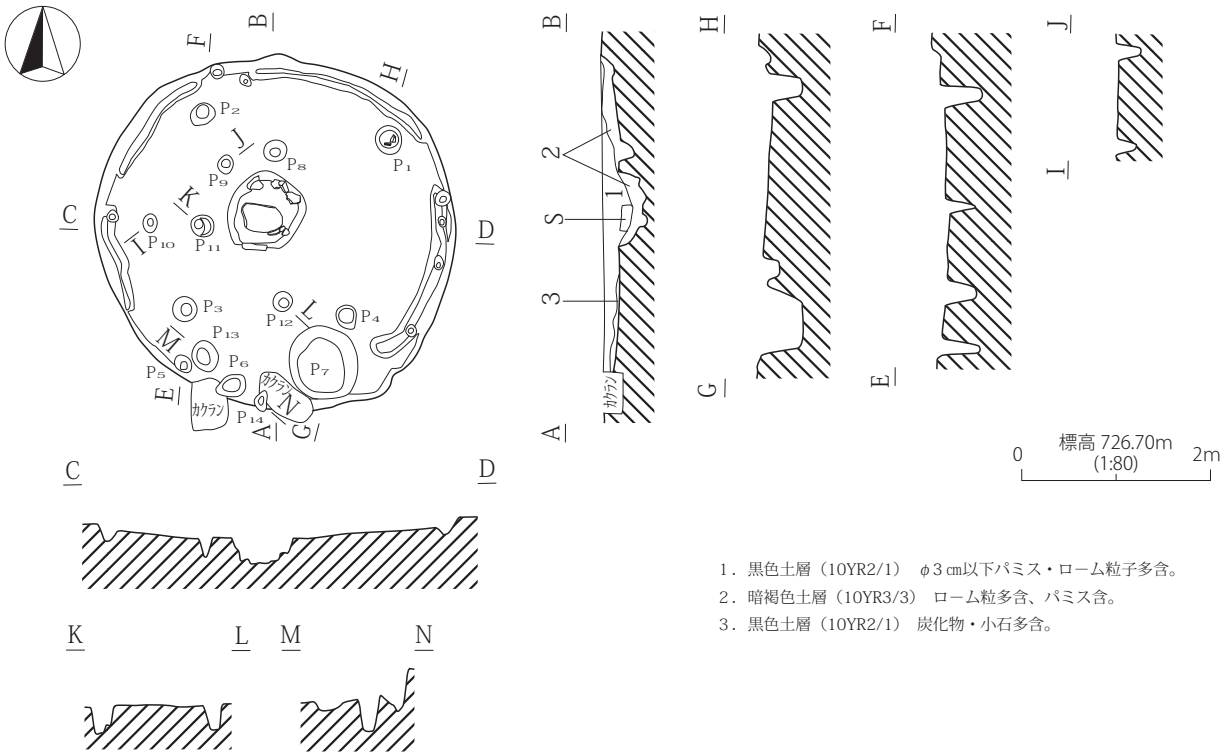
第８図　Ｈ３号住居址（２）

石器であり混入品である。
　以上の出土遺物の特徴から本址は聖原編年の奈良・平安時代Ⅴ期－９世紀前半の所産と考えられる。

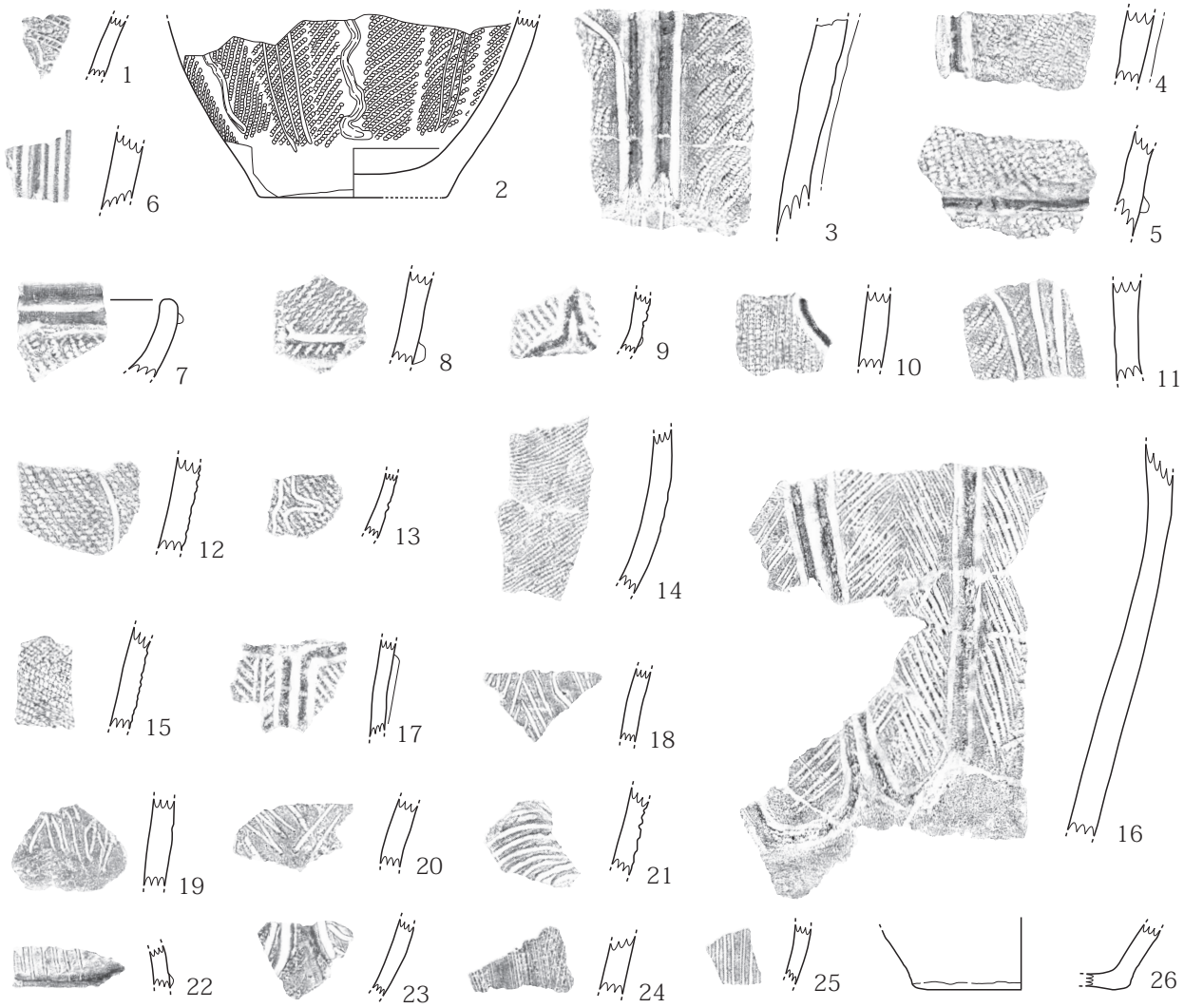
○Ｈ４号住居址（第９・10図）
　Ｉ 11グリット周辺で検出され、カクランに切られるが他遺構との重複関係は有さない。主軸をＮ－21°－Ｅにとる。平面形態は円形を呈する。長軸長3.69 m、短軸長3.51 m、壁残高0.13 m、面積9.34㎡の規模を有する。14基検出されたピットのうち、P1～P4の４基が主柱穴で、P5・P6が出入口施設に伴うものと思われる。出入口部分以外の壁下には周溝が巡らさており、貯蔵穴と思われるP7が出入口の東脇の壁下に存在する。炉は本来方形の石囲炉であったと思われるが、炉石が抜き取られ掘方状態になっていた。位置的には住居の中心からやや北西に偏って構築されていた。屋内埋甕は存在しなかった。
　遺物は縄文土器、土師器、石器・石製品が出土している。縄文土器は１～34までの34点が出土しているが、２以外は破片である。時期的には１と15が前期、27～34が中期末から後期初頭の他は中期後半のものである。中期後半以外の土器は混入品と思われるが、中期末～後期初頭のものは数量的にもまとまっており、本址を切る遺構に伴っていたのかも知れないが､遺構は把握出来なかった。中期後半の土器は加曽利Ｅ式が11点と最も多く、次いで所謂「郷土式」が５点､、唐草文系が３点、曽利式が２点である。加曽利Ｅ式にはＩとⅡ式が存在するが、Ⅱが大半を占めている。前期の土器片は１が諸磯ｂ式、15は羽状縄文が施されるが、胎土に繊維は含まない。中期末後期初頭の土器は微隆帯文のものと帯縄文のものが存在する。土師器35は混入品で、内面黒色処理が施される鉢である。石器・石製品には打製石斧、磨・敲石、石皿、加工痕のある剥片が出土している。打製石斧は28以外の２点は破損している。磨・敲石は１面を磨り面として使用しているが、側面に敲打痕が認められる。石皿は２点共に定型化した石皿の形態ではないが、表裏２面に顕著な使用痕が認められる。加工痕のある剥片はガラス質安産岩製で側辺の１辺に加工を加え刃部を造り出している。
　以上の出土遺物の特徴から本址は縄文時代中期後半加曽利ＥⅡ式期の所産と考えられる。

○Ｈ５号住居址（第11～13図）
　Ｇ 10グリット周辺で検出され、Ta2・3・4・5、JD3・カクランに切られる。主軸をＮ－13°－Ｗにとる。平面形態は円形を呈する。長軸長5.33 m､短軸長4.9 m､壁残高0.14 m､の規模を有する。16基検出されたピットのうち、P1～P7が主柱穴と思われる。調査範囲部分の壁下には周溝が巡らされている。炉は住居の中心やや北よりに構築されているが、炉石は全て抜き取られており掘方状態であった。炉の東側は長方形に、炉を含め床面よりも僅かに深くなっていた。
　遺物は縄文土器、石器・石製品・鉄器・鉄製品が出土している。縄文土器には深鉢と浅鉢の器種が認められる。深鉢は１～５・14～17が中期後半加曽利ＥⅡ式、11がＥⅠ式、６・７・12・13・19は加曽利Ｅ式であるが時期を特定できないものである。10・23は中期後半曽利式で、10はⅠ式である。８・９・21・25は中期後半の土器ではあるが、それ以上の細分ができないものである。20の勝坂式、22・24の焼町土器は中期中葉の土器であり混入品と思われる。浅鉢はほとんどものに赤採が施されている。中期後半のものであるが、それ以上の細分は出来ない。石器・石製品には石鏃、石錐、打製石斧、凹・磨・敲石、磨石、台石、横刃型石器、加工痕のある剥片の器種がある。定型化した形態の石器は少なく、33の石鏃や35の石錐、36の打製石斧、37の凹・磨・敲石だけであり、他は用途に合った石材をそのままで使用しているような印象である。石材的には打製石器の大半はガラス質安山岩を用いており、小型の石器である石鏃や石錐に黒曜石を用いている。鉄器・鉄製品は角釘が１点出土している。混入品である。
　以上の出土遺物の特徴から本址は縄文時代中期後半加曽利ＥⅡ式期の所産と考えられる。

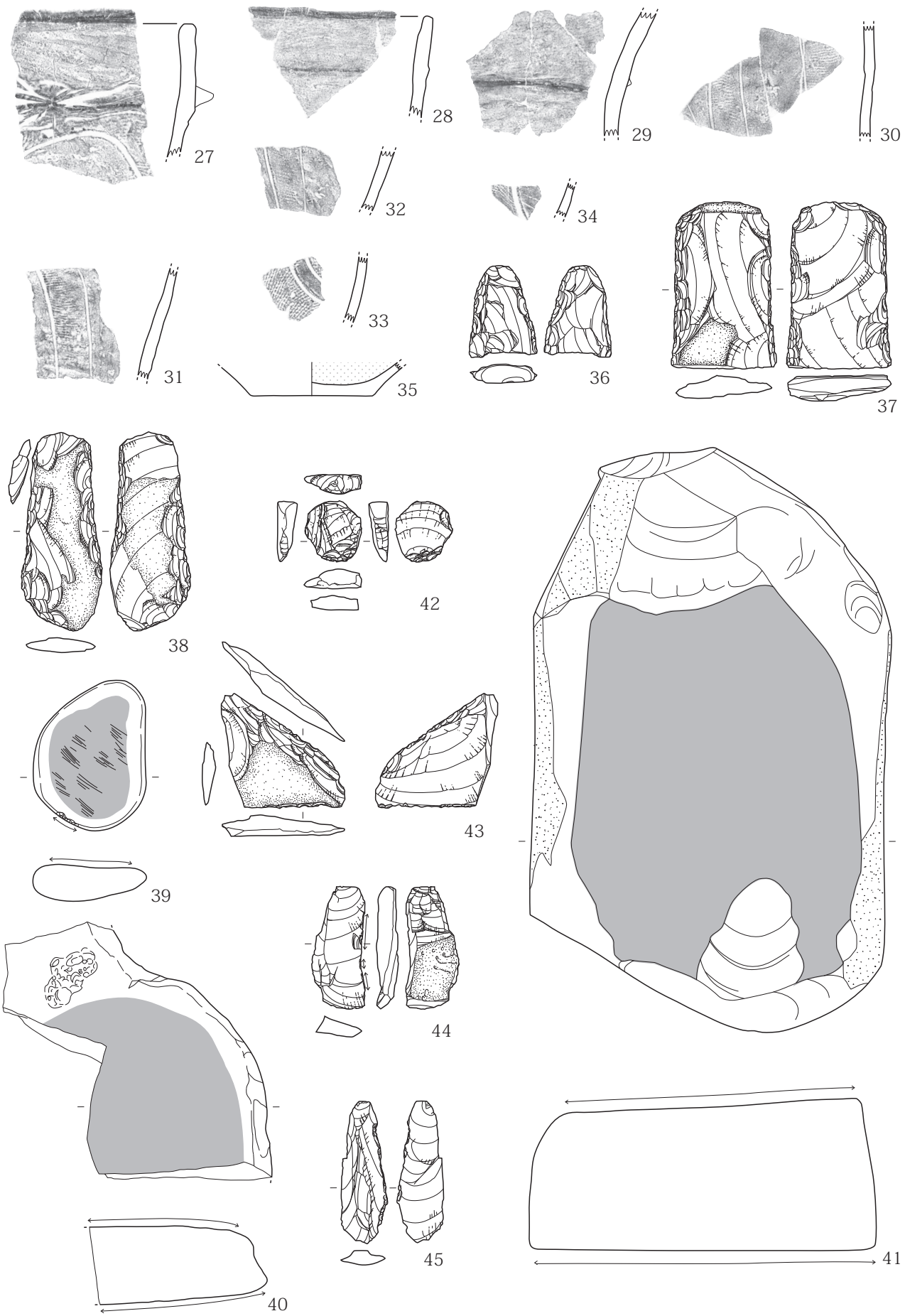
○Ｈ６号住居址（第14・15図）
　Ｆ６グリット周辺で検出された。カクランに切られる以外は他遺構との重複関係は有さない。主軸をＮ－23°－Ｗにとり､円形の平面形態を呈する。長軸長4.88 m､短軸長4.85 m､壁残高0.32 m､の規模を有する。ピットは15基検出されたが主柱穴は判然としない。周溝は有さない。炉は住居の中心に構築されているが、炉石は全て抜き取られており掘方状態であった。
　遺物は縄文土器、石器・石製品が出土している。縄文土器には深鉢、浅鉢、釣手の器種が認められる。深鉢１は総期末「塚田式」の深鉢であり、混入品である。２～９・11は「焼町土器」、10・14～16・18～20は「勝坂式」土器である。勝坂式土器には14・15のような新道式段階のものも混入するが、井戸尻Ⅰ式段階のものが主体である。共伴する焼町土器も寺内の「川原田Ⅳ・Ⅴ期」のものである。尚、14については土器片円盤とし



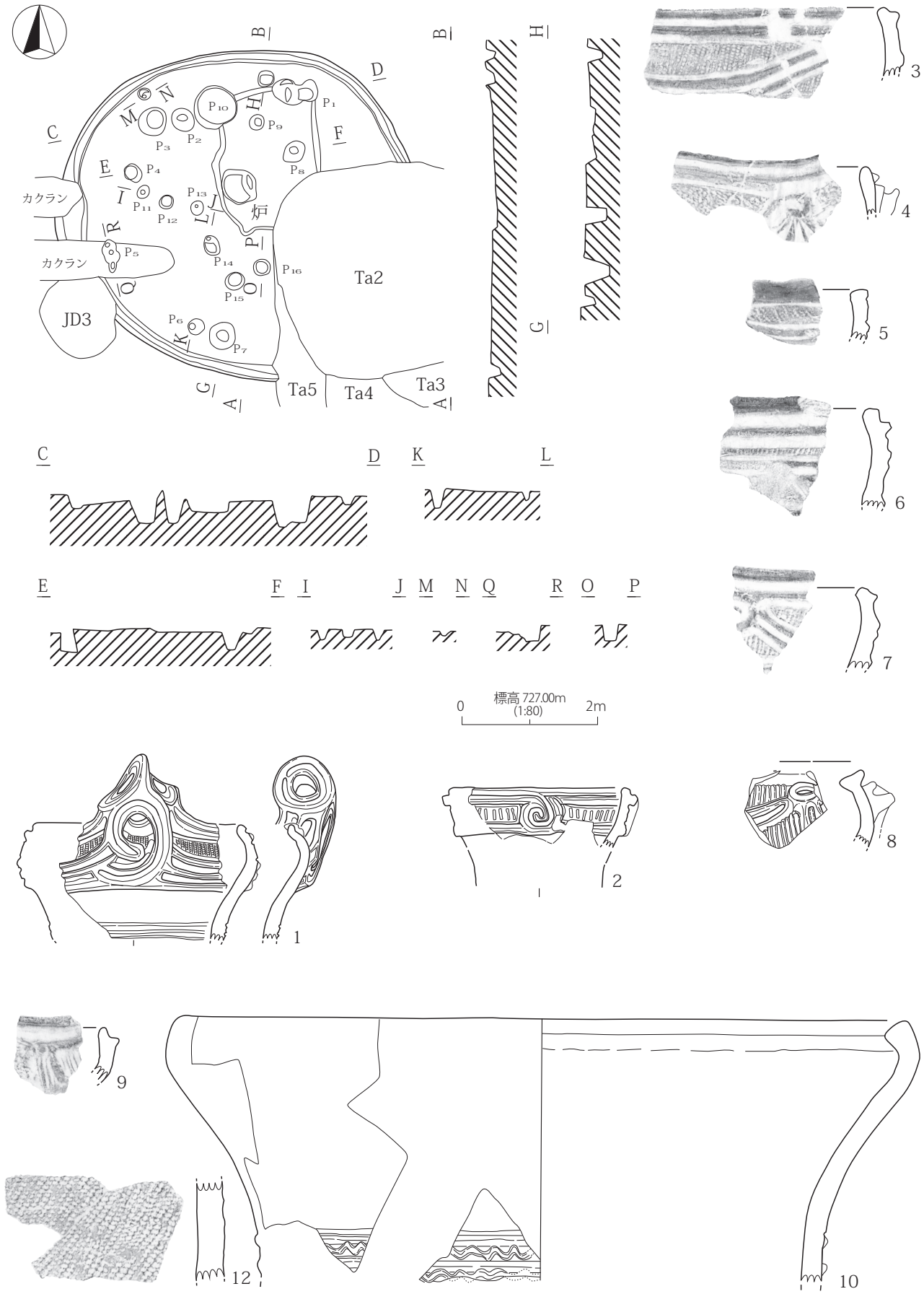
1．黒色土層（10YR2/1）　φ３㎝以下パミス・ローム粒子多含。
2．暗褐色土層（10YR3/3）　ローム粒多含、パミス含。
3．黒色土層（10YR2/1）　炭化物・小石多含。



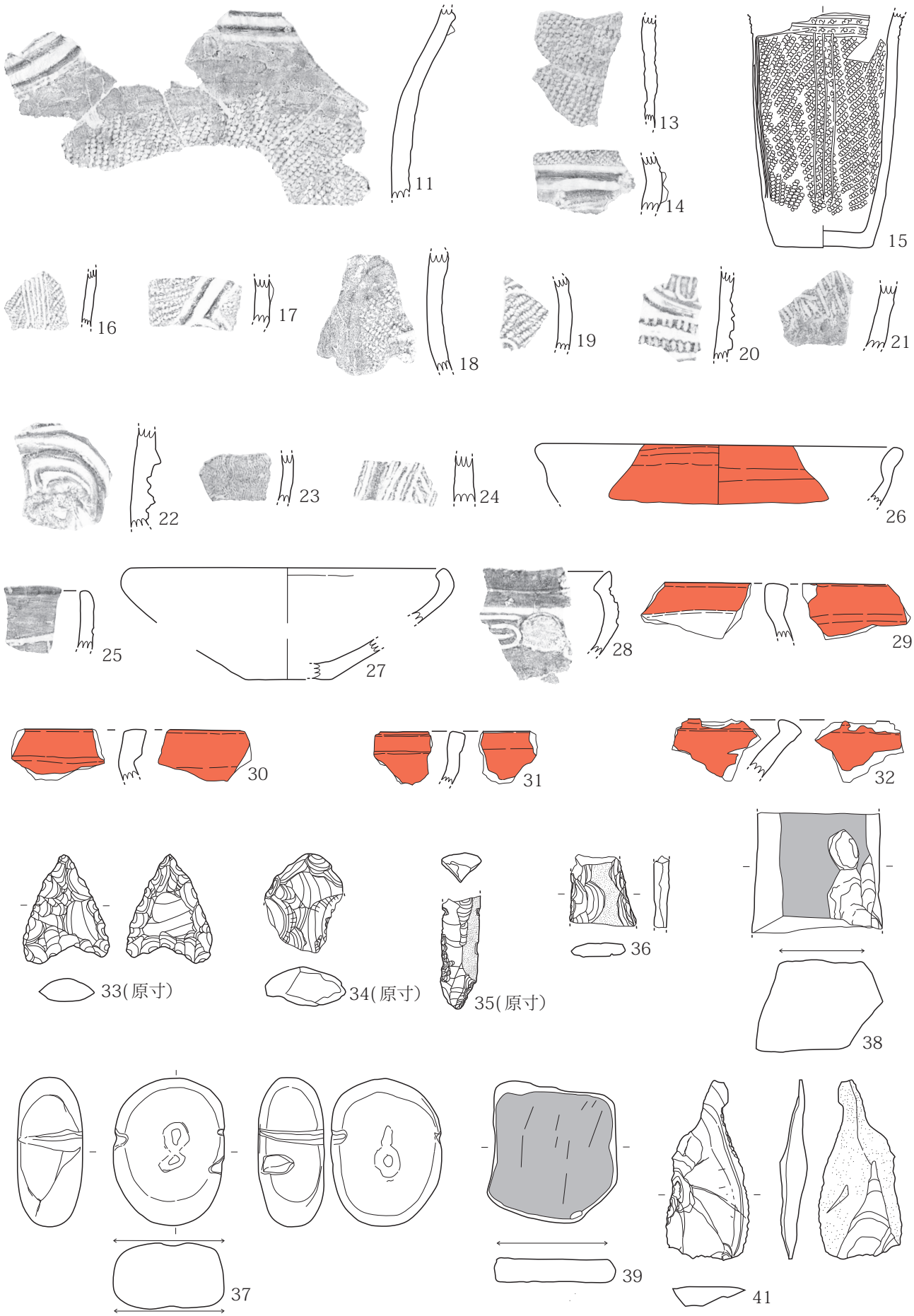
第９図　Ｈ４号住居址（１）



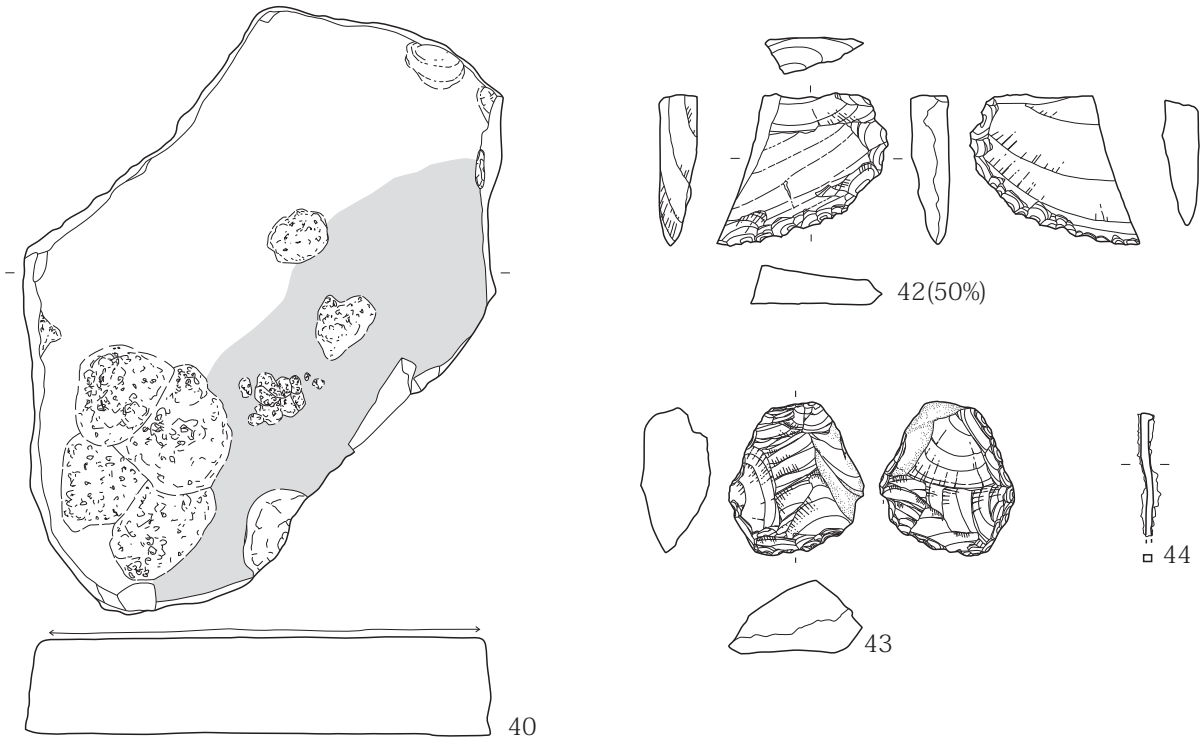
第 10 図　Ｈ４号住居址（２）



第 11 図　Ｈ５号住居址（１）



第 12 図　Ｈ５号住居址（２）



第 13 図　Ｈ５号住居址（３）

て捉えた方がよいのかもしれない。浅鉢は基本的に赤彩が施される。無文のものが多く時期は特定できないが、22 のような有文のものも存在する。勝坂式の深鉢と同時期と捉えられよう。28 の釣手は破片であり全容は不明であるが、口唇部の文様要素から本址に伴う時期のものと推測される。石器・石製品には石鏃、打製石斧、ピエス・エスキーユ、加工痕の有る剥片、磨石、磨・凹石の器種が認められる。小型の石器である石鏃やピエス・エスキーユは黒曜石製であるが、他の打製石器の多くはガラス質安山岩製である。40 は頁岩製であり、駒込頁岩の可能性を有する。

以上の出土遺物の特徴から本址は縄文時代中期中葉勝坂Ⅳ期の所産と考えられる。

○Ｈ７号住居址（第 16 図）

Ｉ５グリットで検出された。北方向に調査区外に延びるため全容は不明である。調査範囲においては他遺構との重複関係は有さない。壁残高 0.29 mの規模である。６基検出されたピットのうち、P6 は主柱穴の可能性が高い。床面上で１基検出された土坑は本址に伴うものと思われるが、性格は不明である。調査範囲には周溝や炉は存在しなかった。

遺物は縄文土器と石器・石製品が出土している。縄文土器には深鉢と浅鉢の器種が認められる。深鉢は全て破片資料であるが､時期的には時期的には中期後半以外のものは含まれない。１は加曽利Ｅ式､２は所謂「郷土式」であるが、３・４については特定できない。浅鉢は無文の底部である。赤彩は認められない。石器・石製品は打製石斧と使用痕のある剥片が出土している。

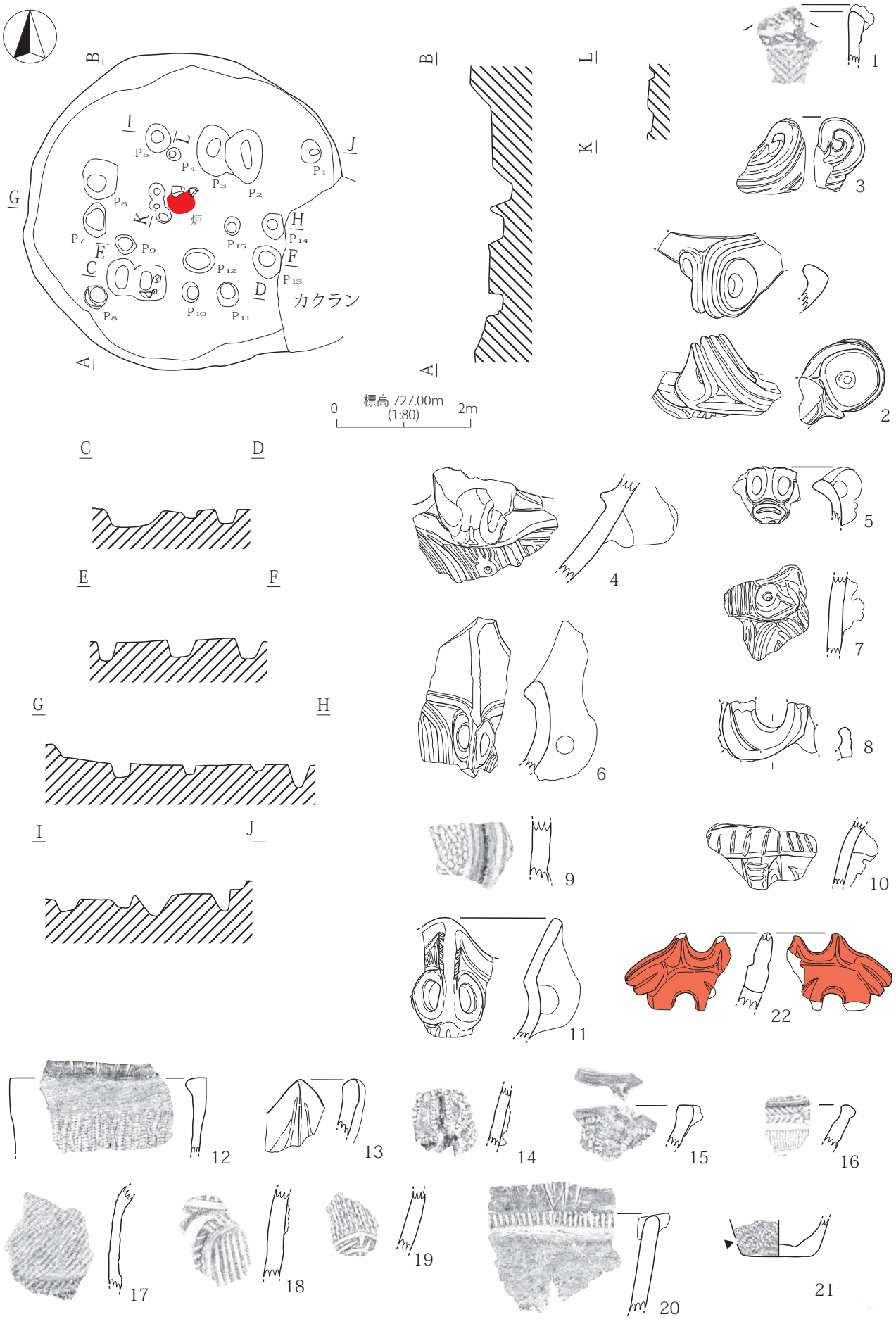
以上貧弱な出土遺物ではあるが、その特徴から本址は縄文時代中期後半の所産と考えられる。

第２節　土坑

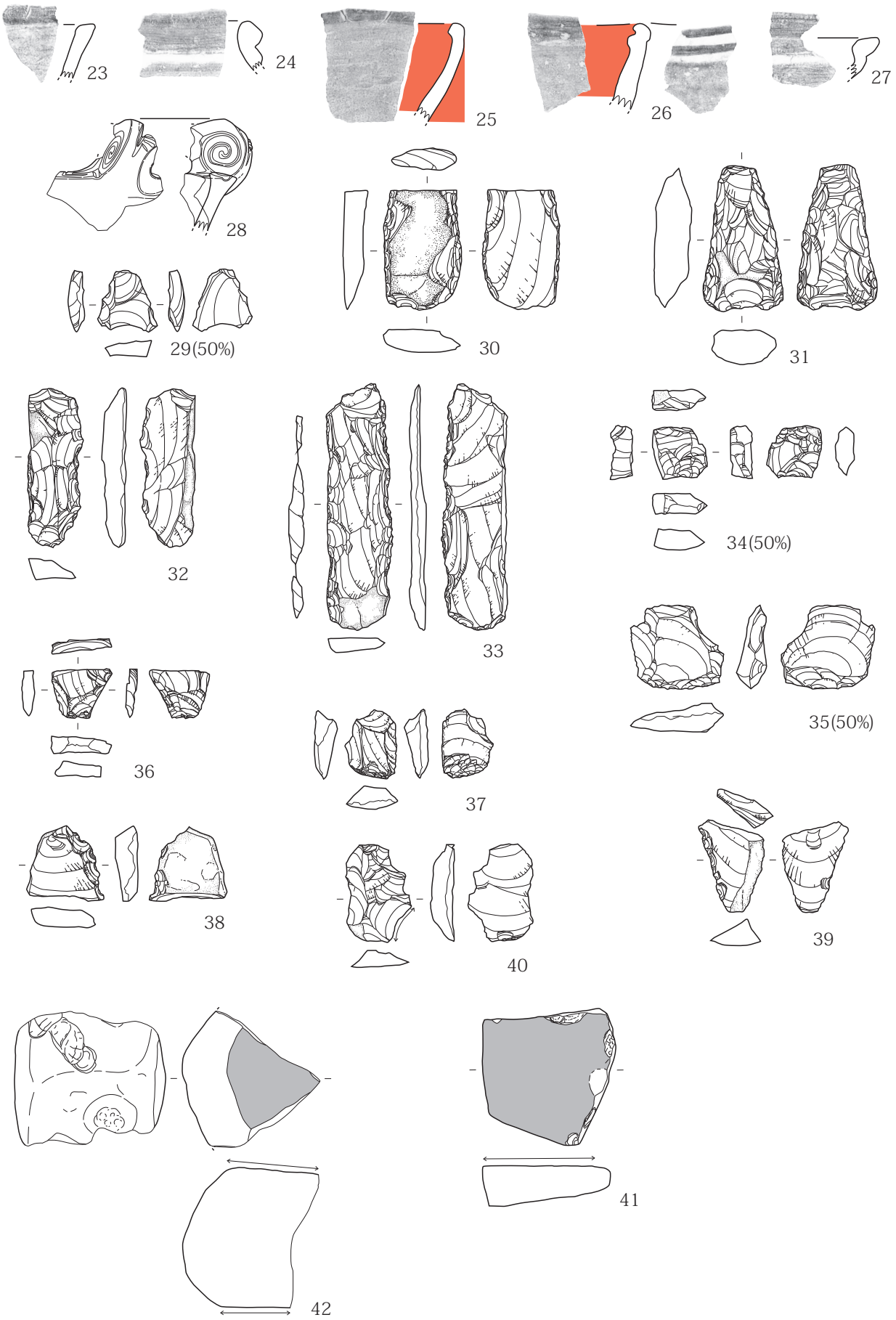
○Ｄ１号土坑（第 17 図）

Ｔ４グリットで検出された。ＳＤ３号集石土坑を切る。主軸をＮ－0°－Ｅにとり､長軸長 1.46 m､短軸長 1.35 m、壁残高 0.41 m、面積 1.58㎡の規模である。

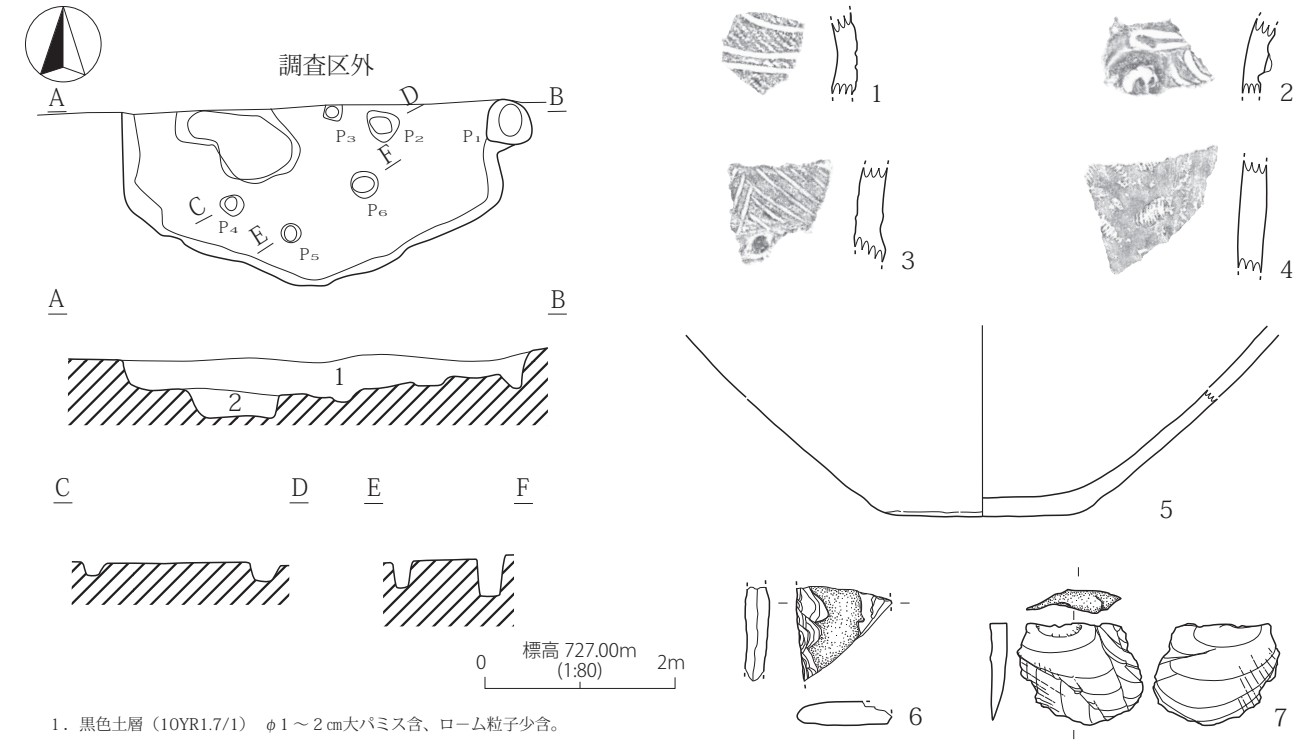
出土遺物は皆無であるが、ＳＤ３を切ることから近世以降の所産と考えられる。



第 14 図　Ｈ６号住居址（１）

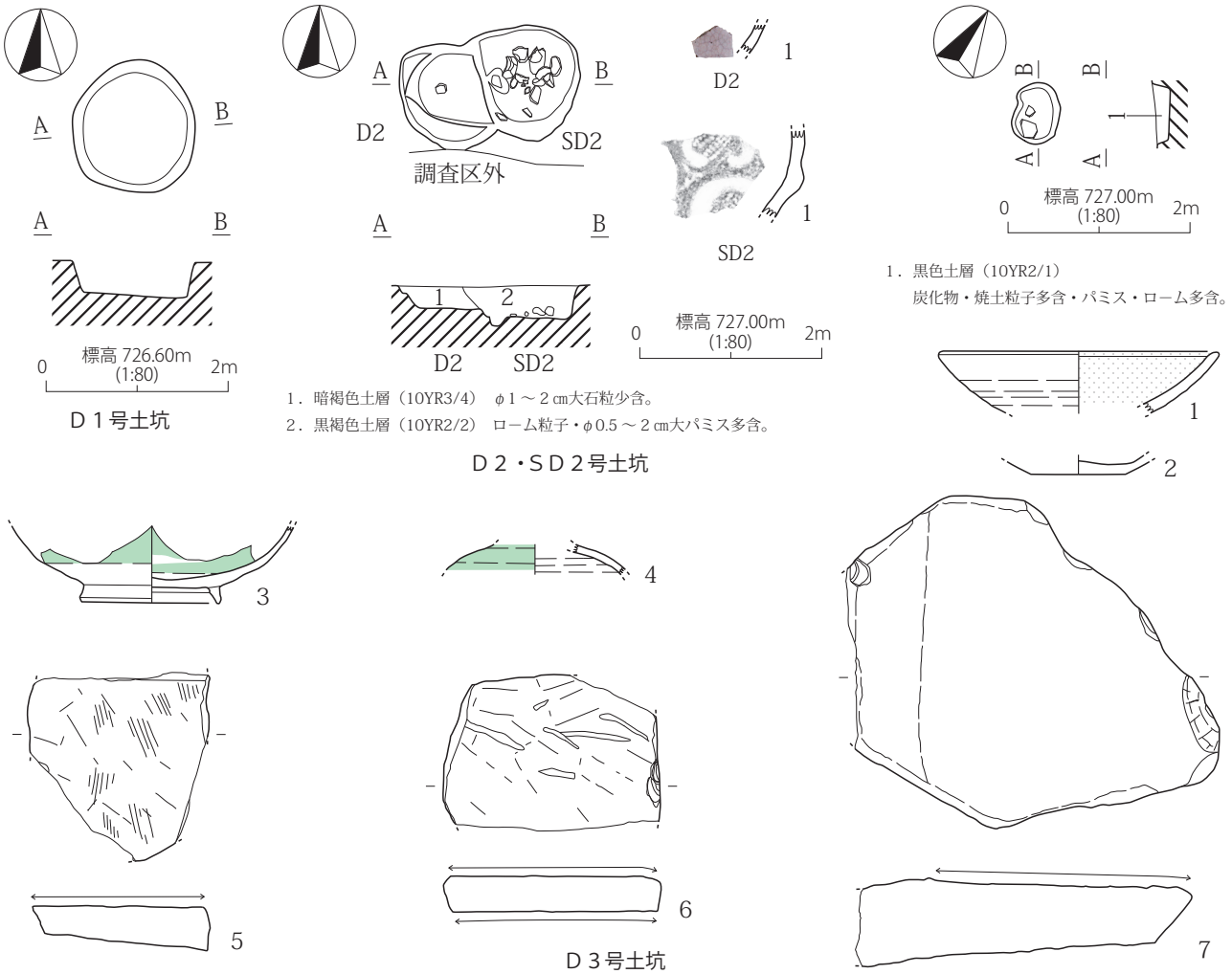


第 15 図　Ｈ６号住居址（２）



1．黒色土層（10YR1.7/1）　φ１～２㎝大パミス含、ローム粒子少含。
2．黒褐色土層（10YR2/3）　ローム粒子少含。

第 16 図　Ｈ７号住居址



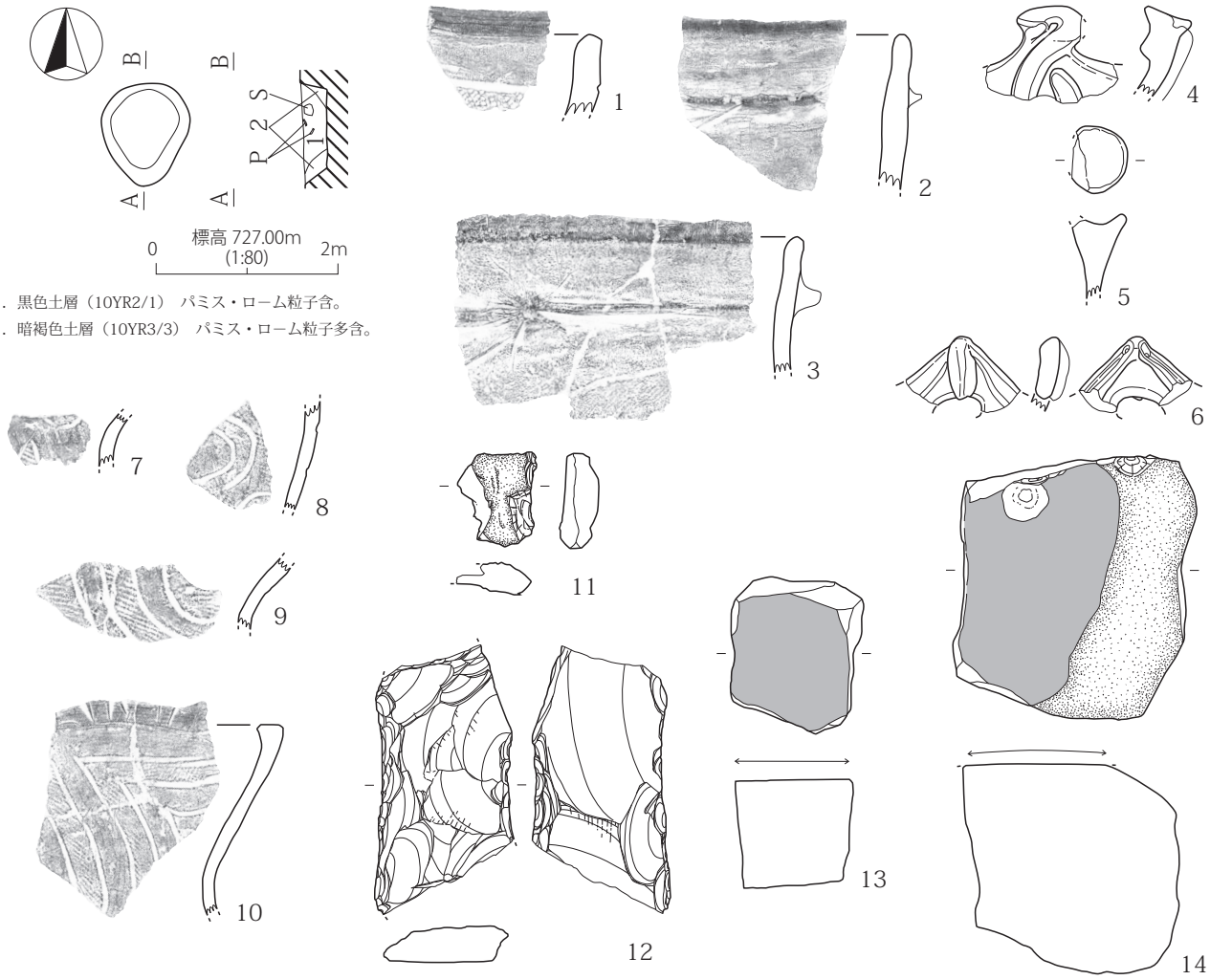
Ｄ１号土坑

Ｄ２・ＳＤ２号土坑

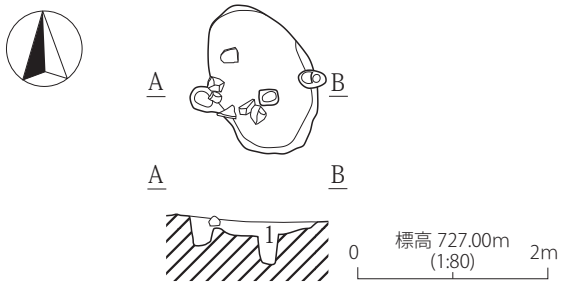
Ｄ３号土坑

第 17 図　土坑 1

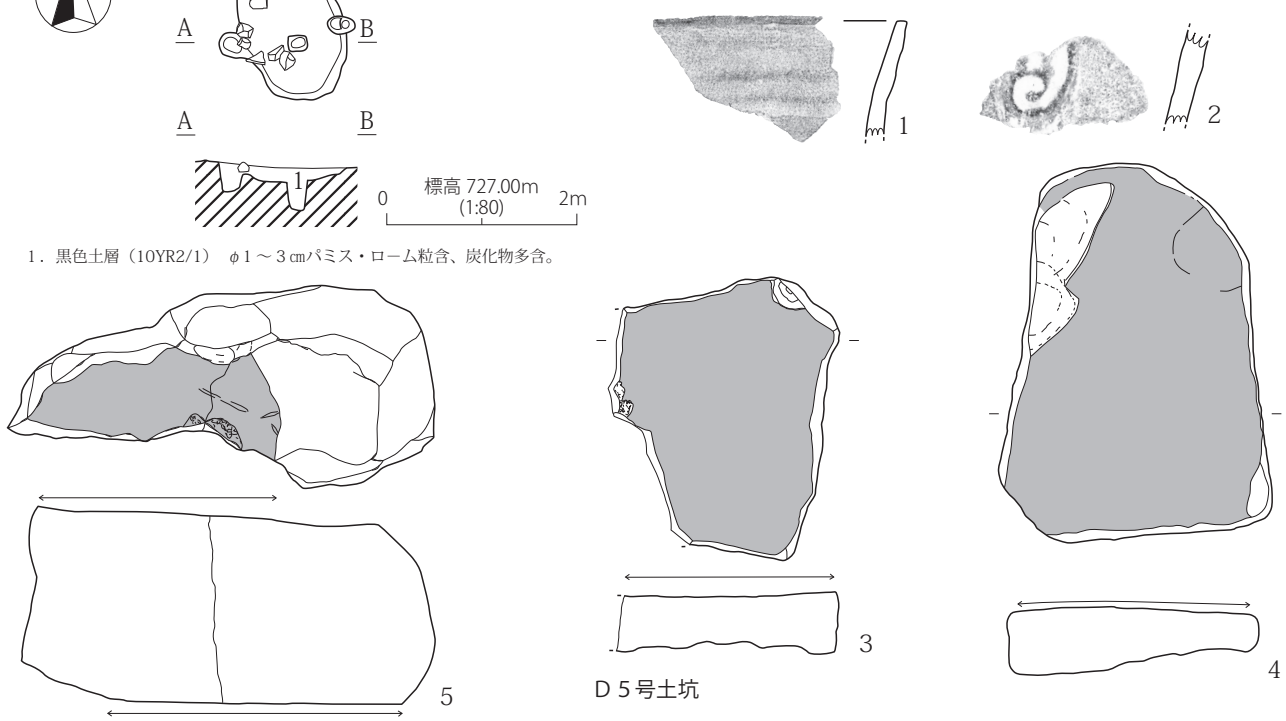
1．黒色土層（10YR2/1）　パミス・ローム粒子含。
2．暗褐色土層（10YR3/3）　パミス・ローム粒子多含。



D４号土坑

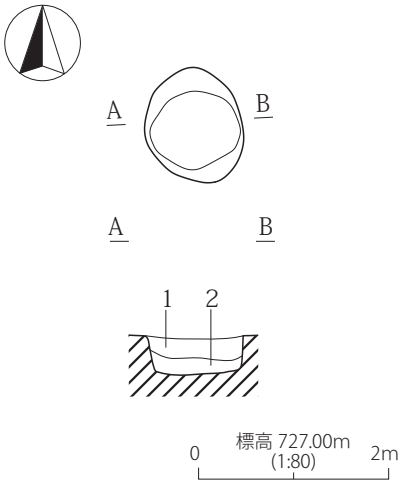


1．黒色土層（10YR2/1）　φ１～３㎝パミス・ローム粒含、炭化物多含。

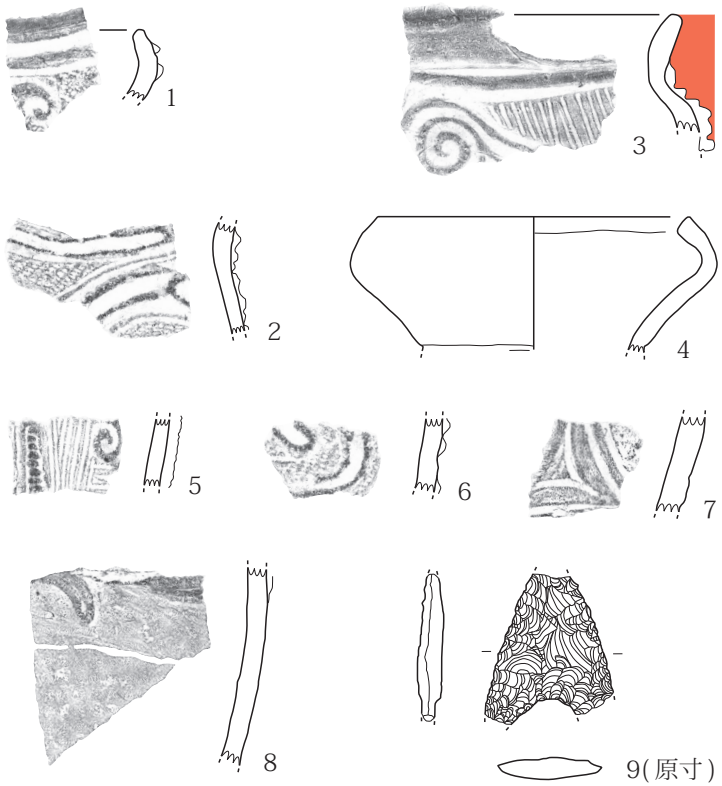


D５号土坑

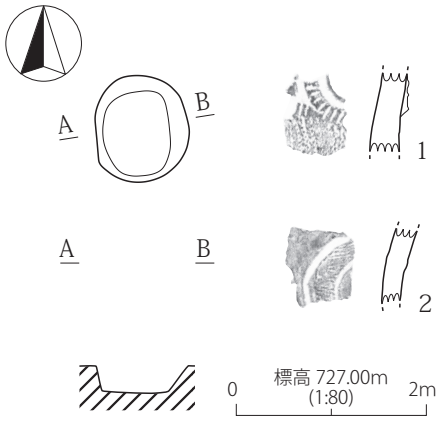
第 18 図　土坑２



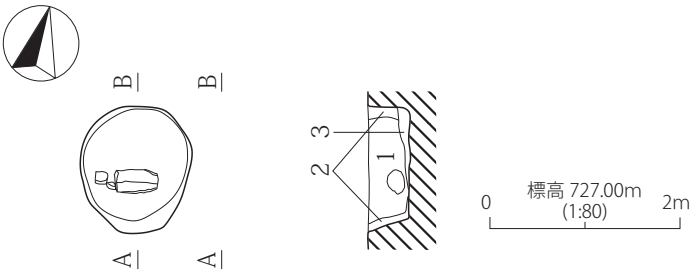
1．黒褐色土層（10YR2/3）　φ5㎝以下パミス多含、ローム粒子少含。
2．褐色土層（10YR4/4）　φ3㎝以下パミス少含、ローム粒子多含。



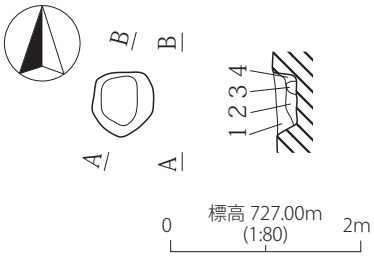
Ｄ６号土坑



Ｄ７号土坑

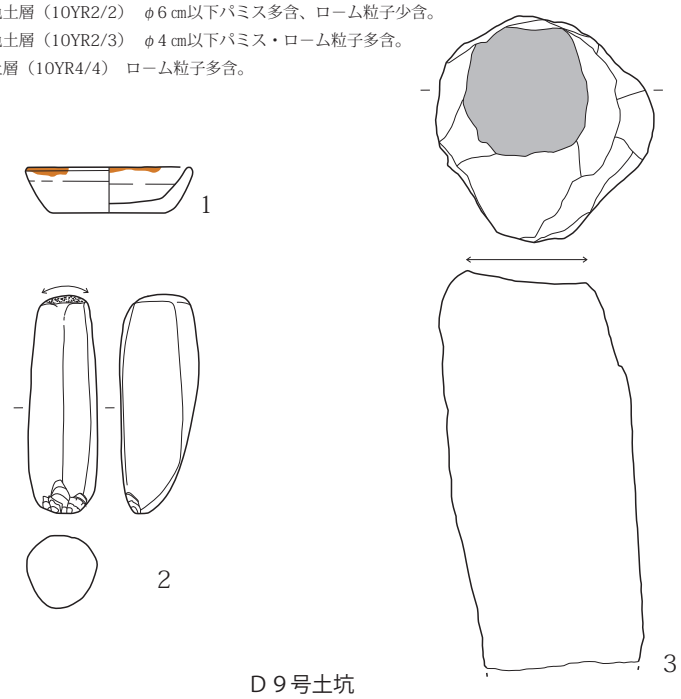


1．黒褐色土層（10YR2/2）　φ6㎝以下パミス多含、ローム粒子少含。
2．黒褐色土層（10YR2/3）　φ4㎝以下パミス・ローム粒子多含。
3．褐色土層（10YR4/4）　ローム粒子多含。



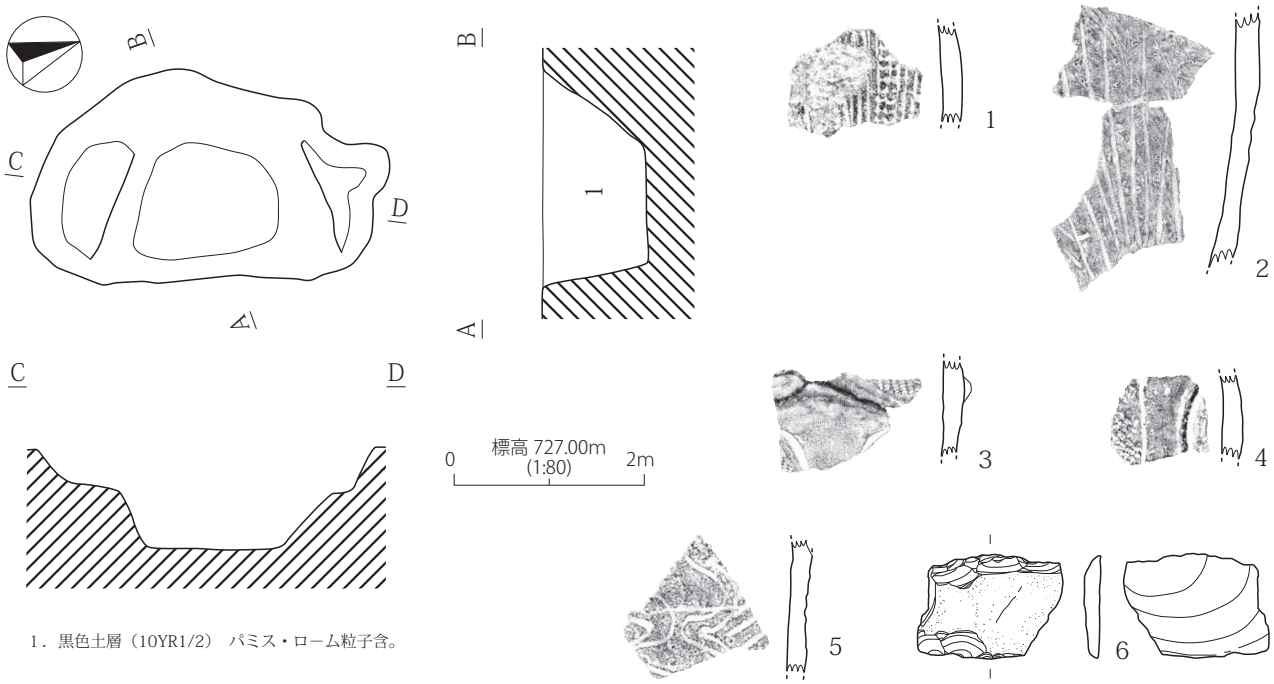
1．黒褐色土層（10YR2/3）　炭化物・ローム粒子多含。
2．褐色土層（10YR4/4）　ローム粒子多含。
3．黒褐色土層（10YR2/3）　ロームブロック。
4．黒褐色土層（10YR2/3）　ローム粒子多含。

Ｄ８号土坑



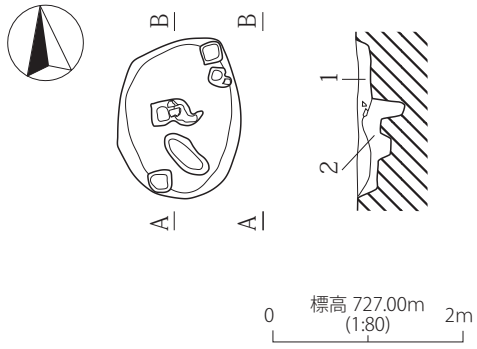
Ｄ９号土坑

第 19 図　土坑 3



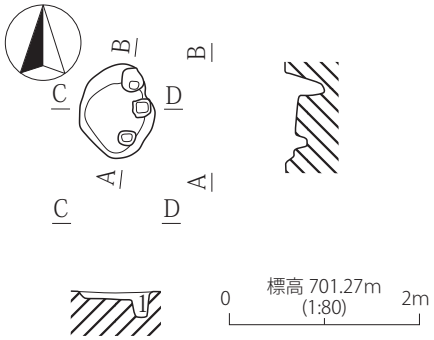
1．黒色土層（10YR1/2）　パミス・ローム粒子含。

D10 号土坑



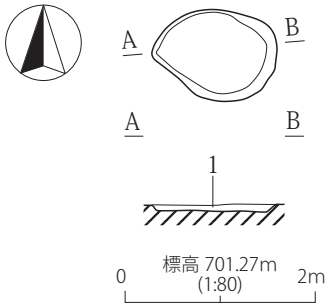
1．黒褐色土層（10YR2/3）　ローム粒子多含、φ3㎝以下パミス少含。
2．暗褐色土層（10YR3/3）　ローム粒子多含、φ4㎝以下パミス少含、炭化物極少含。

D11 号土坑



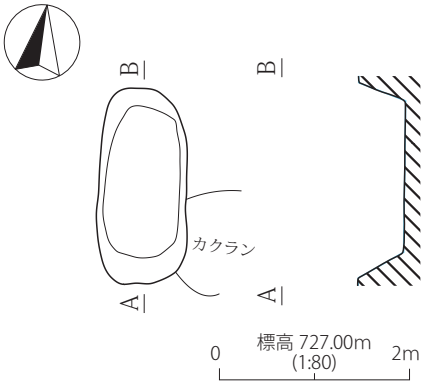
1．黒褐色土層（10YR2/3）　φ2㎝以下パミス・ローム粒子少含。

D12 号土坑



1．黒褐色土層（10YR2/3）　φ2㎝以下パミス・ローム粒子少含。

D13 号土坑



D14 号土坑

第 20 図　土坑 4

○D２号土坑（第 17 図）
　Ｐ４グリットで検出された。ＳＤ２号集石土坑に切られる。全容が不明なため、壁残高 0.22 m以外の規模は不明である。平面形態は判然としないが、２段落の底面を形成する。
　出土遺物は 17 世紀の志野焼の皿片が１点出土している。
　本址の年代は前記した志野焼皿を根拠に 17 世紀と考えられる。

○D３号土坑（第 17 図）
　Ｒ４グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N－ 20°－Wに長軸方位をとる。長軸長 0.68 m、短軸長 0.49 m、壁残高 0.2 m、面積 0.28㎡の規模を有する。平面不正楕円形、断面逆梯形の形態である。
　遺物は土師器と灰釉陶器、石器・石製品が出土している。土師器には坏と皿の器種が認められる。内面のヘラミガキ調整は施されない。灰釉陶器は碗と長頸瓶の器種が認められる。碗の見込み部分は転用硯状に円滑である。石器・石製品は全て砥石である。定型化した砥石ではなく、扁平な礫を砥石として使用している。
　以上の出土遺物の特徴から、本址は聖原編年の奈良・平安時代Ⅶ期－ 10 世紀前半の所産と考えられる。

○D４号土坑（第 18 図）
　Ｉ 12 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N－ 12°－Eに長軸方位をとる。長軸長 1.14 m、短軸長 0.94 m、壁残高 0.29 m、面積 0.82㎡の規模である。平面不整楕円形、断面逆梯形の形態である。
　遺物は縄文土器、石器・石製品が出土している。縄文土器は全て後期称名寺式期のものであり、器種は全て深鉢である。３は被熱により歪んでいる。隆帯文の２・３を除き称名寺式土器である。石器・石製品には打製石斧、砥石、磨・凹石の器種が認められる。
　以上の出土遺物の特徴から、本址は縄文時代後期称名寺式期の所産と考えられる。

○D５号土坑（第 18 図）
　Ｆ 11 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N－ 24°－Wに長軸方位をとる。長軸長 1.64 m、短軸長 1.1 m、壁残高 0.2 m、面積 1.37㎡の規模である。重複する３基の方形ピットは本址を切る中近世遺構の可能性が高い。平面楕円、断面逆梯形の形態である。
　遺物は内耳鍋、縄文土器、石器・石製品が出土している。内耳鍋は口縁部片、縄文土器は中期後半の深鉢片である。石器・石製品は３点ともに砥石である。定型化した砥石ではなく、礫を利用している。４は全面に煤が付着している。
　以上の出土遺物の特徴から、本址は中世の所産と考えられる。

○D６号土坑（第 19 図）
　Ｃ 11 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N－ 15°－Wに長軸方位をとる。長軸長 1.24 m、短軸長 1.03 m、壁残高 0.41 m、面積 0.97㎡の規模である。平面不整楕円形、断面逆梯形の形態である。
　遺物は縄文土器と石器・石製品が出土している。縄文土器には深鉢１・２・４～７と浅鉢３、有穴鍔付土器？８の器種が認められる。時期的には２・７・８が中期中葉の他は中期後半のものであり、型式的には加曽利Ｅ系が過半数を占めるが、曽利式や唐草文系も存在する。石器・石製品は黒曜石製の鏃が１点出土しているが欠損している。
　以上の出土遺物の特徴から、本址は縄文時代中期後半加曽利Ｅ１～Ⅱ式期の所産と考えられる。

○D７号土坑（第 19 図）
　Ｃ 11 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N－ 15°－Wに長軸方位をとる。長軸長 1.13 m、短軸長 0.98 m、壁残高 0.29 m、面積 0.91㎡の規模である。平面不整楕円形、断面逆梯形の形態である。
　遺物は縄文土器が２点出土している。１は中期中葉勝坂式の深鉢片、２は後期称名寺式の深鉢片である。
　本址の時期については不明である。

○D８号土坑（第 19 図）
　Ｄ 11 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。真北に長軸方位をとる。長軸長 0.68 m、短軸長 0.64 m、壁残高 0.26 m、面積 0.35㎡の規模である。平面不整円形、断面逆梯形の形態である。
　出土遺物は皆無であり、本址の時期は不明である。

○D 9号土坑（第 19 図）
　D 11 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N－ 13°－Wに長軸方位をとる。長軸長 1.37 m、短軸長 1.17 m、壁残高 0.47 m、面積 1.25㎡の規模である。平面不整楕円形、断面逆梯形の形態である。
　遺物は土師器と石器・石製品が出土している。土師器は所謂「かわらけ」であり、内外面の口縁部に煤の付着が認められることから燈明皿として使用されたものであろう。石器・石製品は磨・敲石と磨石の器種が認められる。
　以上の出土遺物の特徴から本址は、中世の所産と考えられる。

○D 10 号土坑（第 20 図）
　F 7 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N－ 7 °－E に長軸方位をとる。長軸長 3.86 m、短軸長 2.21 m、壁残高 1.11 m、面積 6.59㎡の規模である。平面不整楕円、断面逆梯形の形態で、底面が２段形成される。
　遺物は縄文土器と石器・石製品が出土している。縄文土器は全て深鉢片であり、１が曽利Ⅰ、５が不明の他は加曽利Ｅ式である。石器・石製品は横刃型石器が１点出土している。
　以上の出土遺物から本址は、縄文時代中期後半加曽利ＥⅣ式期の所産と考えられる。

○D 11 号土坑（第 20 図）
　E 11 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N－ 30°－E に長軸方位をとる。長軸長 1.71 m、短軸長 1.31 m、壁残高 0.24 m、面積 1.8㎡の規模である。平面楕円、断面逆梯形の形態である。重複する５基のピットは本址を切る中近世遺構の可能性が高い。
　出土遺物は皆無であり、本址の年代は不明である。

○D 12 号土坑（第 20 図）
　G 11 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N－ 9 °－Wに長軸方位をとる。長軸長 1.0 m、短軸長 0.8 m、壁残高 0.13 m、面積 0.59㎡の規模である。平面楕円、断面逆梯形の形態である。重複する３基の方形ピットは本址を切る中近世遺構の可能性が高い。
　出土遺物は皆無であり、本址の年代は不明である。

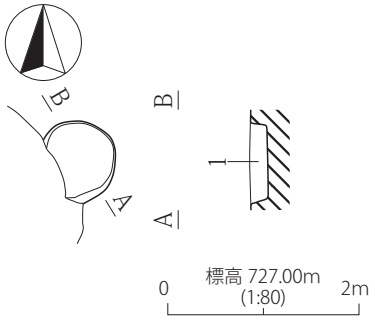
○D 13 号土坑（第 20 図）
　G 11 グリットで検出された。D 14 号土坑を切る。N－ 90°－E に長軸方位をとる。長軸長 1.31 m、短軸長 0.96 m、壁残高 0.08 m、面積 0.96㎡の規模である。平面楕円、断面逆梯形の形態である。
　出土遺物は皆無であり、本址の年代は不明である。

○D 14 号土坑（第 20 図）
　G 11 グリットで検出された。D 13 号土坑に切られる。N－ 8 °－Wに長軸方位をとる。長軸長 2.07 m、短軸長 0.93 m、壁残高 0.5 m、面積 1.74㎡の規模である。平面隅丸長方形、断面逆梯形の形態である。
　出土遺物は皆無であり、本址の年代は不明である。

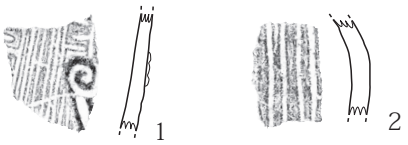
○D 15 号土坑（第 21 図）
　B 11 グリットで検出された。ＳＤ５号集石土坑に切られる。N－ 32°－Wに長軸方位をとる。長軸長 0.74 m、壁残高 0.18 mの規模である。楕円形、断面逆梯形の形態である。
　出土遺物は縄文中期後半の深鉢片が２点出土しており、本址の年代も出土遺物と同様と考えられる。

○D 16 号土坑（第 21 図）
　J 12 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N－ 26°－E に長軸方位をとる。長軸長 0.74 m、短軸長 0.68 m、壁残高 0.3 m、面積 0.37㎡の規模である。平面円形、断面逆梯形の形態である。
　出土遺物は皆無であり、本址の年代は不明である。

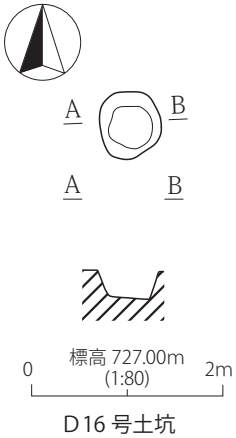
○D 17 号土坑（第 21 図）
　J 12 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N－ 17°－Wに長軸方位をとる。長軸長 0.68



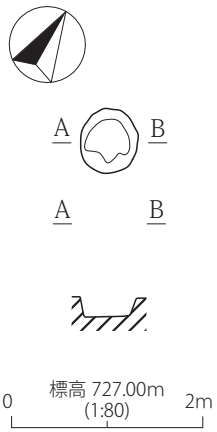
1．褐色土層（10YR4/4） ローム粒子多含、パミス含。



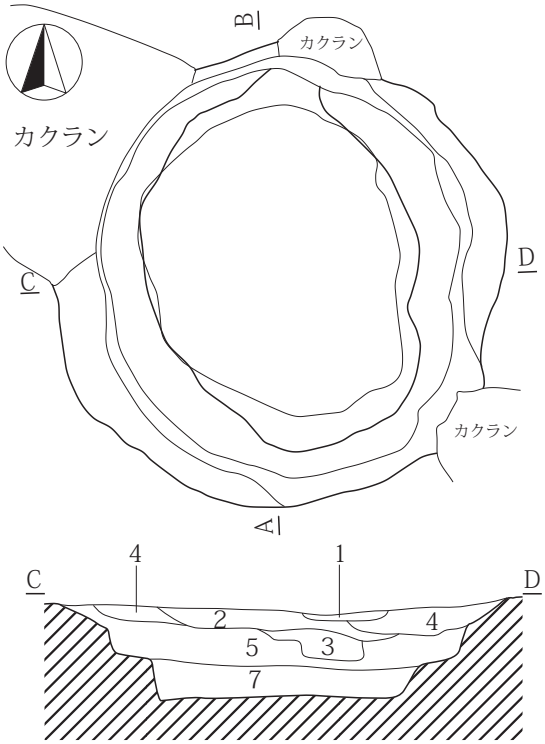
D15 号土坑

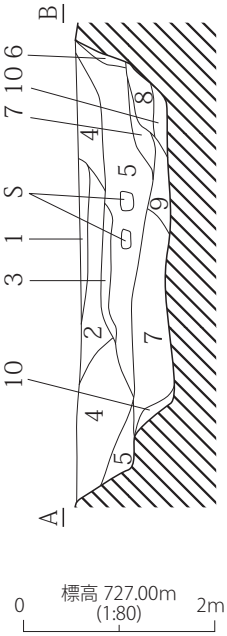


D16 号土坑

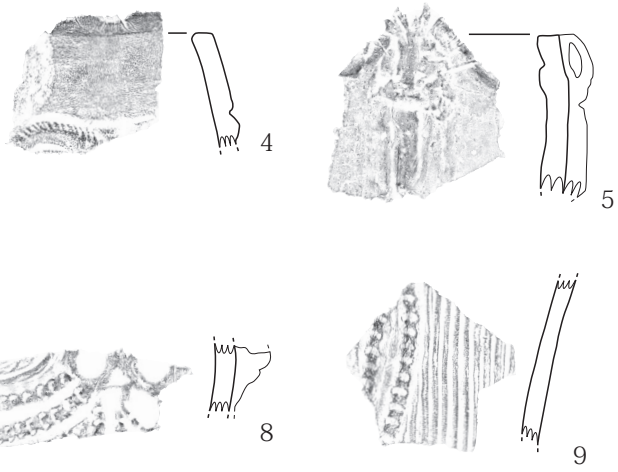


D17 号土坑





1．黒色土層（10YR2/1） パミス・ローム粒子含。
2．暗褐色土層（10YR3/2） φ1～2㎝パミス含、ローム粒多含。
3．黄褐色土層（10YR5/6） ローム２次堆積。
4．黒褐色土層（10Yr3/2） φ1～3㎝パミス・ローム粒子多含、炭化物含。
5．黒色土層（10YR2/1） φ1～5㎝パミス・ローム粒子多含。
6．にぶい黄橙色土層（10YR6/4） ロームと 10YR3/3 の混在。
7．暗褐色土層（10YR3/3） φ5㎝以下パミス多含、炭化物含。
8．明黄褐色土層（10YR6/6） ローム２次堆積。
9．黒色土層（10YR2/1） φ5㎝以下パミス多含。
10．にぶい黄橙色土層（10YR6/4） ロームと 10YR3/3 の混在。



D18 号土坑（1）
第 21 図　土坑 5

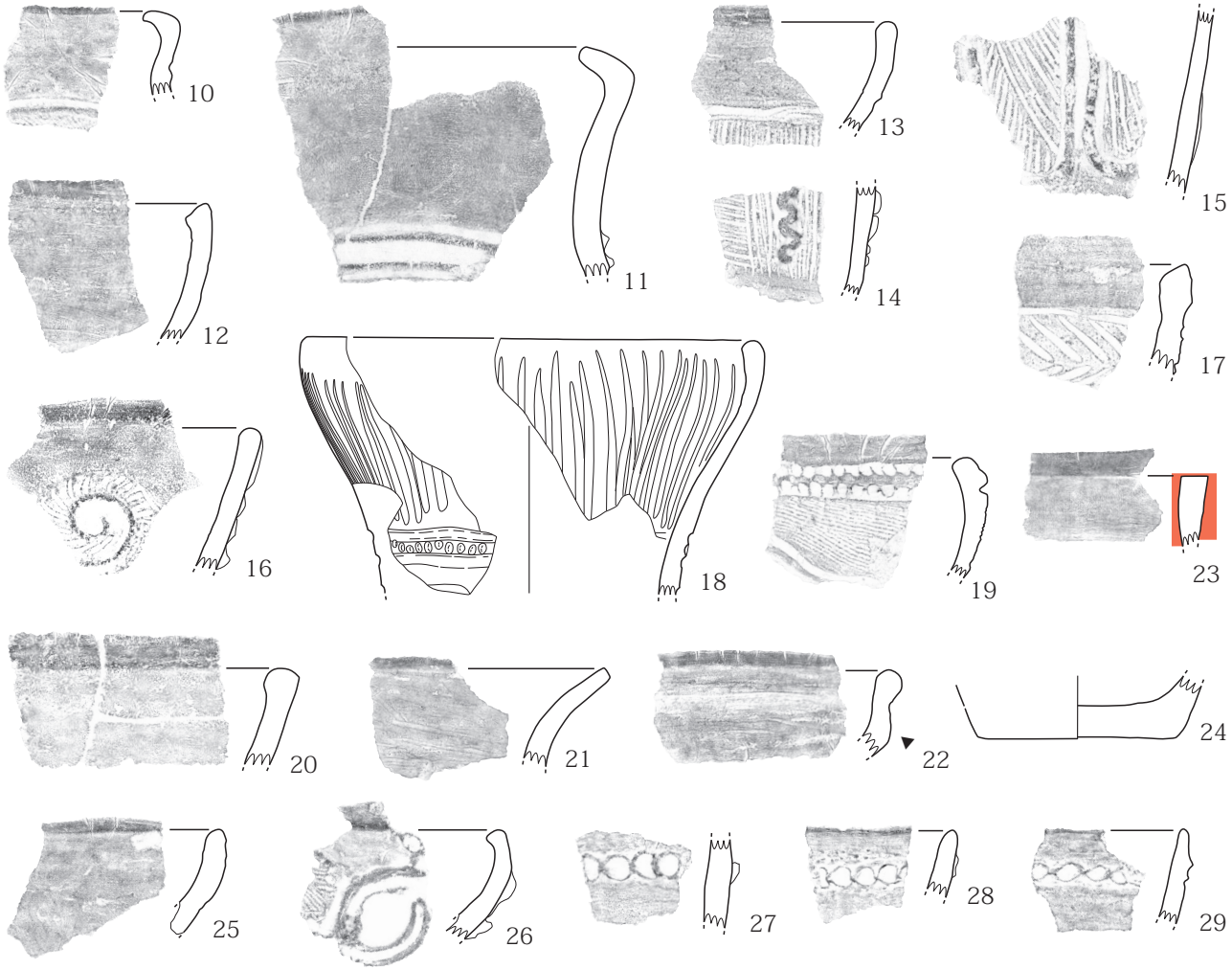
m、短軸長 0.6 m、壁残高 0.21 m、面積 0.33㎡の規模である。平面楕円形、断面逆梯形の形態である。
出土遺物は皆無であり、本址の年代は不明である。

○D 18 号土坑（第 21 ～ 29 図）

Ｃ 10 グリットで検出された。カクランに切られる。N－62°－E に長軸方位をとる。長軸長 4.9 m、短軸長 4.7 m、壁残高 0.89 m の規模である。平面円形、断面は２面の底面を形成する。当初住居址と思われたが、柱穴や炉は存在しなかったため、土坑とした。

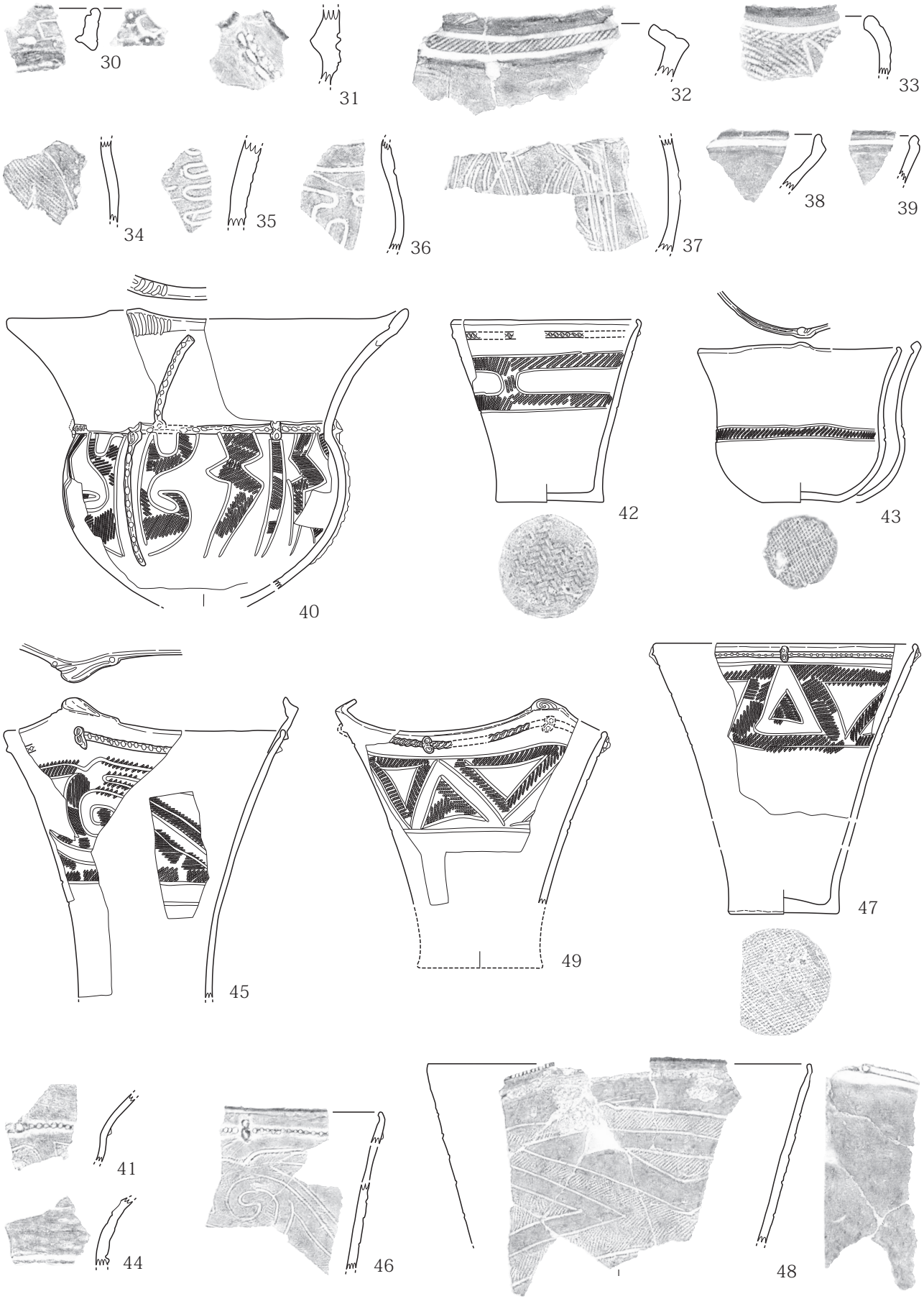
遺物は縄文土器、石器・石製品が出土している。1 は阿玉台Ⅱ式の深鉢で、大波状縁の部位であるが隆帯が剥落している。２は焼町土器深鉢の口縁部片、３・4・5・18・19 は勝坂式の深鉢で３は双環状把手が付く。6・7・8 は曽利Ⅱ式の深鉢口縁部片、17 も曽利系であるが、時期的にⅣないしⅤ期まで下がる。9・21・22 は中期後半の浅鉢の口縁部片と思われる。10・34 は隆帯上に半裁竹管による押引を加えており、曽利Ⅰ式土器と思われる。中期後半の土器であろうか？ 11・12・14 は中期後半郷土式、13 は中期後半唐草文系と思われる。15 はあまり類例がない土器であるが、中期後半加曽利Ｅ系の土器と思われる。16 も加曽利Ｅ系の土器で、ＥⅣ期と思われる。20・23・24 は無文部位であり判然としないが中期後半の深鉢片と思われる。25 ～ 27 は後期の押圧隆帯が施される粗製土器である。28 ～ 33・36 は後期称名寺式ないし同時期と思われるものであるが、堀之内Ⅰ式まで下がるものも含んでいるかもしれない。35 ～ 37・42・43 は堀之内１式、38 ～ 41・44 ～ 62 は堀之内２式ないし同時期の土器である。63 ～ 65 は堀之内式期の注口土器である。66 ～ 73 は土器片円盤である。時期的には堀之内式期のものと思われる。74 は平安時代の内面黒色処理の土師器坏であり、底部には右回転の糸切痕が認められる。75 は中世の内耳鍋の口縁部片である。石器・石製品には石鏃、打製石斧、磨・敲・凹石、砥石、石皿・石錐、スクレイパー、横刃型石器、ピエス・エスキーユ、加工痕・使用痕のある剥片の器種が認められる。

以上の出土遺物の特徴から本址は縄文時代後期堀之内２式期の所産と考えられる。



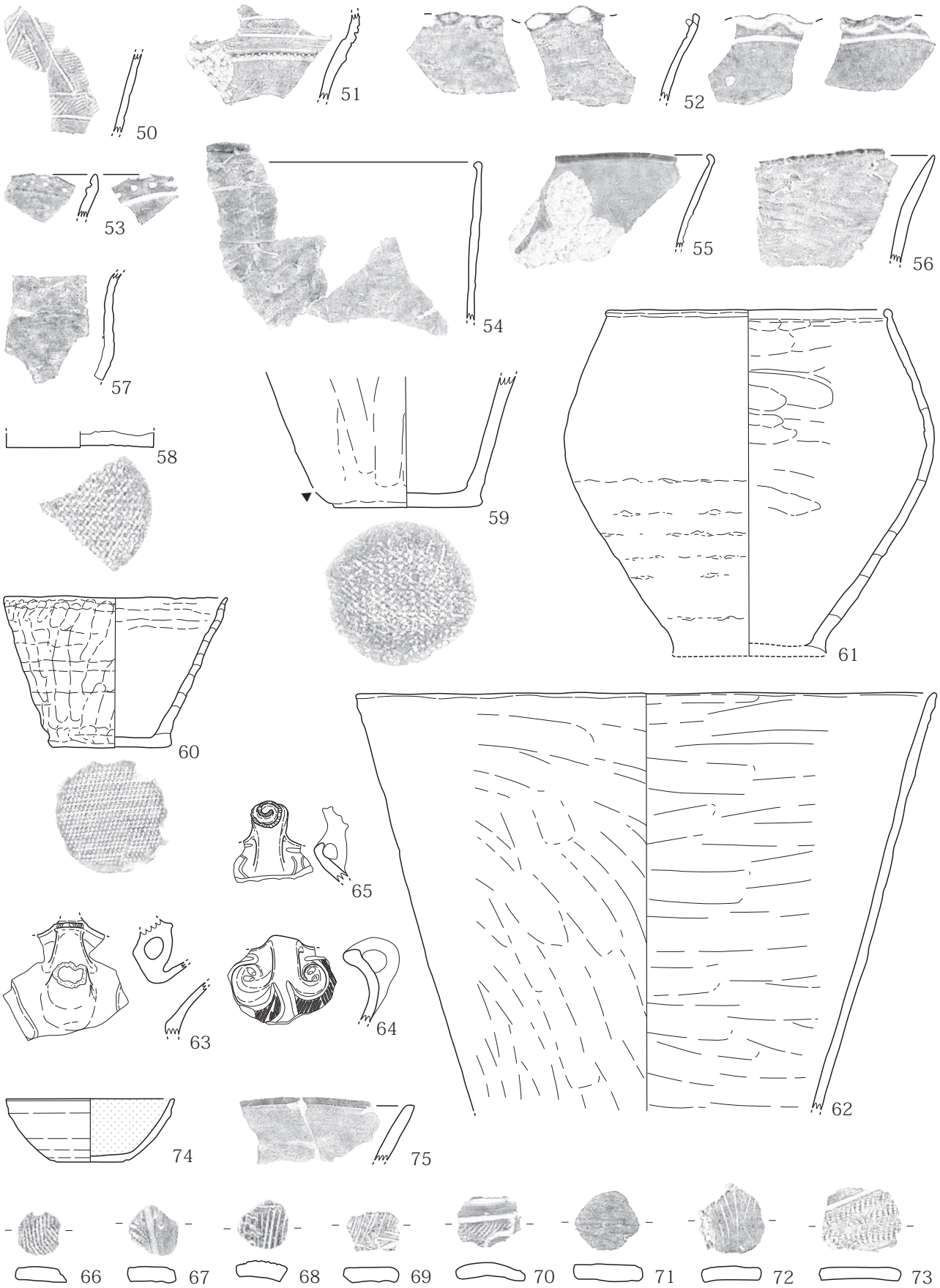
D18 号土坑（2）

第 22 図　土坑 6



D18 号土坑（3）

第 23 図　土坑 7

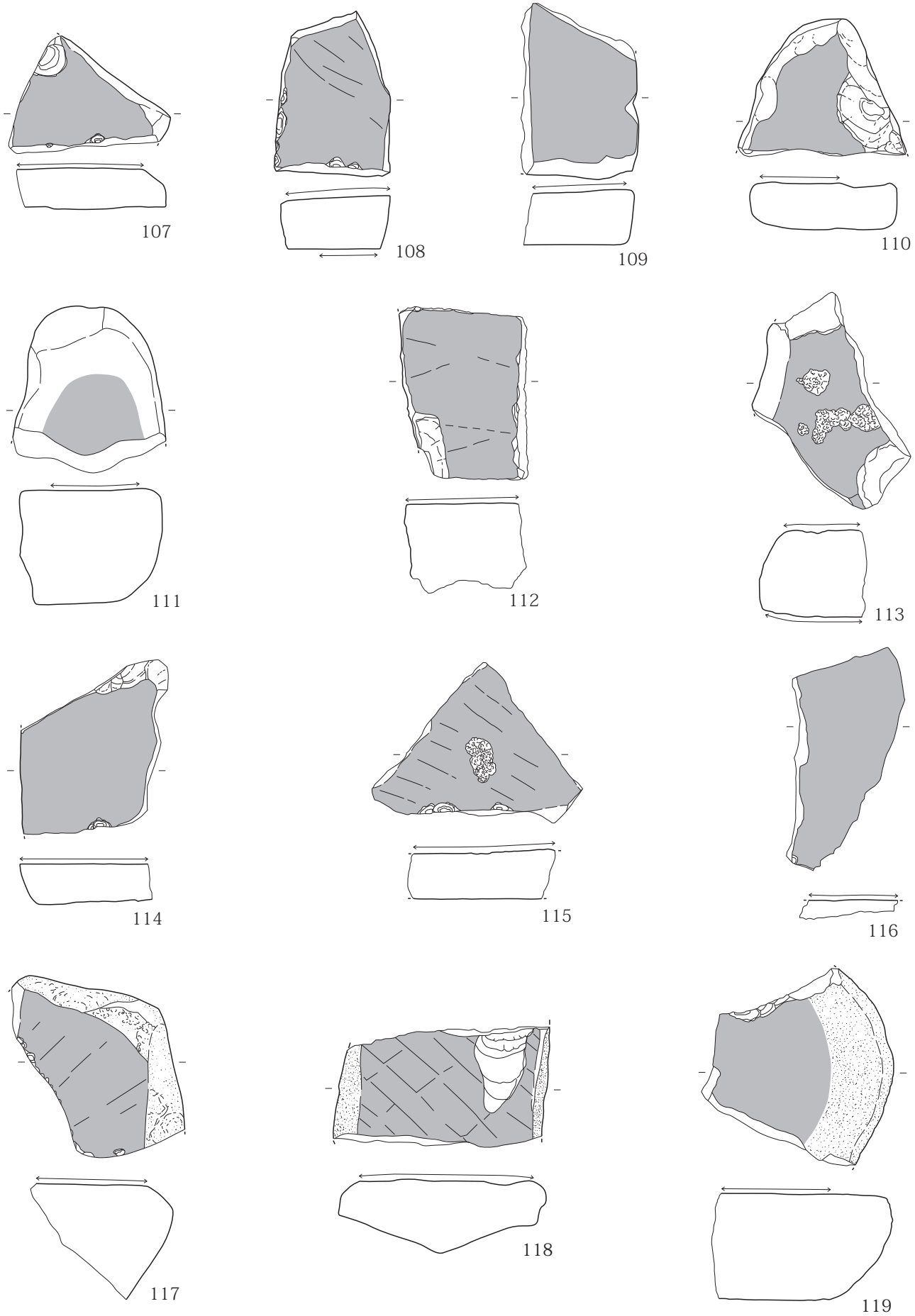


D18号土坑(3)

第24図　土坑8

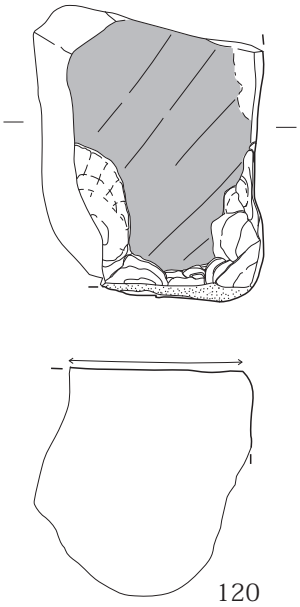
D18号土坑(4)

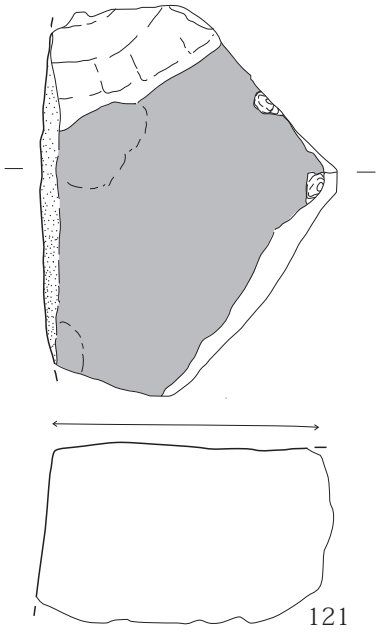
第25図　土坑9

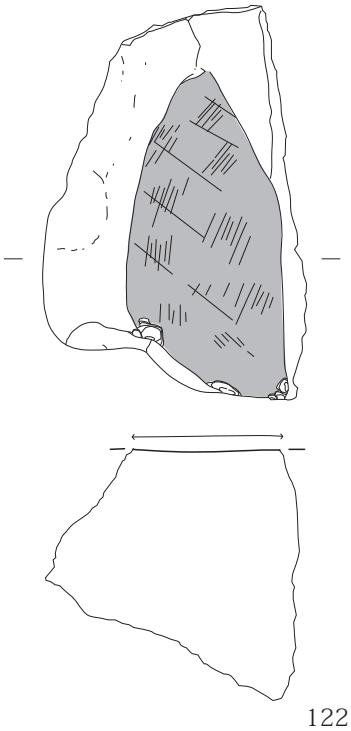


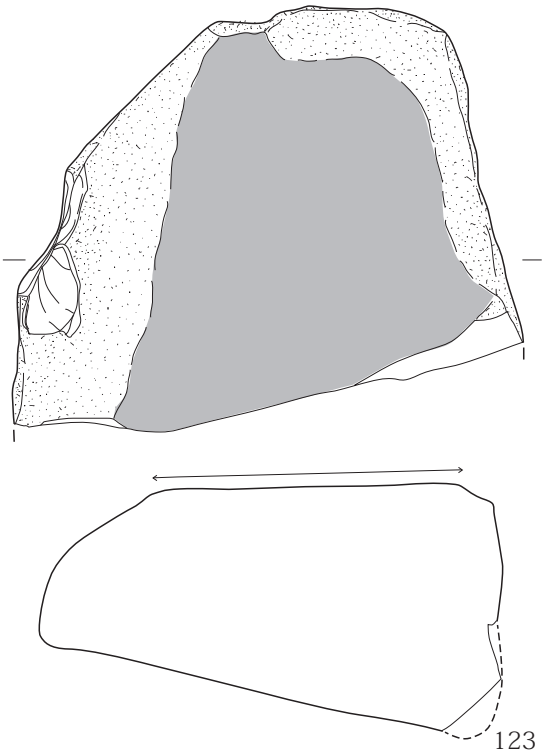
D18 号土坑 (5)

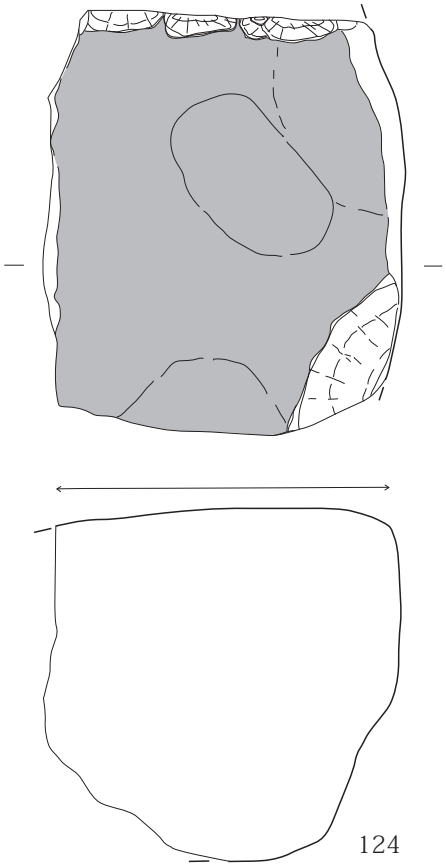
第 26 図　土坑 10





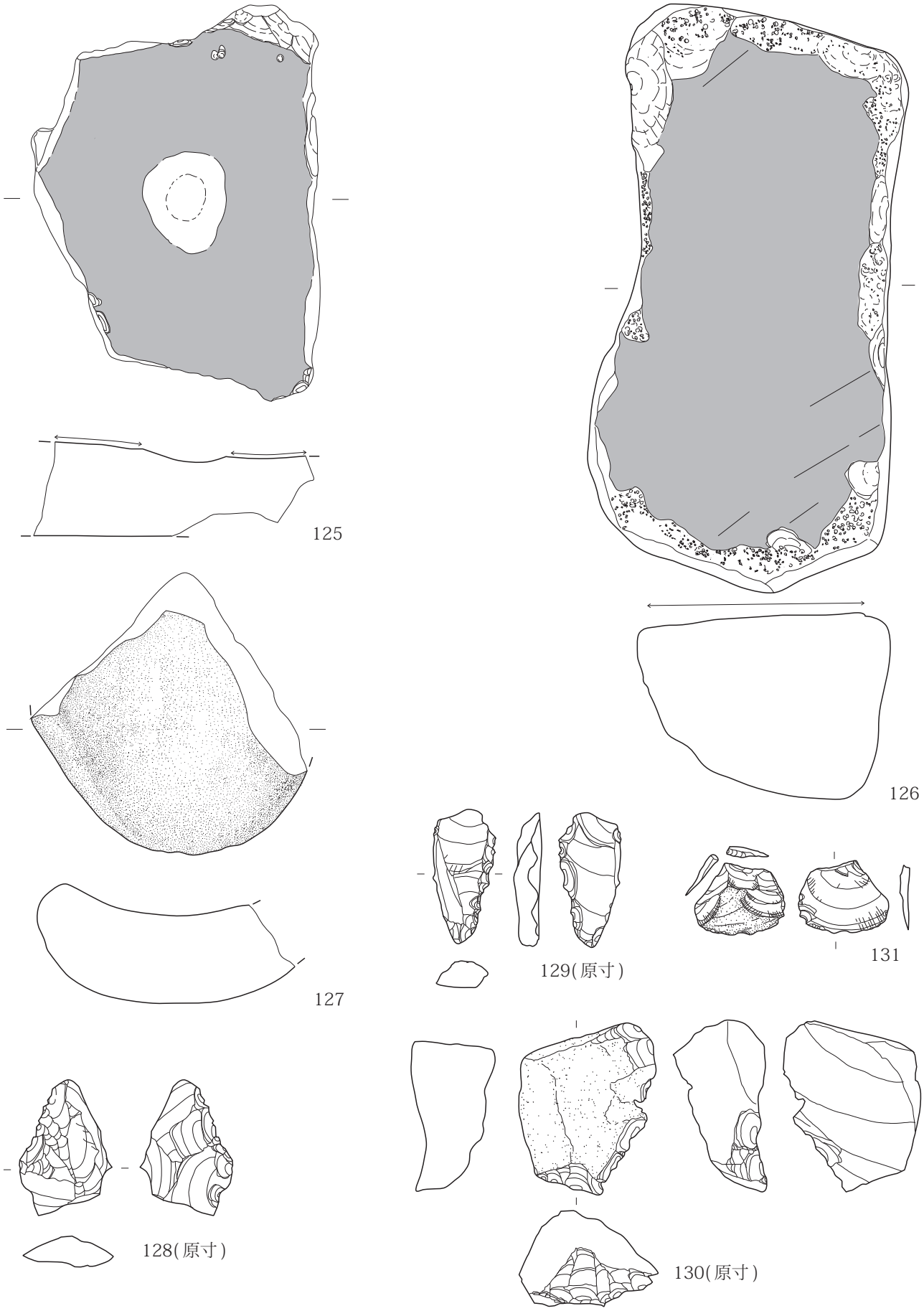






D18 号土坑 (6)

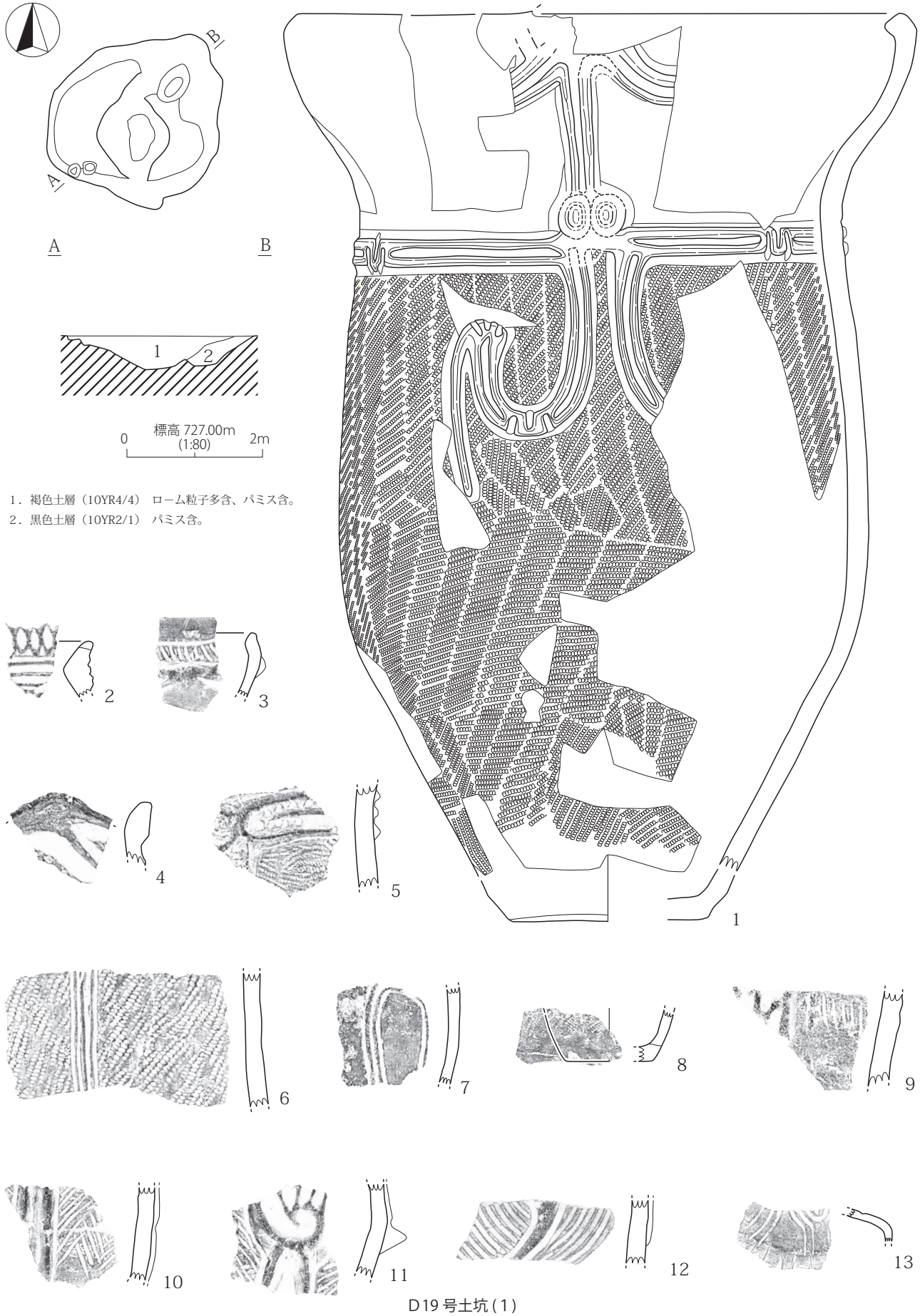
第 27 図　土坑 11



D18号土坑(7)
第28図　土坑12

D18 号土坑 (8)

第 29 図　土坑 13



D19 号土坑（1）

第 30 図　土坑 14

○D 19 号土坑（第 30・31 図）

Ｂ 11 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。Ｎ－ 50°－Ｅに長軸方位をとる。長軸長 2.88 m、短軸長 2.43 m、壁残高 0.5 m、面積 5.08㎡の規模である。平面不整楕円形、断面３段底面の逆梯形の形態を呈する。

遺物は縄文土器、石器・石製品が出土している。縄文土器は 1 が曽利Ｉ式期の深鉢、２は鋸歯口縁下に数条の平行沈線が施される深鉢で、並行沈線下には曲隆線文が展開するものと思われる。中期中葉末期の焼町土器と思われる。3 は口縁部の区画帯に斜位の沈線文が充填される中期後半の深鉢である。４は加曽利ＥⅢ式の波状口縁深鉢の口縁部、５は隆帯間に半裁竹管による刺突が加えられる地文縄文の深鉢である。中期後半に位置付けられるものと思われる。6 は加曽利ＥⅡ式、7 はＥⅣ式の深鉢である。8 は底部片であり、時期は判然としない。9 は中期後半に位置付けてよいものと思われる深鉢の低部付近の破片で、縦位の沈線を地文とし、隆帯による懸垂文が貼付される。10・11 は綾杉状の沈線文を地文とし、隆帯による懸垂文が貼付される唐草文系土器の深鉢。12 は鱗状沈線が施される郷土式の深鉢である。13 は後期堀之内式の注口土器片である。石器・石製品には打製石斧（14 ～ 16）、磨石（17・18）、砥石（19 ～ 21）、加工痕のある剥片（22）の器種が認められる。

本址の時期としては 1 の深鉢を基準とするのが妥当と考える。よって本址は縄文時代中期後半曽利Ｉ式期の所産と思われる。

○D 20 号土坑（第 32 図）

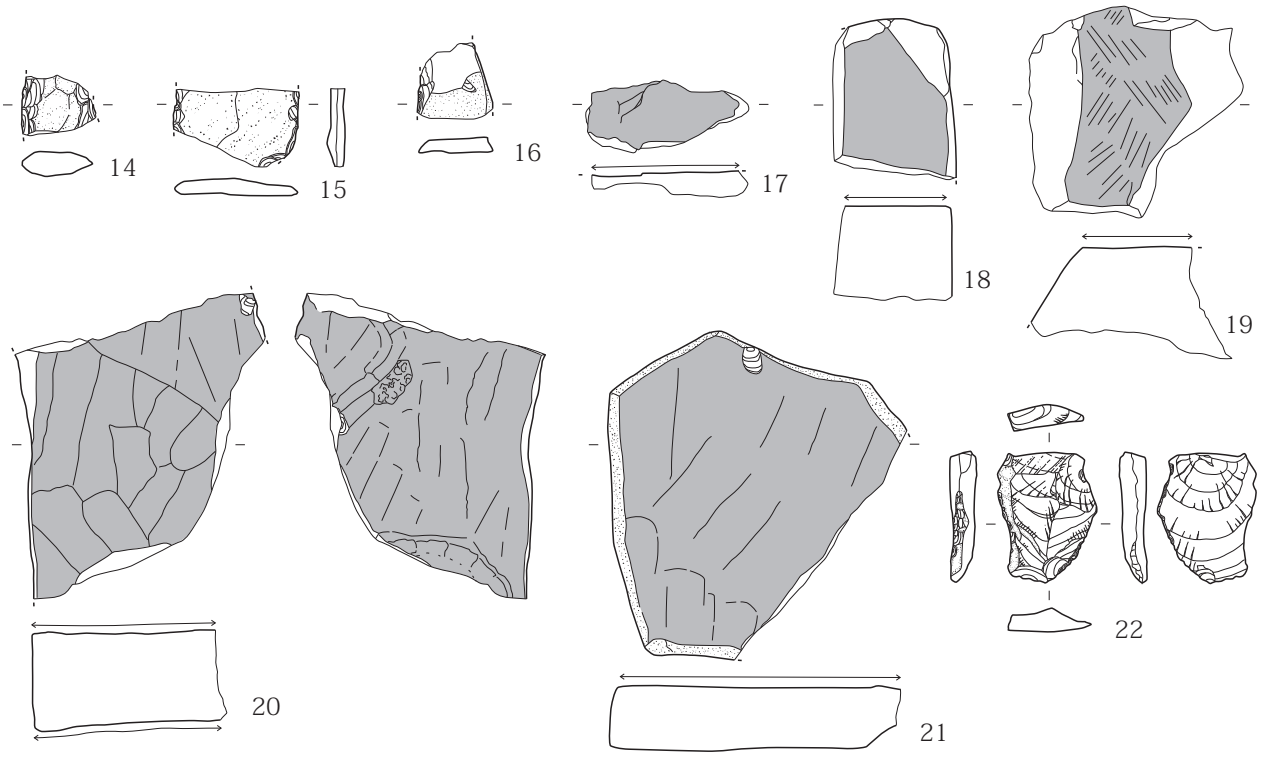
Ｈ８グリットで検出された。ＳＤ６号集石土坑に切られる。Ｎ－ 12°－Ｗに長軸方位をとる。長軸長 2.1 m、壁残高 0.74 mの規模である。平面楕円形、断面逆梯形の形態を呈する。

出土遺物は皆無であり、本址の時期は不明である。

第３節　集石土坑

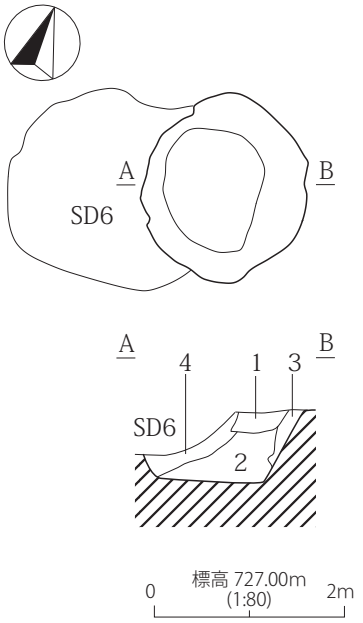
○ＳＤ１号土坑（第 33 図）

Ｑ４グリットで検出された。Ｐ 37 に切られる。Ｎ－ 90°－Ｅに長軸方位をとる。長軸長 2.06 m、短軸長 1.42 m、壁残高 0.43 m、面積 2.16㎡の規模である。平面楕円形、断面逆梯形の形態を呈する。集石は底面には達し



D19 号土坑（2）

第 31 図　土坑 15



D20 号土坑

1．暗赤褐色土層（5YR3/2）　ローム粒子・パミス少含。
2．黒色土層（5YR1.7/1）　φ1㎝大パミス含、φ1㎝大ロームブロック極少含。
3．灰褐色土層（5YR5/2）　φ3㎝大パミス・ローム粒子多含。
4．にぶい橙色土層（5YR7/4）　ローム二次堆積。＝人為埋土。

第 32 図　土坑 16

ていない。覆土は粘質土で石を固めている。隣接するＰ 18 も同様であるが、礎石の基礎と思われる。

遺物は灰釉陶器、須恵器、縄文土器、陶器、石器・石製品が出土している。1 は灰釉陶器の碗片で、底部に糸切痕を残す。2 は平行叩目の須恵器甕片、3 ～ 5 は縄文土器の深鉢片で、3・4 は曽利Ⅰ式、5 は加曽利ＥⅣ式である。6 は 18 世紀末の前山焼擂鉢片、7 は幕末の土瓶の蓋片である。石器・石製品は 8・9 の打製石斧、10 ～ 14・16 の砥石、15 の石皿が出土している。砥石は 12 が定型化した砥石の他は扁平な石を用いているが、対象が金属と思われるため砥石とした。15 の石皿は溝状の使用痕が全面に認められる。破損した石皿を砥石に転用したものと思われる。

以上の出土遺物の特徴から本址は近世の所産と考えられ、家の基礎の一部と思われる。

○ＳＤ２号土坑（第 17 図）

Ｐ４グリットで検出された。Ｄ２号土坑を切る。Ｎ－ 67°－Ｗに長軸方位をとる。長軸長 1.42 m、短軸長 1.26 m、壁残高 0.36 m、面積 1.32㎡の規模である。平面楕円形、断面逆梯形の形態を呈する。集石は底面に集中している。

遺物は加曽利ＥⅣ式の深鉢片が 1 点出土している。

本址の年代は、重複するＤ２号土坑の年代である 17 世紀を遡ることはないため、17 世紀以降と考えられる。

○ＳＤ３号土坑（第 34 図）

Ｓ４グリットで検出された。Ｄ１号土坑に切られる。Ｎ－ 49°－Ｗに長軸方位をとる。長軸長 4.23 m、短軸長 3.32 m、壁残高 0.42 mの規模である。５基以上の掘り込みの複合であり、家の基礎の一部分と思われる。

遺物は土師質土器、陶器、石器・石製品が出土している。1・2 は土師質土器内耳鍋、3 ～ 11 は陶器である。3 ～ 6 は同一個体と思われる 17 世紀後半の唐津の呉器手碗。7・8 は 18 世紀の肥前系・平戸波佐見の陶胎碗。9 は 19 世紀の瀬戸・美濃の丸碗。10 は 18 世紀末～ 19 世紀の前山焼の片口碗。11 は 8 世紀末～ 19 世紀の器種不明の瀬戸・美濃焼である。石器・石製品は 12 の砥石、13 の磨石、14 の擂鉢の器種が認められる。

以上の出土遺物の特徴から本址は 18 世紀末～ 19 世紀の近世の所産と考えられる。

○ＳＤ４号土坑（第 34 図）

Ｌ３グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。Ｎ－ 69°－Ｗに長軸方位をとる。長軸長 2.55 m、短軸長 1.98 m、壁残高 0.18 m、面積 4.11㎡の規模である。平面楕円形、底面２面の逆梯形の断面形態である。集石は上面に存在し、底面には達していない。

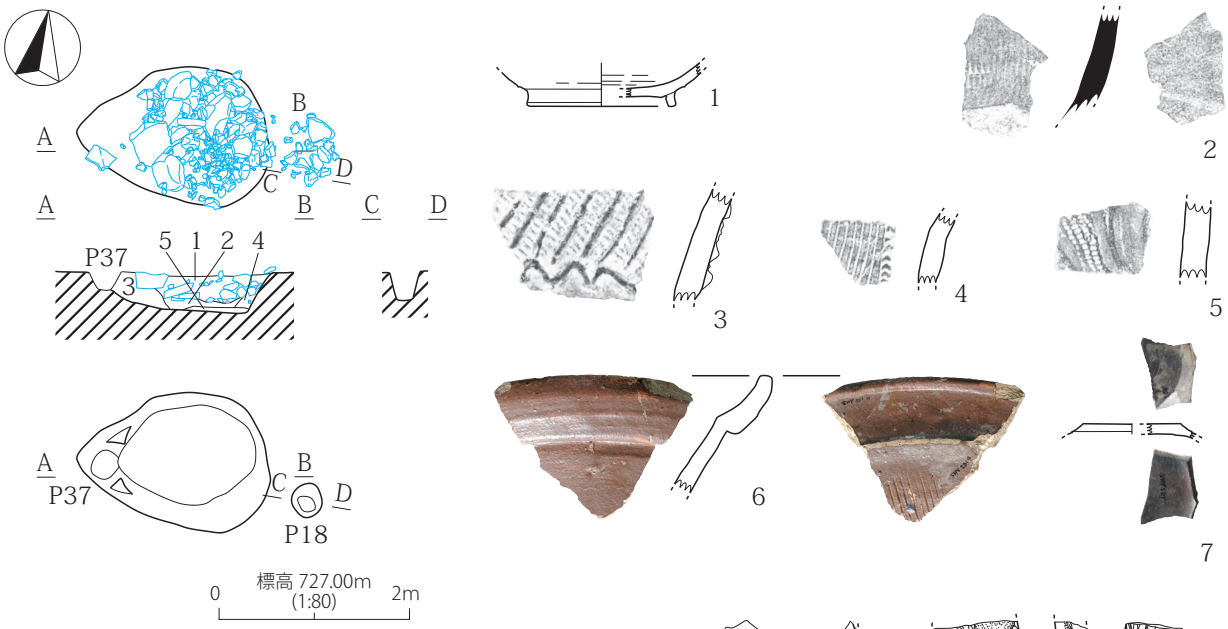
遺物は縄文土器、石器・石製品が出土している。縄文土器は 1 の中期後半加曽利ＥⅢ式の深鉢片 1 点が認められる。石器・石製品は２～３の砥石、5 の磨石、6 の加工痕のある剝片、7 の五輪塔の地輪と思われる立方体に加工された石が存在する。

以上の出土遺物の特徴から本址は中世以降の所産と考えられる。

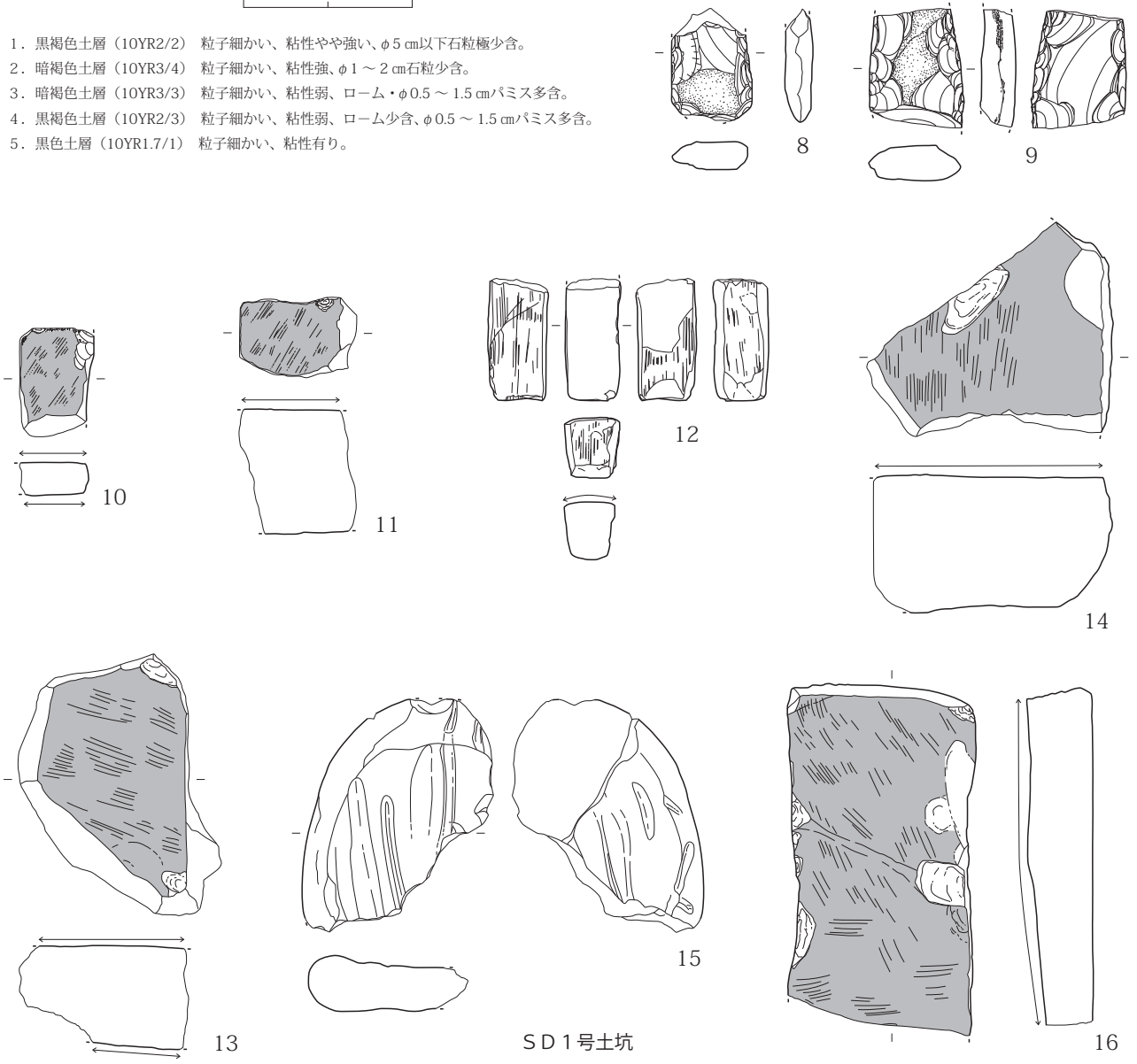
○ＳＤ５号土坑（第 35・36 図）

Ｃ 11 グリットで検出された。Ｄ 15 号土坑を切る。Ｎ－ 76°－Ｗに長軸方位をとる。湧水が激しく底面を確認することは出来なかった。長軸長 3.17 m、短軸長 2.9 m、面積 6.8㎡の規模である。平面形態は不整な円形である。本址は井戸であり、河原石を方形に積み上げた井戸枠が構築されていた。

遺物は土師器・土師質土器、須恵器、陶器、縄文土器、土製品、石器・石製品が出土している。土師器はかわらけが、土師質土器は内耳鍋が認められる。須恵器は甕片が 1 点認められる。陶器は瓶子と天目茶碗が 1 点づつ認められる。いずれも古瀬戸で、瓶子が中期様式 14 Ｃ？、天目茶碗が後期様式Ⅰ 14 Ｃ後半である。縄文土器は中期後半の加曽利Ｅ式や曽利式がほとんであるが、後期堀之内式も混在する。石器・石製品には打製石斧、磨

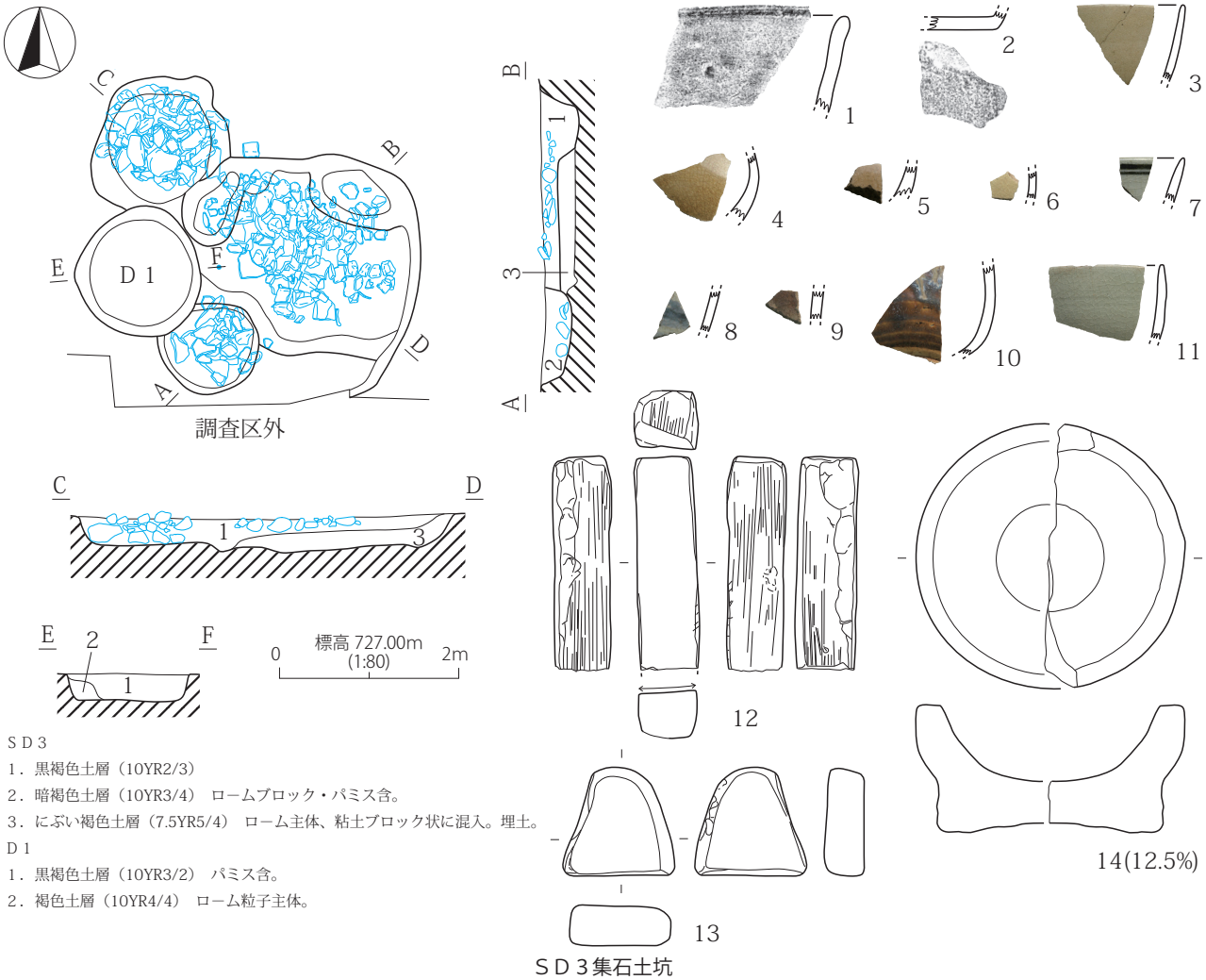


1．黒褐色土層（10YR2/2） 粒子細かい、粘性やや強い、φ5 ㎝以下石粒極少含。
2．暗褐色土層（10YR3/4） 粒子細かい、粘性強、φ1 ～ 2 ㎝石粒少含。
3．暗褐色土層（10YR3/3） 粒子細かい、粘性弱、ローム・φ0.5 ～ 1.5 ㎝パミス多含。
4．黒褐色土層（10YR2/3） 粒子細かい、粘性弱、ローム少含、φ0.5 ～ 1.5 ㎝パミス多含。
5．黒色土層（10YR1.7/1） 粒子細かい、粘性有り。



ＳＤ１号土坑

第 33 図　集石土坑 1



ＳＤ３

1．黒褐色土層（10YR2/3）

2．暗褐色土層（10YR3/4）　ロームブロック・パミス含。

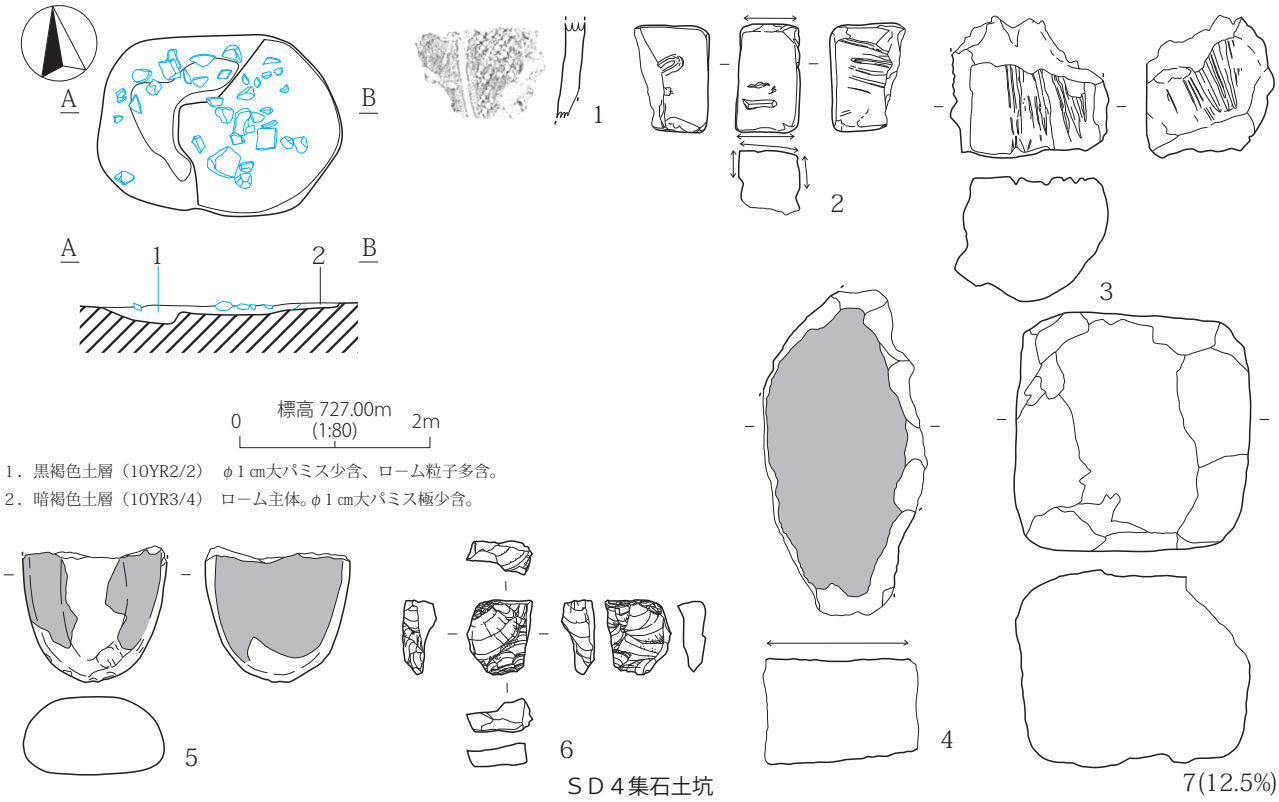
3．にぶい褐色土層（7.5YR5/4）　ローム主体、粘土ブロック状に混入。埋土。

Ｄ１

1．黒褐色土層（10YR3/2）　パミス含。

2．褐色土層（10YR4/4）　ローム粒子主体。

ＳＤ３集石土坑

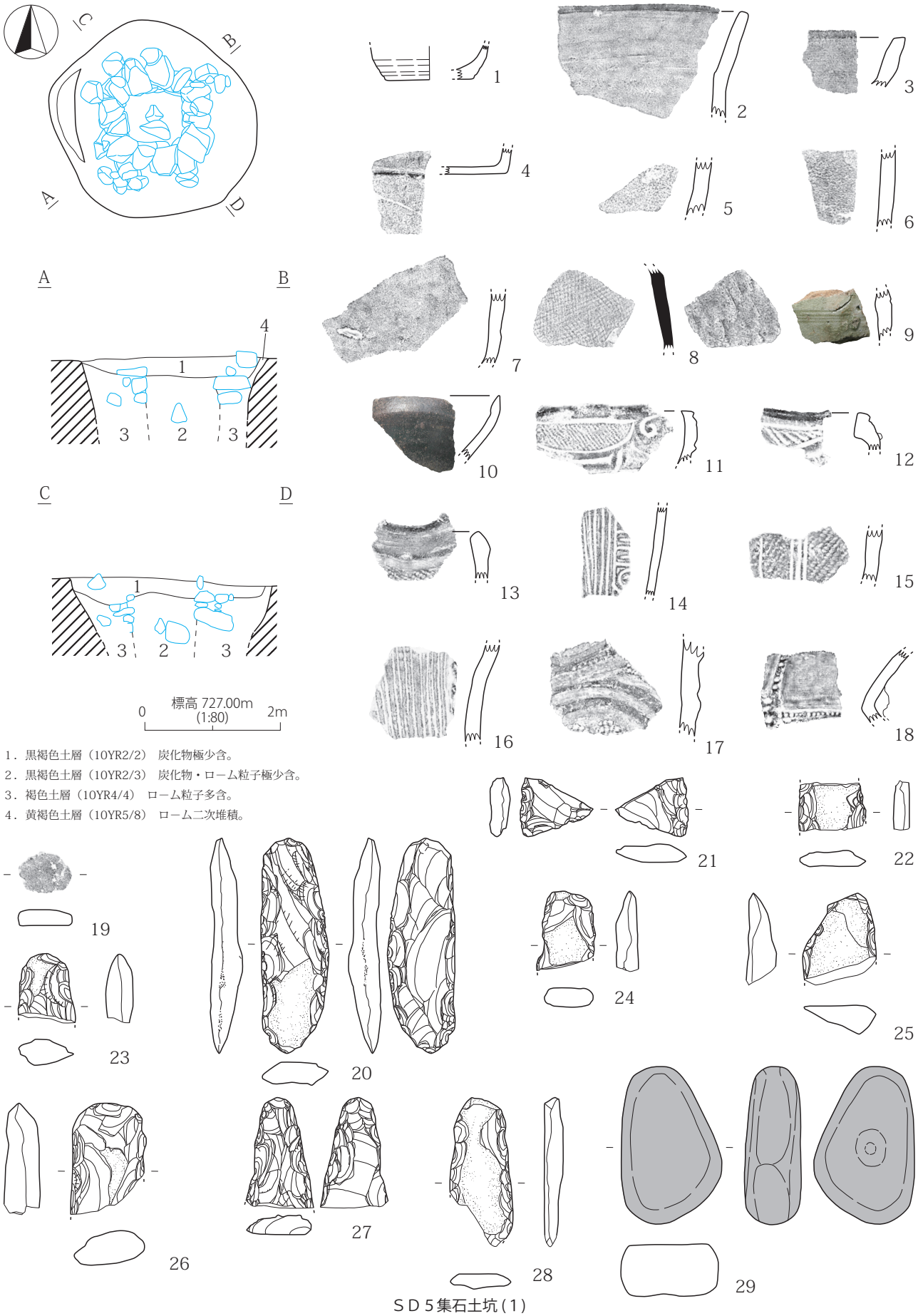


1．黒褐色土層（10YR2/2）　φ１㎝大パミス少含、ローム粒子多含。

2．暗褐色土層（10YR3/4）　ローム主体。φ１㎝大パミス極少含。

ＳＤ４集石土坑

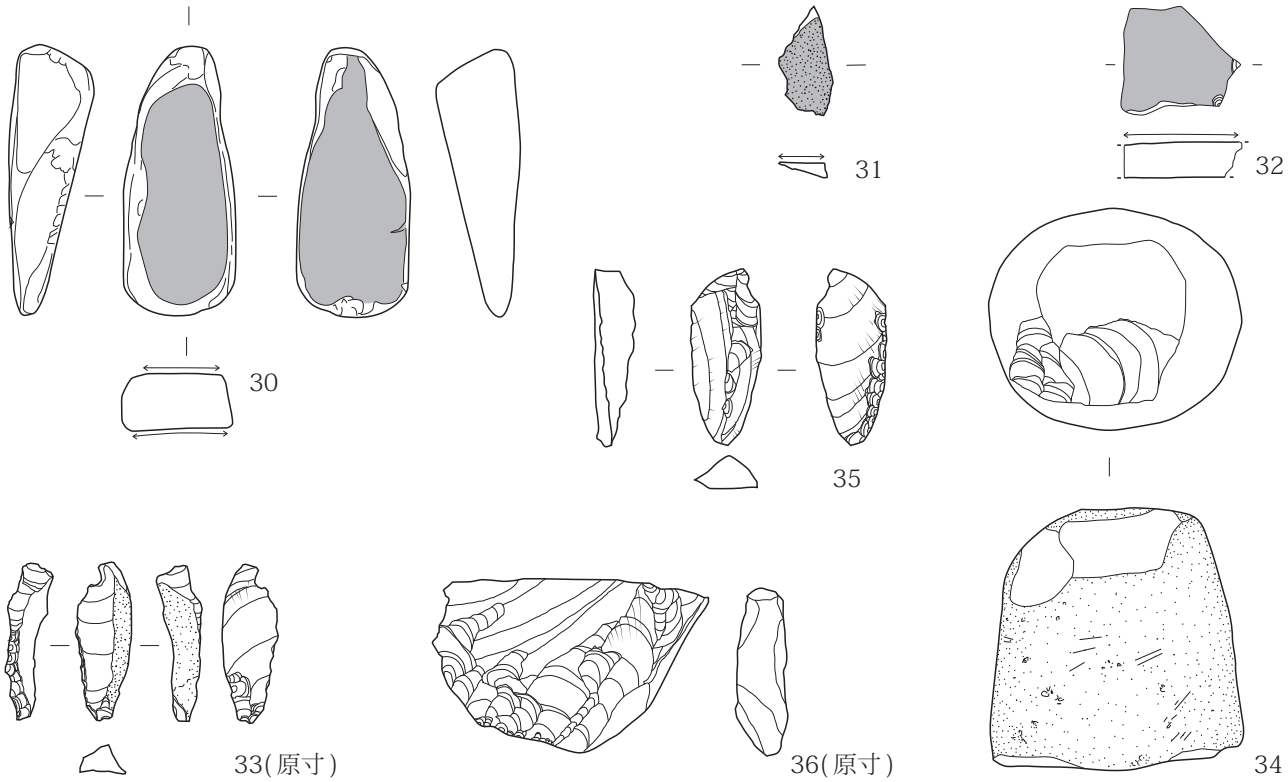
第 34 図　集石土坑 2



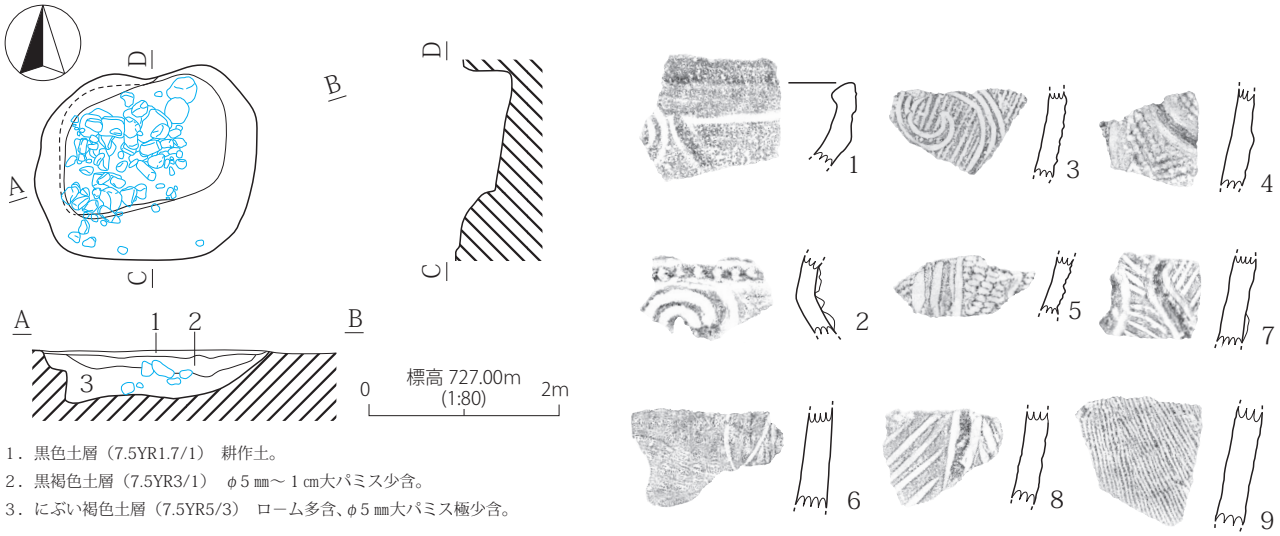
1．黒褐色土層（10YR2/2） 炭化物極少含。
2．黒褐色土層（10YR2/3） 炭化物・ローム粒子極少含。
3．褐色土層（10YR4/4） ローム粒子多含。
4．黄褐色土層（10YR5/8） ローム二次堆積。

ＳＤ５集石土坑（１）

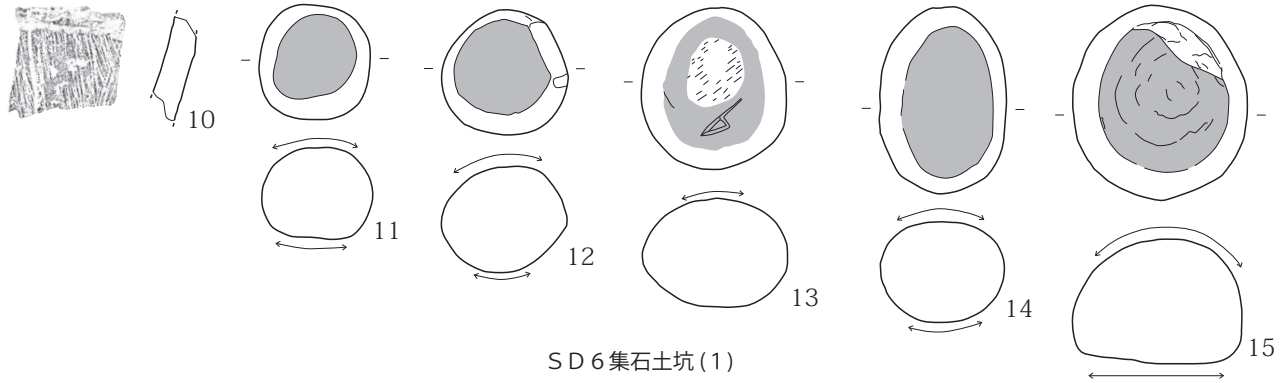
第 35 図　集石土坑 3



ＳＤ５集石土坑（２）

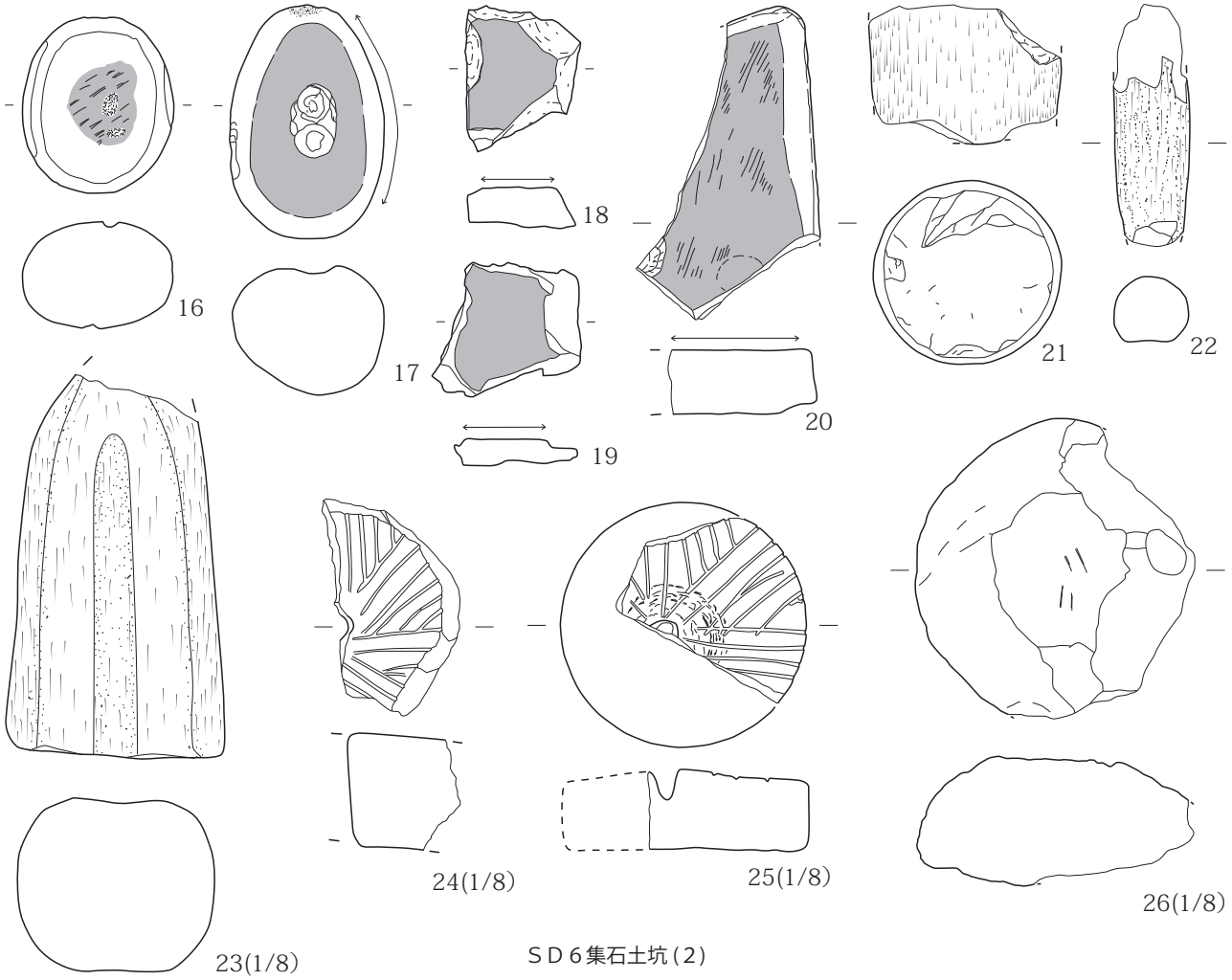


1．黒色土層（7.5YR1.7/1）　耕作土。
2．黒褐色土層（7.5YR3/1）　φ５㎜～１㎝大パミス少含。
3．にぶい褐色土層（7.5YR5/3）　ローム多含、φ５㎜大パミス極少含。

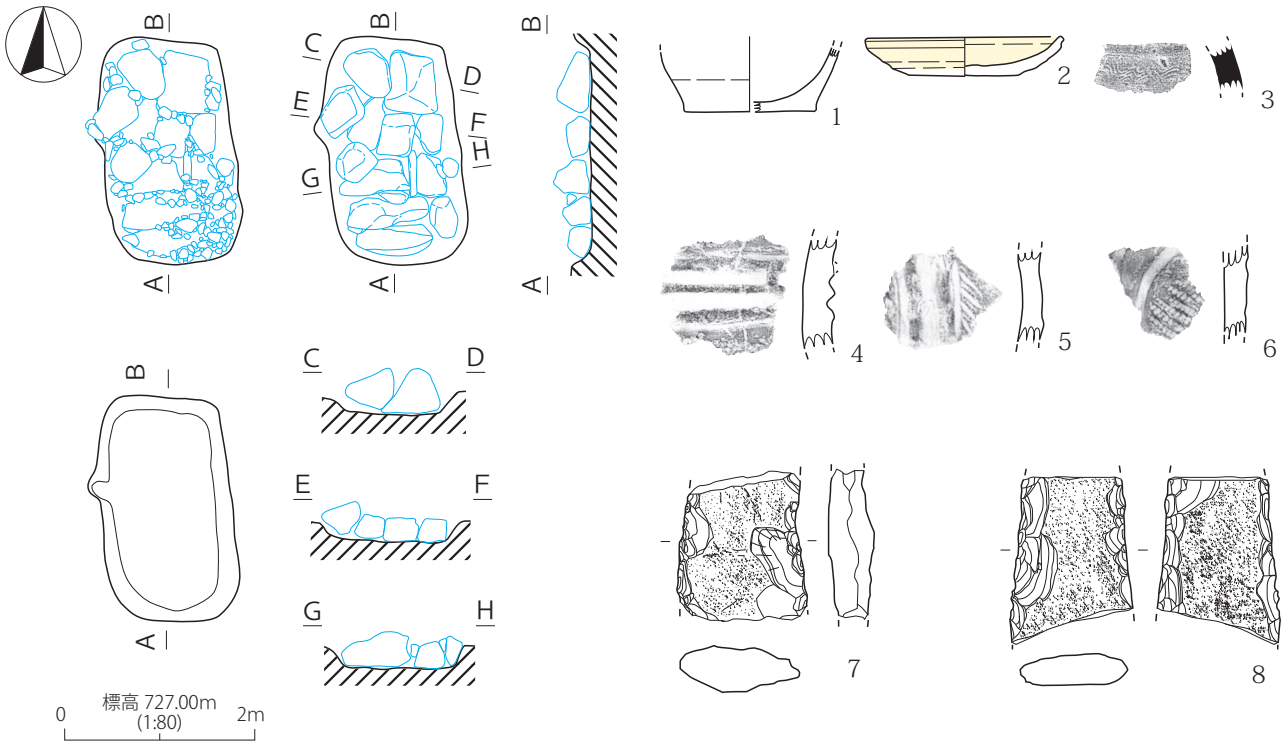


ＳＤ６集石土坑（１）

第 36 図　集石土坑４

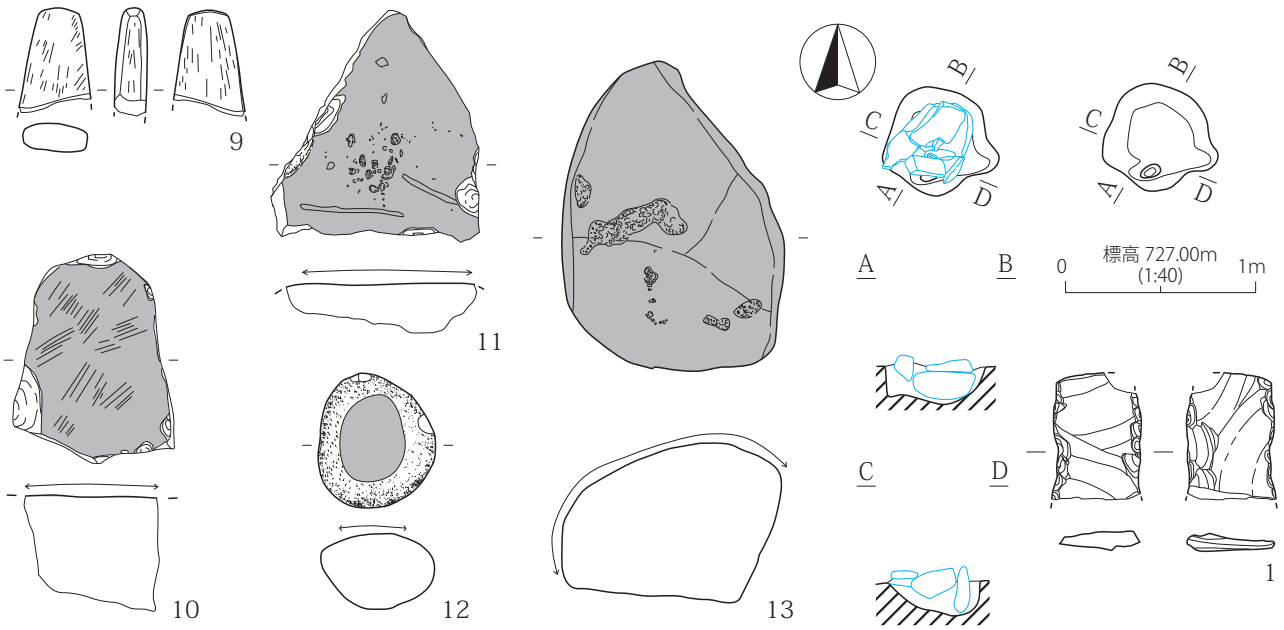


ＳＤ６集石土坑（２）



ＳＤ７集石土坑（１）

第 37 図　集石土坑 5



ＳＤ７集石土坑（２）　　ＳＤ８集石土坑

第 38 図　集石土坑６

石、砥石、石錐、石棒、加工痕のある剥片が認められる。ほとんどのものは井戸枠の構築材として集められたものと思われる。

以上の出土遺物の特徴から本址は中世以降の所産と考えられる。

○ＳＤ６号土坑（第 36・37 図）

Ｈ８グリットで検出された。Ｄ 20 号土坑を切る。Ｎ－ 72°－Ｅに長軸方位をとる。長軸長 2.45 m、短軸長 1.97 m、壁残高 0.56 m、面積 4.0㎡の規模である。平面形態は不整な楕円形、断面は西底面がオーバーハングし、２段落ちとなるが、東側は鍋底状になだらかな底面を形成する。集石は底面よりも上層に存在する。

遺物は縄文土器、石器・石製品が出土している。縄文土器は中期後半の加曽利Ｅ式、曽利式、郷土式である。石器・石製品は磨石、磨・敲石、凹敲石、凹・敲・磨石、砥石、石棒、石臼、五輪塔が出土している。石材として集められたものと思われる。

以上の出土遺物の特徴から本址は中世以降の所産と考えられる。

○ＳＤ７号土坑（第 37・38 図）

Ｋ４グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。Ｎ－８°－Ｗに長軸方位をとる。長軸長 2.35 m、短軸長 1.41 m、壁残高 0.22 m、面積 3.15㎡の規模である。平面隅丸長方形、断面逆梯形の形態である。集石は底面からギッシリと組上げられ、隙間には小石が充填されていた。集石土坑というよりは集石とした方がよいのかもしれない。

遺物は土師器、須恵器、陶器、縄文土器、石器・石製品が出土している。土師器はロクロ甕片が１点、須恵器は壺片が１点、陶器は前山焼の燈明皿が１点、縄文土器は中期後半の曽利式、加曽利Ｅ式、唐草門系の土器片が各々１点認められる。石器・石製品は打製石斧、砥石、磨石の器種が認められる。

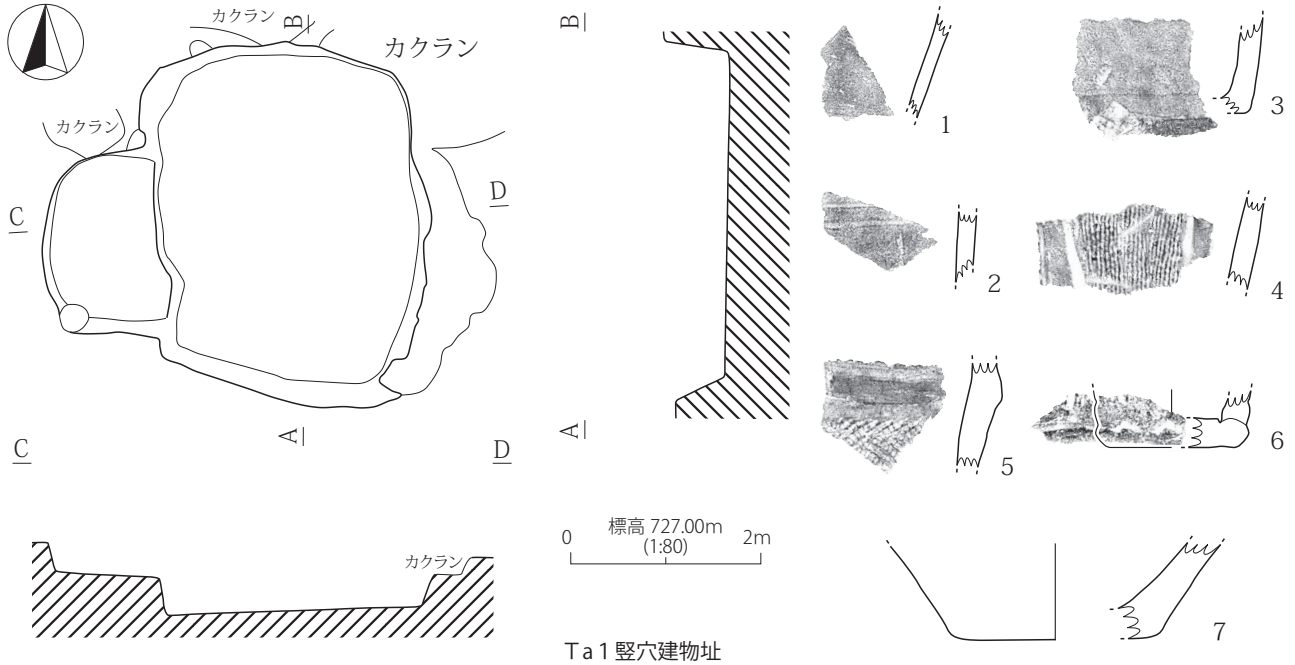
以上の出土遺物の特徴から本址は近世の所産と考えられる。

○ＳＤ８号土坑（第 38 図）

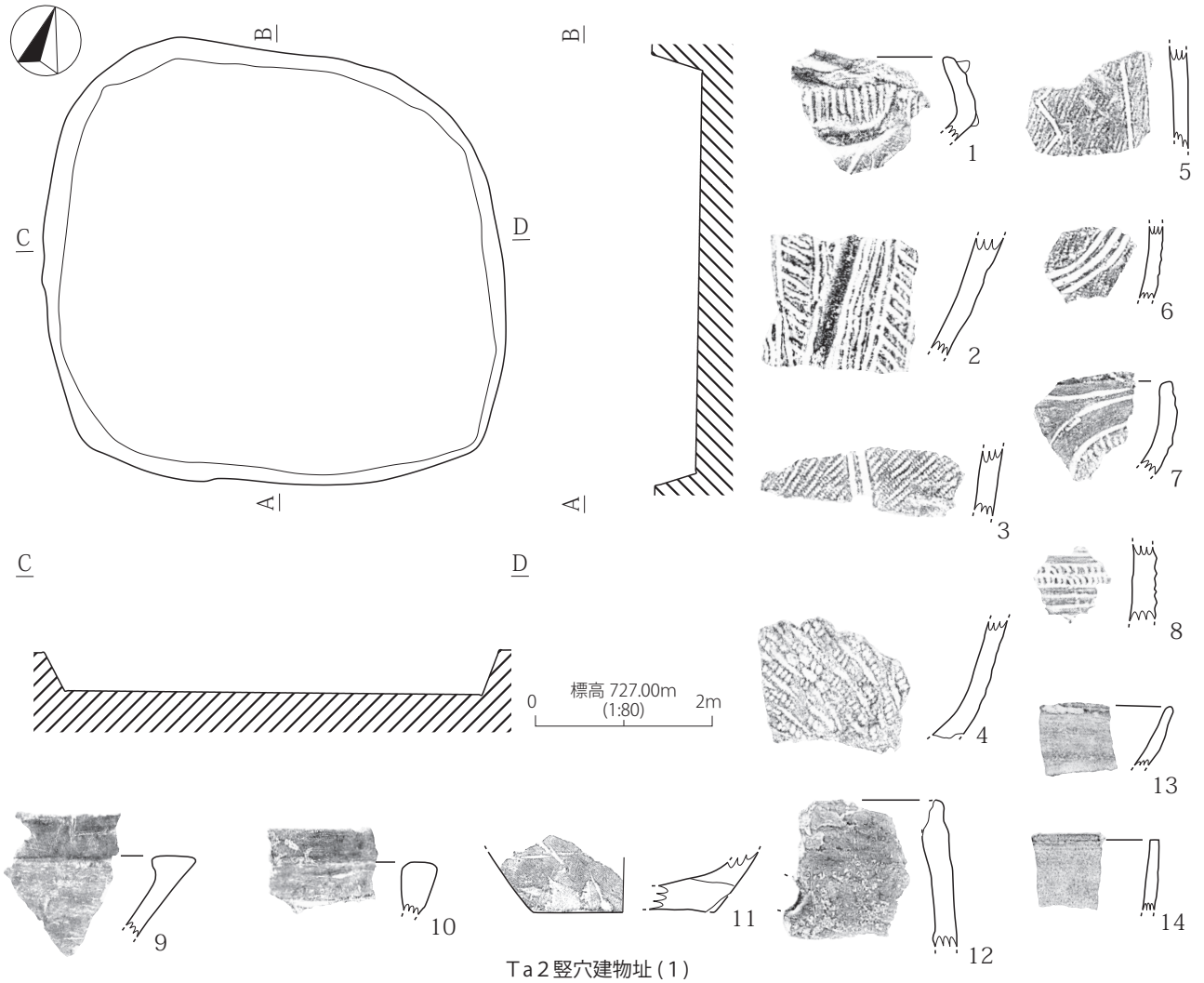
Ｉ７グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。Ｎ－ 30°－Ｅに長軸方位をとる。長軸長 1.09 m、短軸長 0.96 m、壁残高 0.38 m、面積 0.98㎡の規模である。平面不整円形、断面不整形の形態である。集石は底面から組上げられていた。集石土坑というよりは礎石とした方がよいのかもしれない。

遺物は打製石斧片が１点出土しているが、構築材として集められたものであろう。

本址の所産期は不明である。

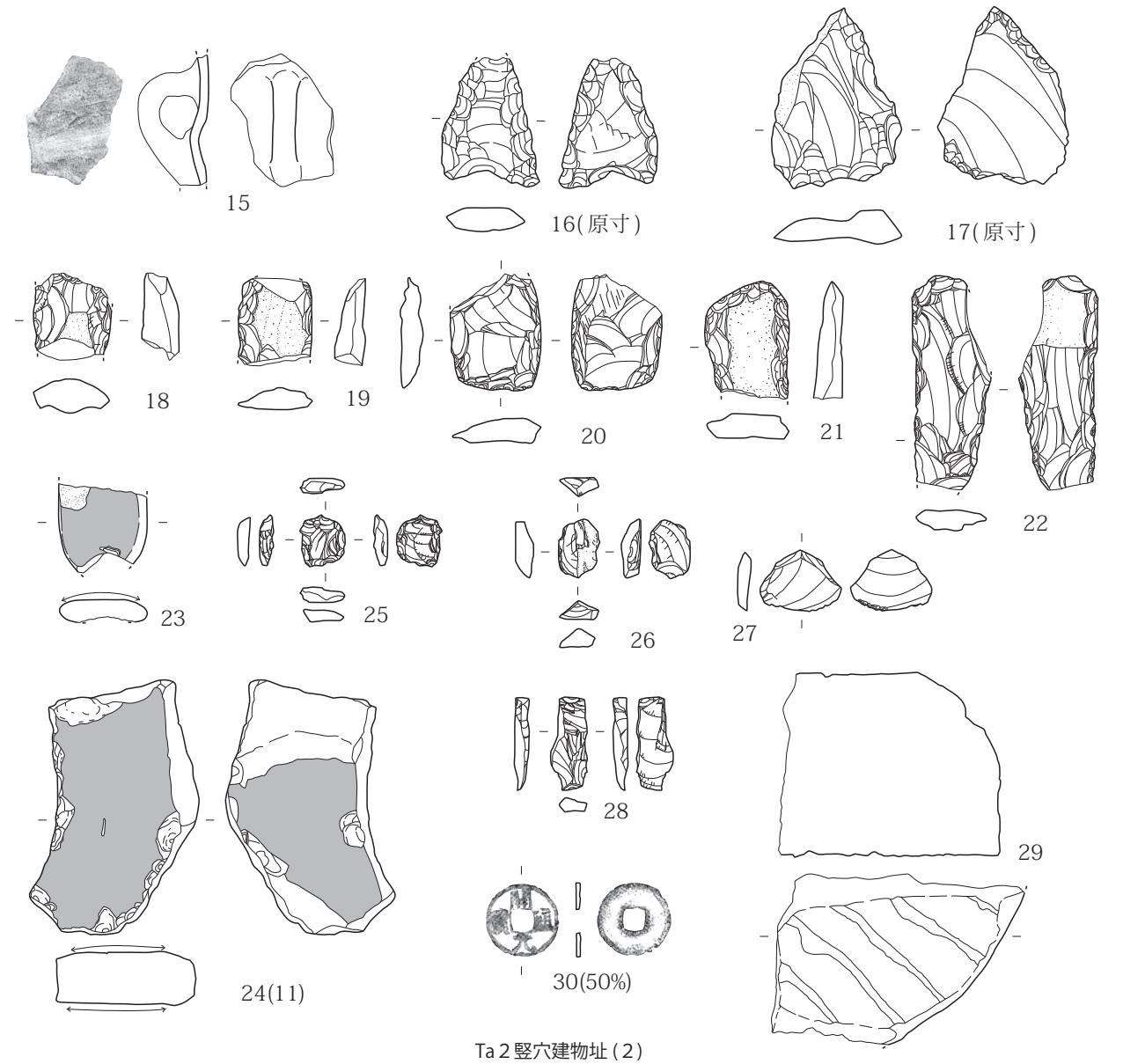


Ta１竪穴建物址

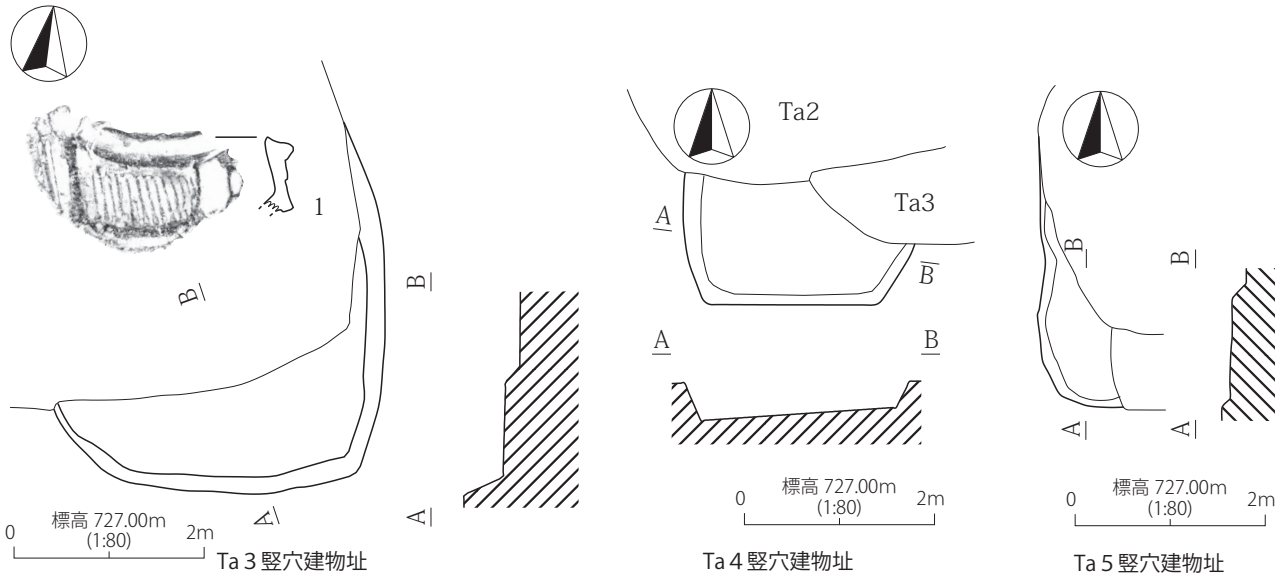


Ta２竪穴建物址（１）

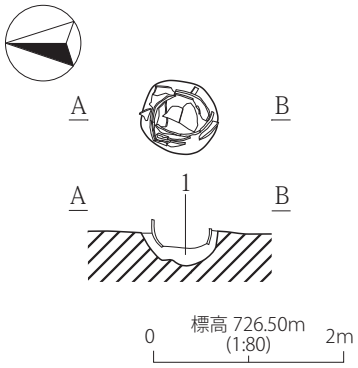
第 39 図　竪穴建物址（１）



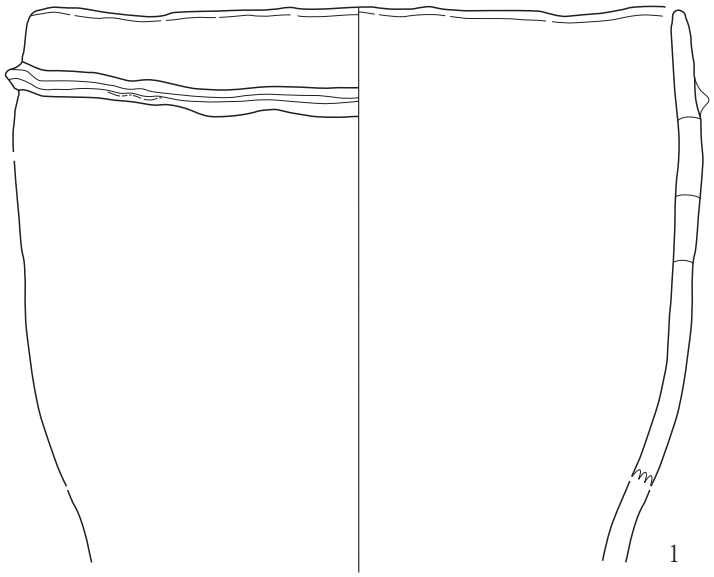
Ta 2 竪穴建物址 (2)

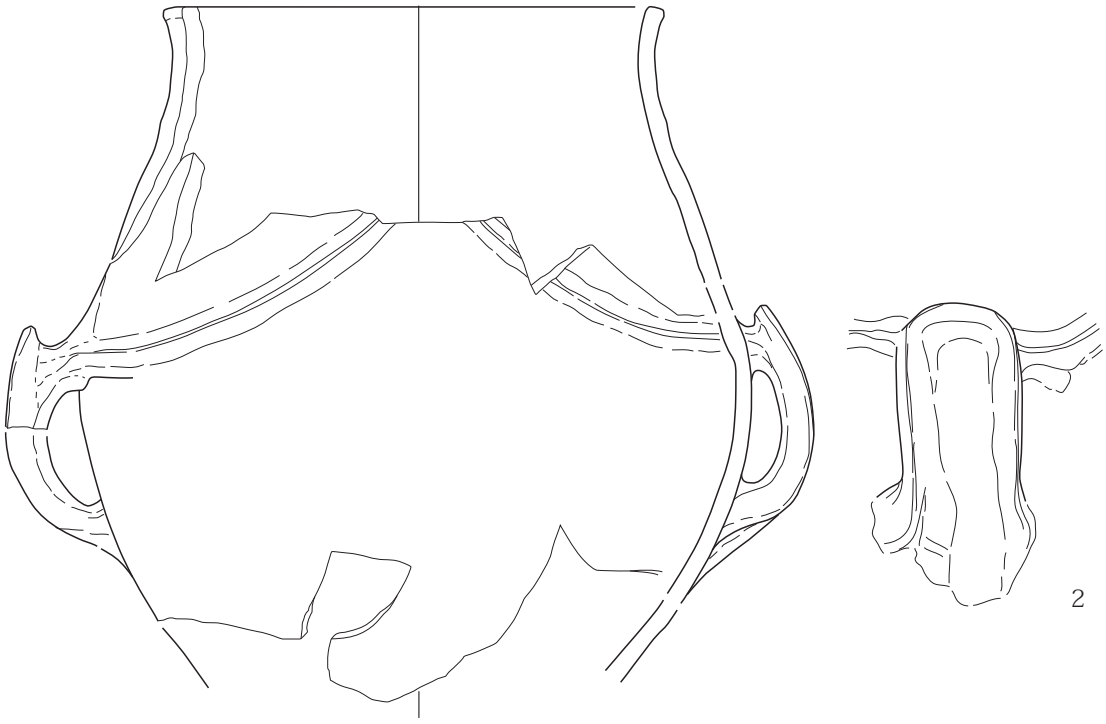


第 40 図　竪穴建物址（2）

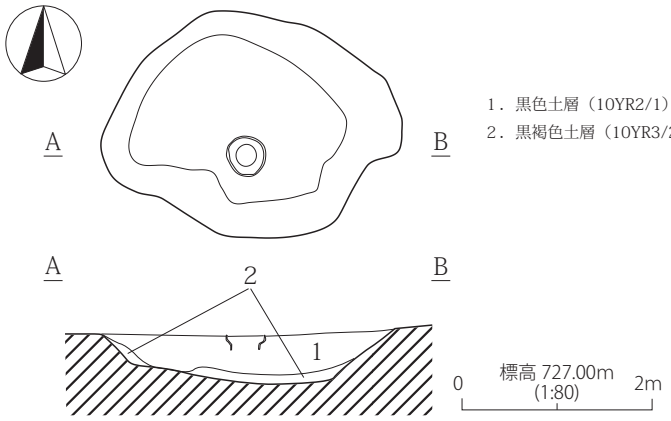


1．黒色土層（10YR2/1） ローム粒子多含、パミス含。

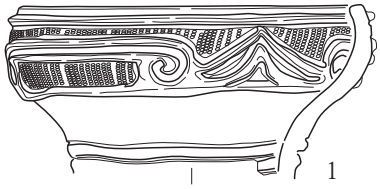




埋甕 1



1．黒色土層（10YR2/1） φ２㎝以下パミス・ローム粒子含。
2．黒褐色土層（10YR3/2） φ２㎝以下パミス・ローム粒子多含。



埋甕 2

第 41 図　埋甕

第４節　竪穴建物址

○Ｔａ１号竪穴建物址（第 39 図）

Ｅ 10 グリットで検出された。カクランによる破壊を受けるが他遺構との重複関係は有さない。Ｎ－９０°－Ｅに長軸方位をとる。長軸長約 4.05 m、短軸長 3.83 m、壁残高 0.77 m、面積約 11.9㎡の規模である。平面は西辺中央に方形の張り出し部分を有する方形、断面は逆梯形の形態である。張床、周溝、柱穴などの付属施設は一切認められなかった。

遺物は土師質土器の内耳鍋辺３点と縄文土器片が４点出土している。縄文土器は中期のものである。

以上の出土遺物の特徴から本址は中世の所産と思われる。

○Ｔａ２号竪穴建物址（第 39・40 図）

Ｆ 10 グリットで検出された。Ｈ５号住居址、Ｔａ３～５号竪穴建物址を切る。Ｎ－ 17°－Ｗに長軸方位をとる。長軸長約 5.19 m、短軸長 4.92 m、壁残高 0.52 m、面積約 22.83㎡の規模である。平面は隅丸方形、断面は逆梯形の形態である。張床、周溝、柱穴などの付属施設は一切認められなかった。

遺物は縄文土器片が 12 点と土師質土器の内耳鍋片３点、石器・石製品、銅製品が出土している。縄文土器は中期後半のものが大半を占めるが、中葉や後期のものも認められる。内耳鍋片は１点のみが内耳部分であり、他は口縁部片である。石器・石製品には打製石鏃、打製石斧、磨石、砥石、加工痕の有る剥片、石臼が認められる。銅製品は古銭（開元通宝）が１点出土している。

以上の出土遺物の特徴から本址は中世の所産と思われる。

○Ｔａ３号竪穴建物址（第 40 図）

Ｆ 10 グリットで検出された。Ｔａ２号竪穴建物址に切られ、Ｔａ４号竪穴建物址を切る。壁残高 0.45 m以外の規模は不明である。平面は隅丸長方形を呈するものと思われる。断面は逆梯形の形態である。張床、周溝、柱穴などの付属施設は一切認められなかった。

遺物は縄文時代中期後半の深鉢口縁部片が１点出土している。

遺構の重複関係から本址の時期は中世以降と思われる。

○Ｔａ４号竪穴建物址（第 40 図）

Ｇ 10 グリットで検出された。Ｔａ２・３号竪穴建物址に切られ、Ｔａ５号竪穴建物址を切る。壁残高 0.4 m以外の規模は不明である。平面は長方形を呈するものと思われる。断面は逆梯形の形態である。張床、周溝、柱穴などの付属施設は一切認められなかった。

出土遺物は皆無であった。

遺構の重複関係から本址の時期は中世以降と思われる。

○Ｔａ５号竪穴建物址（第 40 図）

Ｇ 10 グリットで検出された。Ｔａ２～４号竪穴建物址に切られ、Ｈ５号住居址を切る。壁残高 0.4 m以外の規模は不明である。平面は長方形を呈するものと思われる。断面は逆梯形の形態である。張床、周溝、柱穴などの付属施設は一切認められなかった。

出土遺物は皆無であった。

遺構の重複関係から本址の時期は中世以降と思われる。

第５節　埋甕

○埋甕１（第 41 図）

Ｉ９グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。Ｎ－ 55°－Ｅに長軸方位をとる。長軸長 0.84 m、短軸長 0.78 m、壁残高 0.35 m、面積 0.5㎡の規模である。平面は円形、断面は鍋底の形態である。掘方は土器の法量に合わせ掘り込まれており、甕は２の中に１が入子状態で正位に埋設されていた。

出土遺物は埋設されていた２点の他には認められなかった。１は入子になっていた深鉢であり、口縁部に１条の隆帯が巡るほかは無文である。２は把手付の鉢で、把手は両耳である。文様は把手から弧状に口縁部に向かい

のびる２条の隆帯以外は施されない。
　以上の出土遺物の特徴から、本址の時期は縄文時代中期後半から後期初頭と思われる。

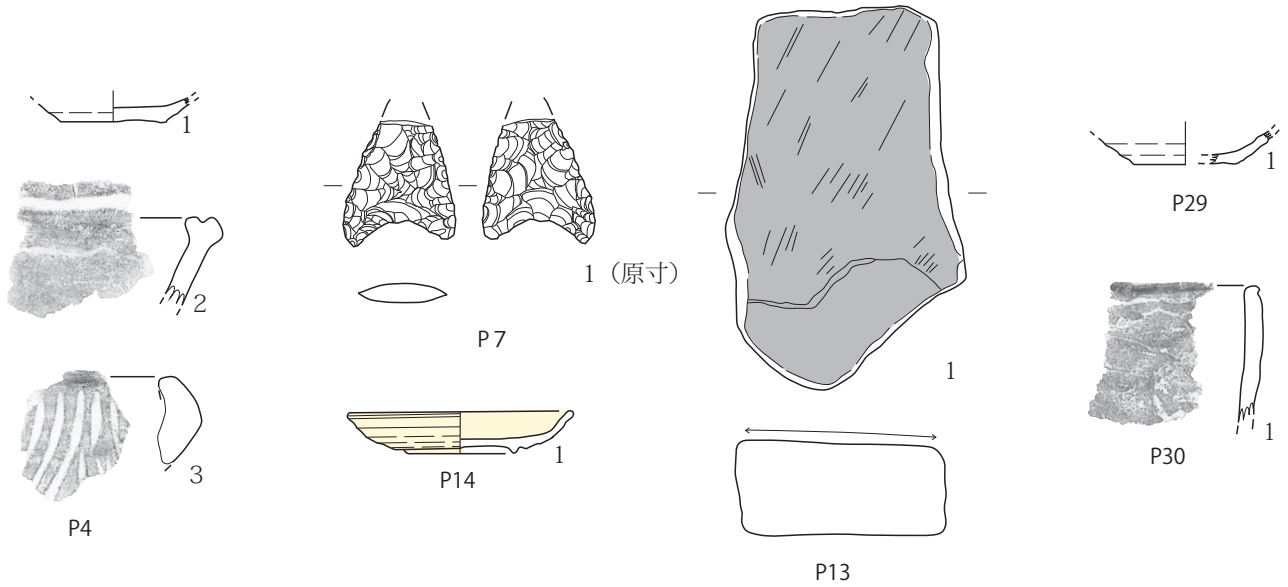
○埋甕２（第 41 図）
　Ｌ４グリットで検出された。カクランによる破壊を受けるほかは、他遺構との重複関係は有さない。Ｎ－90°－Ｗに長軸方位をとる。長軸長 3.15 m、短軸長 2.36 m、壁残高 0.54 m、面積 5.49㎡の規模である。平面は不整な楕円形、断面は逆梯形の形態である。埋甕は頸部下が欠損しており、掘方中央に正位で埋設されていた。
　出土遺物は埋設土器以外は存在しない。埋設土器は加曽利ＥⅡ式の深鉢である。
　出土遺物から、本址は縄文時代中期後半加曽利ＥⅡ式期の所産と思われる。

第５節　ピット（第 42 ～ 44 図）

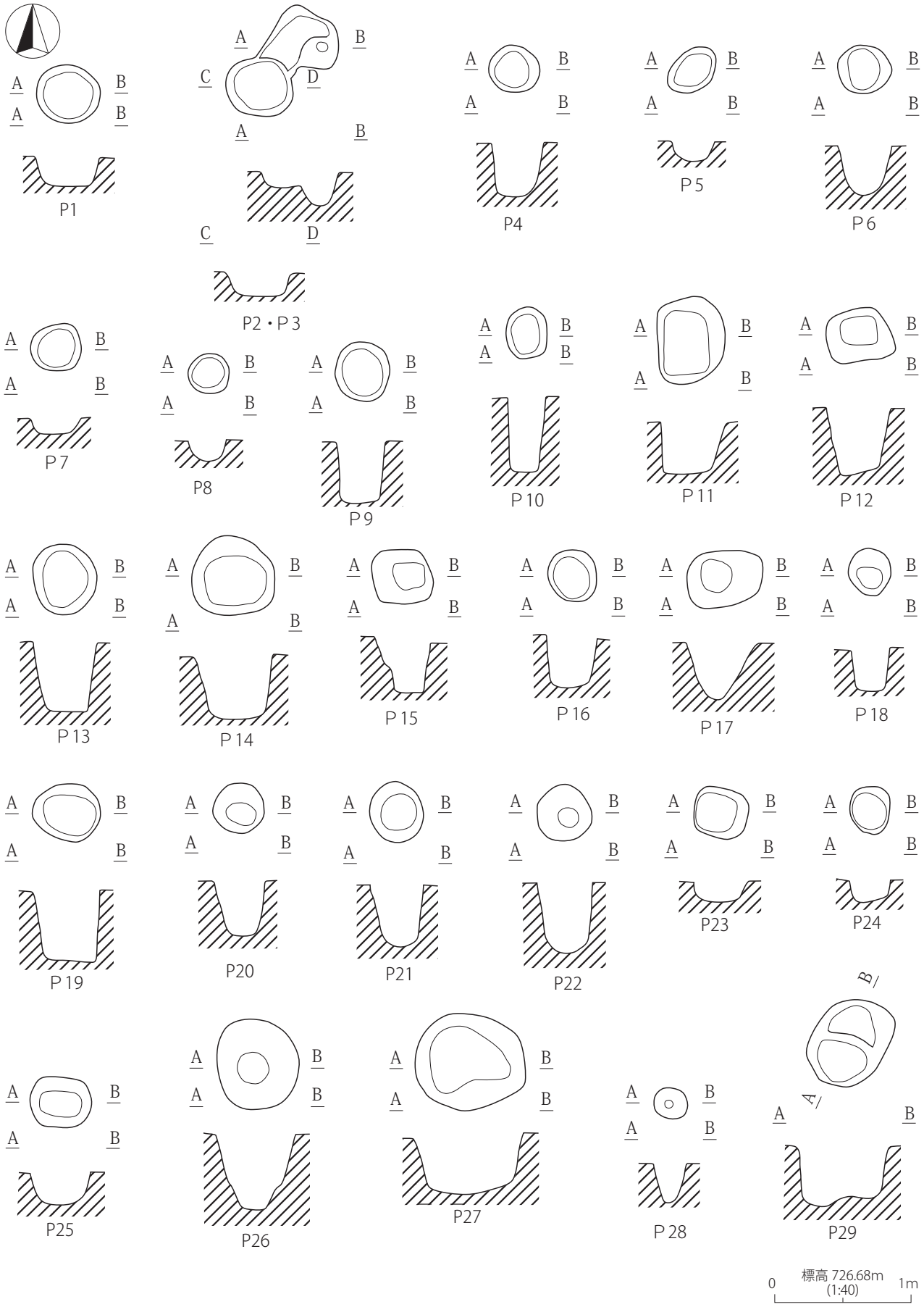
　北側の調査区から 40 基検出されている。平安時代の住居址や、近世遺構であるＳＤ１を切るものが存在することから時期的には中世以降に構築されたものと思われる。平面形態は円、楕円形が主体であるが、方、長方形のものも認められる。断面形態は逆梯形を基本とし、深度は深い傾向にある。
　遺物は P4・P7・P13・P14・P29・P30 の６基から出土している。P4 からは、土師器坏片１点、縄文時代中期後半の深鉢片が２点、P7 からは、黒曜石製の打製石鏃が１点、P13 からは砥石が１点、P14 からは 17 世紀の瀬戸・美濃製丸皿片が１点、P29 からは土師器坏片が１点、P30 からは縄文時代後期の深鉢片が１点が出土した。
　これらのピットの多くは、集石土坑 SD １～３とともに近世の家を構成していた可能性が強いものと思われる。

第６節　遺構外出土遺物（第 45 ～ 48 図）

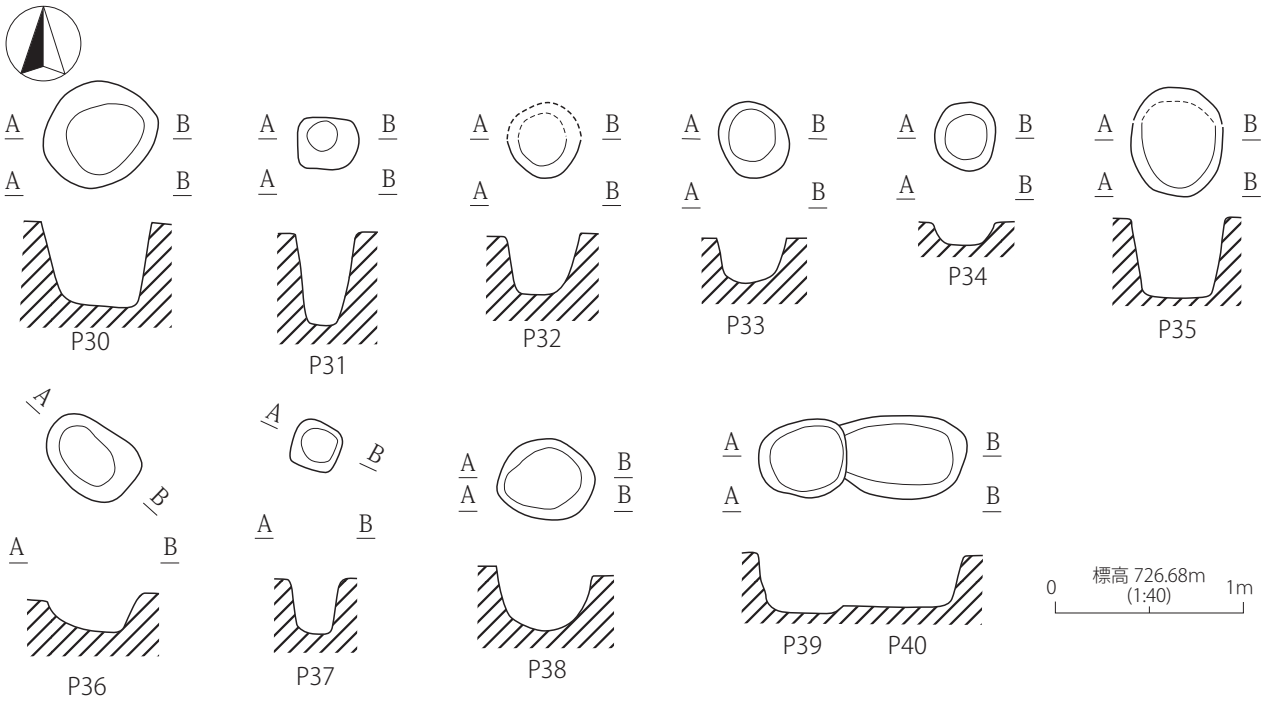
遺構外出土遺物としては縄文土器、土師器、灰釉陶器、陶器、石器・石製品、銅製品が出土している。縄文土器には前期（33）のもの、中期中葉（32・66・67）、中期後半（1 ～ 31、34 ～ 40、49）、後期（41 ～ 48、50 ～ 65）の時期のものが認められるが主体となるのは中期後半から後期のものである。中期後半土器の中では加曽利Ｅ式の占める割合が高く、時期的にはＥⅠからＥⅢ期が大半である。他型式の土器としては曽利式や唐草文系が多く、在地の郷土式は最も少ない。これは、郷土式が当地方で主体となる時期以前に当遺跡の中期後半期の隆盛期が位置するためと思われる。後期の土器は称名寺式が主体である。土坑出土資料にはまとまった量の堀之内２式が認められることから、中期後半終末期から堀之内２式までの期間が当遺跡における縄文時代後期の隆盛期と考えられる。土師器は平安時代のものと、中世以降の土師質土器が認められる。土師質土器の大半は内耳



第 42 図　ピット出土遺物


P1
P2・P3
P4
P5
P6
P7
P8
P9
P10
P11
P12
P13
P14
P15
P16
P17
P18
P19
P20
P21
P22
P23
P24
P25
P26
P27
P28
P29
標高 726.68m
(1:40)
0
1m

第 43 図　ピット (1)



第 44 図　ピット (2)

鍋と思われる土鍋である。灰釉陶器は 1 点のみ皿が出土している。陶器は近世のものであり、北調査区に存在したと思われる江戸時代の家に伴うものであろう。石器・石製品には打製石鏃、打製石斧、磨・敲石、凹・磨・敲石、砥石、加工痕のある剥片、石錐の器種が認められる。最も多いものは打製石斧で 27 点認められた。次いで加工痕のある剥片が 19 点、砥石が 13 点、打製石鏃が 6 点であり他の器種は少数であった。銅製品は 2 点の古銭が出土している。寛永通宝と紹聖元寶である。

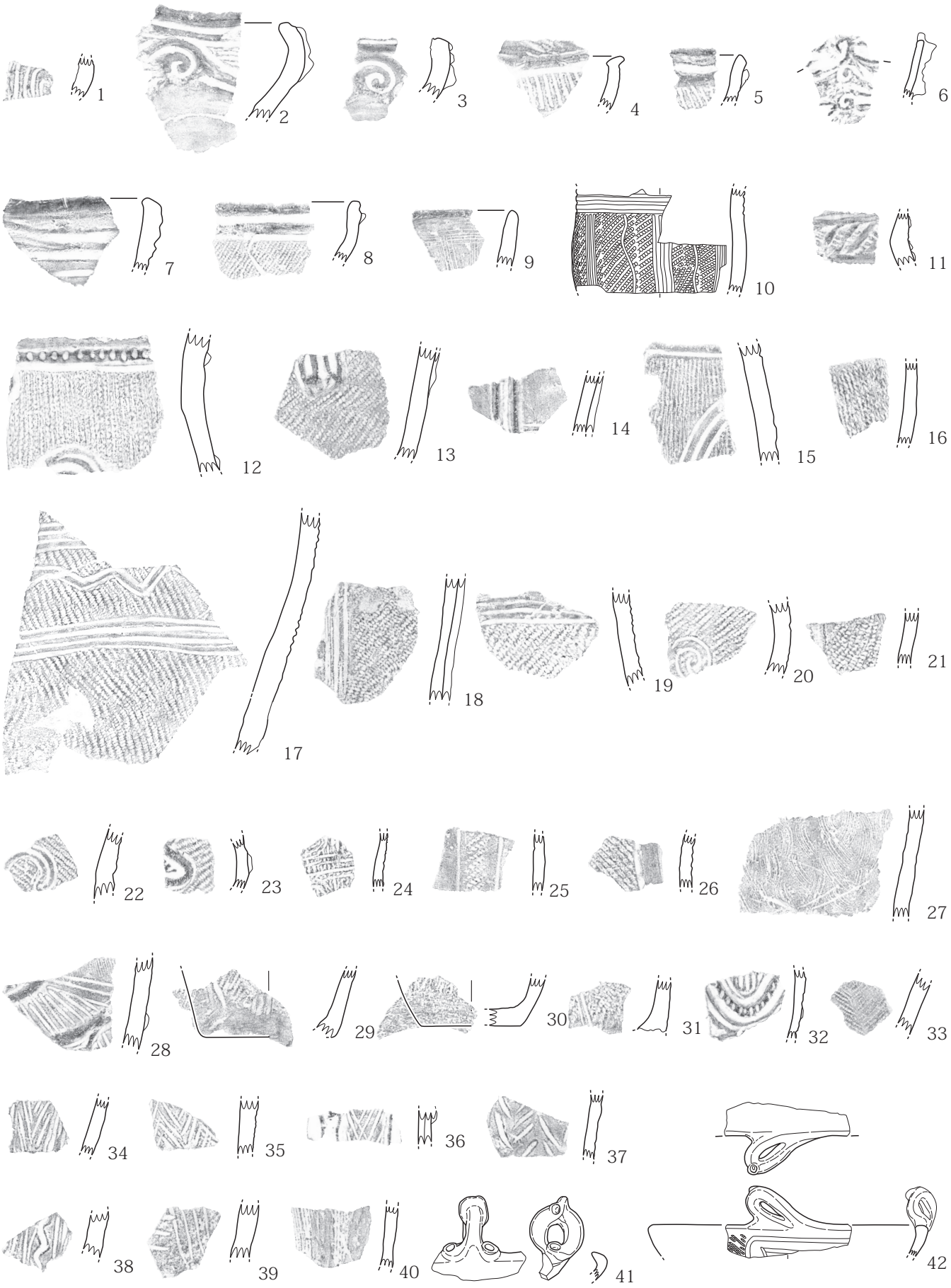
以上のように、遺構外出土遺物は遺構内出土遺物と同様な時期・器種であり、ほとんどのものは本来遺構内に包括されていたものがと思われる。

第Ⅲ章　まとめ

山伏木遺跡の調査が行われたのは平成元年であり、調査から 30 年の歳月が過ぎ去った。遺跡周辺では調査後に本格的な発掘調査を行う必要が生じるような開発は行われておらず、山伏木遺跡の調査は、当該地域の様相を知りえる重要な資料と言える。

縄文時代の成果としては、平坦な沖積平野にも中期の集落が展開することが判明したことが挙げられる。遺跡の北を東西に走る上信越自動車道の調査では、平尾富士の裾野部に立地する北山寺遺跡や丸山遺跡、大星尻古墳群などの遺跡が調査されているが、前期から中期初頭の遺構・遺物が主であり、当遺跡と同時期のものは稀である。上信越自動車道を更に遡り標高 900 mの香坂地区の吹付遺跡では、中期後半～後期前葉の集落が発見されており、当遺跡との時期的重複が確認できる。しかし中期後半の遺構・遺物は中期後半の後半部分である。以上から、平尾富士の山麓尾根端部に営まれていた縄文時代集落は、中期中葉の後半に沖積平野面に進出し中期後半加曽利ＥⅡ期まで存続し、ＥⅢ期以降は再度山麓尾根端部や斜面に立地するものと、そのまま沖積平野面に展開するものに分かれ、双方とも後期前葉の堀之内期まで継続する。という想定が出来る。かなり乱暴な想定ではあるが、中期中葉の後半と中期後半の加曽利ＥⅡ期、後期堀之内期に変化要因が存在するようである。遺物面からは、中期後半加曽利ＥⅠからⅡ式期においては、加曽利系土器が主体であり、曽利式や唐草門系土器は主体ではない。石器に占める石鏃の比率は低く、打製石斧や加工痕のある剥片が多く認められることから、食料獲得手段としては採取の比重が高かったのかもしれない。後期については、東信地域では遺跡の減少化傾向はなく、むしろ増加しているように思われる。当遺跡では堀之内期で集落は断絶している。

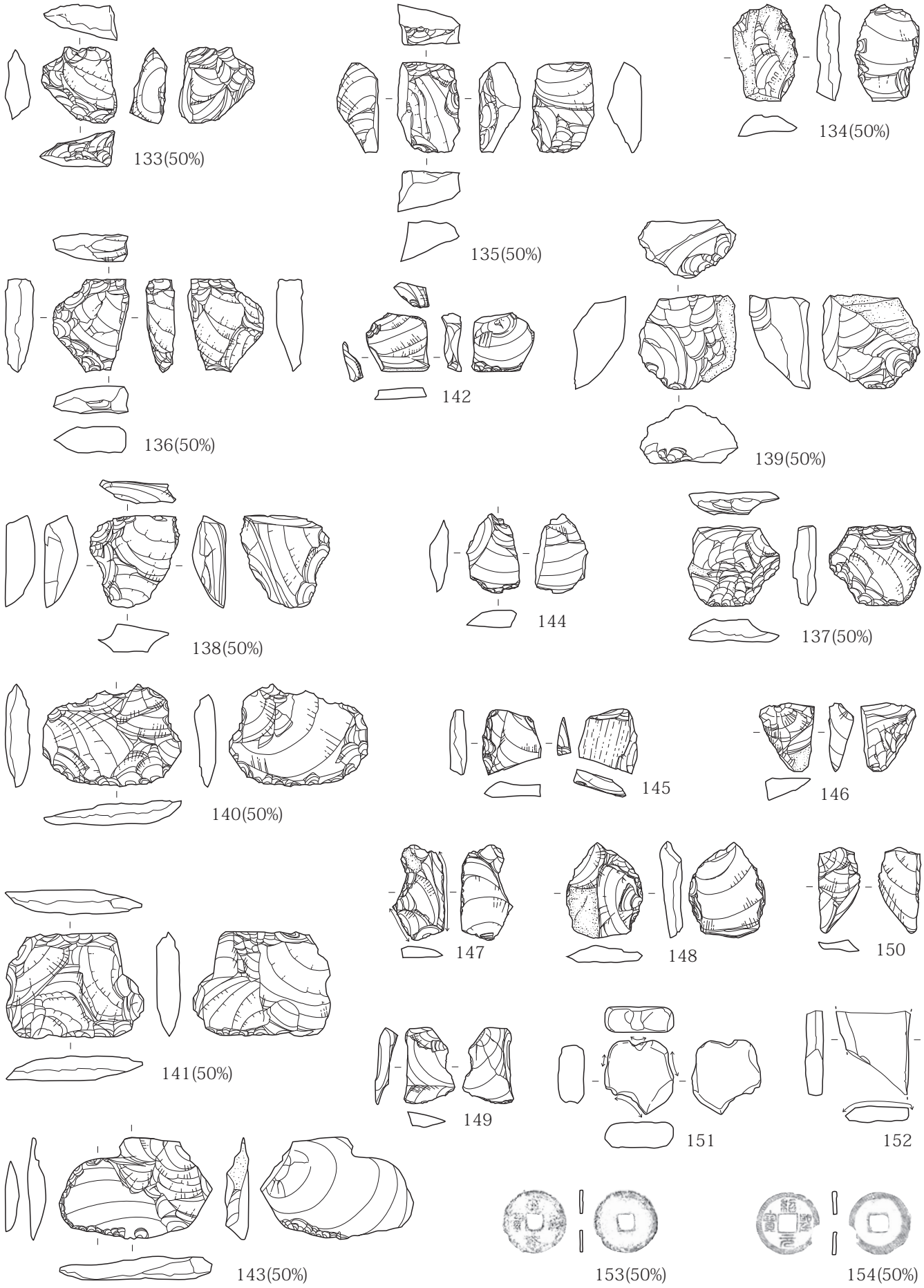
平安時代の集落は平尾富士裾野部や、尾根間の扇状地でも集落が発見されている。掘立柱建物址は少数で、住



第 45 図　遺構外出土遺物 (1)

第 46 図　遺構外出土遺物 (2)

第 47 図　遺構外出土遺物 (3)



第 48 図　遺構外出土遺物 (4)

遺構計測表 (1)

遺構名	検出位置	重複関係	規模					ピット	付属施設	備考	時期
			主軸方位	長軸長	短軸長	壁残高	面積				
Ｈ１	Ｑ３	Ｐ９・31・38に切られる	Ｎ－22°－Ｅ	3.81	3.38	0.11	12.19	3	カマド・周溝	西側の床面がベッド状に１段高い	奈良・平安時代Ｖ期
Ｈ２	Ｎ４	Ｐ２・3.39.40	Ｎ－０°－Ｅ	3.11	2.93	0.07	8.17	1	カマド	－	奈良・平安時代Ｖ期
Ｈ３	Ｎ３	－	Ｎ－０°－Ｅ	4.02	3.87	0.24	12.2	床面 5+ 掘方６	カマド・周溝	東西辺中央の２基のピットが主柱穴	奈良・平安時代Ⅵ期
Ｈ４	Ｉ 11	カクランに切られる	Ｎ－21°－Ｅ	3.69	3.51	0.13	9.34	14	炉・周溝	南西出入口	中期後半
Ｈ５	G10	Ta2 ～ 5、JD3、カクランに切られる	Ｎ－13°－Ｗ	5.33	4.9	0.14	－	16	炉・周溝	炉周辺床面よりやや深い	中期後半
Ｈ６	Ｆ６	カクランに切られる	Ｎ－23°－Ｗ	4.88	4.85	0.32	－	15	炉	－	中期中葉（勝坂Ⅳ・井戸尻Ｉ）
Ｈ７	Ｉ５	調査区外に延びる	－	－	－	0.29	－	7	－	－	中期後半
Ｄ１	Ｔ４	ＳＤ３を切る	Ｎ－０°－Ｅ	1.46	1.35	0.41	1.58	－	－	－	－
Ｄ２	Ｐ４	ＳＤ２に切られる	－	－	－	0.22	－	－	－	底面２段	－
Ｄ３	Ｒ４	－	Ｎ－20°－Ｗ	0.68	0.49	0.2	0.28	－	－	－	－
Ｄ４	Ｉ 12	－	Ｎ－12°－Ｅ	1.14	0.94	0.29	0.82	－	－	－	－
Ｄ５	Ｆ 11	－	Ｎ－24°－Ｗ	1.64	1.1	0.2	1.37	3	－	－	－
Ｄ６	Ｃ 11	－	Ｎ－15°－Ｗ	1.24	1.03	0.41	0.97	－	－	－	－
Ｄ７	Ｃ 11	－	Ｎ－15°－Ｗ	1.13	0.98	0.29	0.91	－	－	－	－
Ｄ８	Ｄ 11	－	Ｎ－０°－Ｅ	0.68	0.64	0.26	0.35	－	－	－	－
Ｄ９	Ｄ 11	－	Ｎ－13°－Ｗ	1.34	1.17	0.47	1.25	－	－	－	－
Ｄ１０	Ｆ７	－	Ｎ－7°－Ｅ	3.86	2.21	1.11	6.59	－	－	底面２段	－
Ｄ１１	Ｅ 11	－	Ｎ－30°－Ｅ	1.71	1.31	0.24	1.8	5	－	－	－
Ｄ１２	Ｇ 11	－	Ｎ－9°－Ｗ	1	0.8	0.13	0.59	3	－	－	－
Ｄ１３	Ｇ 11	Ｄ１４を切る	Ｎ－90°－Ｅ	1.31	0.96	0.08	0.96	－	－	－	－
Ｄ１４	Ｇ 11	Ｄ１３に切られる	Ｎ－8°－Ｗ	2.07	0.93	0.5	1.74	－	－	－	－
Ｄ１５	Ｂ 11	ＳＤ５に切られる	Ｎ－32°－Ｗ	0.74	－	0.18	－	－	－	－	－
Ｄ１６	Ｊ 12	－	Ｎ－26°－Ｅ	0.74	0.68	0.3	0.37	－	－	－	－
Ｄ１７	Ｊ 12	－	Ｎ－17°－Ｗ	0.68	0.6	0.21	0.33	－	－	－	－
Ｄ１８	Ｃ１０	カクランに切られる	Ｎ－62°－Ｅ	4.9	4.7	0.89	－	－	－	底面２段	－
Ｄ１９	Ｂ１１	－	Ｎ－50°－Ｅ	2.88	2.43	0.5	5.08	3	－	底面３段	－
Ｄ２０	Ｈ８	ＳＤ６に切られる	Ｎ－12°－Ｗ	2.1	－	0.74	－	－	－	－	－
ＳＤ１	Ｑ４	P37 に切られる	Ｎ－90°－Ｅ	2.06	1.42	0.43	2.16	－	－	－	－
ＳＤ２	Ｐ４	Ｄ２を切る	Ｎ－67°－Ｗ	(1.42)	(1.26)	0.36	(1.32)	1	－	－	－
ＳＤ３	Ｓ４	Ｄ１に切られる	Ｎ－49°－Ｗ	4.23	3.32	0.42	－	－	－	５基の掘り込みにより構成される	－
ＳＤ４	Ｌ３	－	Ｎ－69°－Ｗ	2.55	1.98	0.18	4.11	－	－	－	－
ＳＤ５	Ｃ 11	Ｄ 15 を切る	Ｎ－76°－Ｗ	3.17	2.9	－	6.8	－	－	井戸	中世以降
ＳＤ６	Ｈ８	Ｄ 20 を切る	Ｎ－72°－Ｅ	2.45	1.97	0.56	4	－	－	－	中世以降
ＳＤ７	Ｋ４	－	Ｎ－8°－Ｗ	2.35	1.41	0.22	3.15	－	－	－	近世
ＳＤ８	Ｉ７	－	Ｎ－30°－Ｅ	1.09	0.96	0.38	0.98	－	－	－	不明
Ｔａ１	Ｅ 10	カクランに切られる	Ｎ－90°－Ｅ	(4.05)	3.83	0.77	(11.9)	－	－	－	中世以降
Ｔａ２	Ｆ 10	Ｈ５・Ta3 ～ ５を切る	Ｎ－17°－Ｗ	5.19	4.92	0.52	22.83	－	－	－	中世以降
Ｔａ３	Ｆ 10	Ta2 に切られ、Ｔａ４を切る	－	－	－	0.45	－	－	－	－	中世以降
Ｔａ４	Ｇ 10	Ta2･3 に切られ、Ta5 を切る	－	－	－	0.4	－	－	－	－	中世以降
Ｔａ５	Ｇ 10	Ta2 ～ ４に切られ、H5 を切る	－	－	－	0.11	－	－	－	－	中世以降
埋甕１	Ｉ９	－	Ｎ－55°－Ｅ	0.84	0.78	0.35	0.5	－	－	入子	中期末～後期初頭
埋甕２	Ｌ４	カクランに切られる	Ｎ－90°－Ｗ	3.15	2.36	0.54	5.49	－	－	－	中期後半

居規模も総じて小規模である。今回発見された３軒の住居址も同様であり、山間の農村集落と思われる。

中世の遺構は、南側調査区の南東部分に集中しており、竪穴建物址と井戸が発見された。付近では北山寺遺跡から 15 世紀中頃から 16 世紀前半の遺構群が発見されている。年代的には判然としないが、東南方向に向かい遺構は続くものと思われる。

北側調査区に散在する集石土坑や土坑、ピットは近世の家の痕跡の可能性が強い。形状は知れないが、18 世紀～ 19 世紀に家が存在したものと思われる。

遺構計測表 (2)

遺構名	平面形態	長軸長	短軸長	壁残高	重複関係	備考	検出位置
Ｐ１	円形	0.95	0.87	0.44	－	10YR2/1	O4
Ｐ２	円形	1.01	0.87	0.23	P3 を切る	10YR2/1	O4
Ｐ３		－	1.03	0.49	P2 に切られる	10YR2/1	O4
Ｐ４	円形	0.76	0.71	0.79	－	10YR2/1、パミス多含	N4
Ｐ５	楕円形	0.81	0.56	0.32	－	10YR2/1	N4
Ｐ６	楕円形	0.81	0.72	0.72	－	10YR2/1、パミス多含	M4
Ｐ７	楕円形	0.77	0.7	0.23	－	10YR2/1、パミス多含	N4
Ｐ８	円形	0.61	0.59	0.3	－	10YR2/1	N4
Ｐ９	円形	0.87	0.79	0.9	H1 を切る	10YR2/2、ローム粒・パミス多含	Ｑ３
Ｐ１０	楕円形	0.77	0.61	1.09	－	10YR2/3、ローム粒・パミス含	P3
Ｐ１１	楕円形	1.29	1	0.76	－	1　10YR2/1、ローム粒・パミス多含 2　ローム主体	P3
Ｐ１２	楕円形	0.98	0.78	1.01	－	10YR2/1、ローム粒・ブロック多含	P3
Ｐ１３	円形	1.04	0.95	1.02	－	10YR2/1、ローム粒含	Ｑ３
Ｐ１４	円形	1.22	1.16	0.95	－	10YR2/2、ローム粒・パミス多含	R3
Ｐ１５	方形	0.9	0.8	0.73	－	10YR2/2、ローム粒・パミス多含	R3
Ｐ１６	円形	0.81	0.71	0.74	－	10YR2/1、ローム多含	R3
Ｐ１７	楕円形	1.14	0.85	0.85	－	10YR2/1、ローム粒・パミス多含	R4
Ｐ１８	円形	0.73	0.66	0.61	－	10YR2/1、パミス多含	Q4
Ｐ１９	楕円形	0.99	0.85	1.05	－	10YR2/1、ローム・パミス多含	P4
Ｐ２０	円形	0.78	0.73	0.8	－	10YR2/1、ローム・パミス多含	P4
Ｐ２１	楕円形	0.89	0.8	0.94	－	10YR2/1、ローム・パミス多含	O4
Ｐ２２	円形	0.83	0.82	1.04	－	10YR2/1、ローム・パミス多含	P3
Ｐ２３	方形	0.77	0.71	0.31	－	10YR2/1、ローム・パミス多含	O3
Ｐ２４	楕円形	0.71	0.57	0.31	－	10YR2/1、ローム・パミス多含	O3
Ｐ２５	楕円形	0.91	0.73	0.47	－	10YR2/2、ローム粒・ブロック多含	Q2
Ｐ２６	円形	1.31	1.22	1.14	－	10YR2/2、ローム粒・ブロック多含	Q2
Ｐ２７	円形	1.63	1.44	0.85	－	10YR2/2、ローム粒・ブロック多含	R2
Ｐ２８	楕円形	0.51	0.43	0.58	－	－	R4
Ｐ２９	楕円形	1.36	1.08	0.91	底面２段	10YR2/1、ローム粒・ブロック多含	M4
Ｐ３０	楕円形	1.22	1.01	0.91	－	10YR2/1、ローム粒・ブロック多含	M4
Ｐ３１	長方形	0.66	0.53	0.99	H1 を切る	10YR2/1	Q3
Ｐ３２	円形	0.81	0.8	0.63	－	10YR2/1	M1
Ｐ３３	楕円形	0.65	0.58	0.49	－	10YR2/1	M2
Ｐ３４	楕円形	0.75	0.65	0.86	－	－	N2
Ｐ３５	楕円形	1.15	0.98	0.86	－	－	N1
Ｐ３６	楕円形	1.05	0.75	0.35	－	－	O2
Ｐ３７	方形	0.53	0.5	0.57	SD1 を切る	－	Q4
Ｐ３８	楕円形	1.06	0.89	0.59	H1 を切る	－	Q3
Ｐ３９	楕円形	0.93	0.84	0.66	H2・P40 を切る	－	O4
Ｐ４０	楕円形	－	0.9	0.53	H2・P39 に切られる	－	O4

H１号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内　面	外　面		
1	土師器	坏	13.6	(6.0)	3.0	―	黒色処理	ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区
2	土師器	坏蓋	(17.4)	―	(4.2)	―	ミガキ→黒色処理	回転ヘラケズリ→つまみ貼付	回転実測、図上復元	Ⅰ・Ⅲ区
3	土師器	武蔵甕	17.2	―	―	―	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区
4	土師器	武蔵甕	20.4	―	―	―	ナデ	ナデ	回転実測	Ⅳ区
5	石器	打製石斧	<5.35>	5.6	1.1	<42.7>	―		完全実測	カマド西
6	石器	打製石斧	<5.8>	4.2	0.9	<51.0>	―		完全実測	Ⅰ区
7	石器	横刃型石器	<6.5>	<9.1>	0.9	<60.3>	―		完全実測	Ⅰ区
8	石器	磨石	23.2	11.3	6.5	2658.7	―		完全実測	S6
9	石器	砥石	5.28	33.6	9.9	19820.0	砥面数１		完全実測	S1

H２号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内　面	外　面		
1	土師器	坏	(14.4)	(6.0)	(4.5)	―	ヘラミガキ→黒色処理	底部・周縁ヘラケズリ	回転実測	覆土
2	土師器	坏	(14.5)	(7.0)	(3.6)	―	ヘラミガキ→黒色処理	回転糸切→ヘラケズリ・墨書「？」	回転実測	Ⅱ区
3	土師器	武蔵甕	(19.8)	―	(8.3)	―	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	カマド内
4	土師器	ロクロ甕	(25.5)	―	<8.2>	―	ナデ	ヘラナデ	回転実測	カマド・Ⅱ区
5	須恵器	短頸壺	―	11.4	<13.2>	―	―	底部・周縁ヘラケズリ	回転実測	H2 Ⅰ区・H3 Ⅰ区

H３号住居址出土遺物観察表 (1)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内　面	外　面		
1	土師器	坏	(12.8)	5.7	4.8	―	黒色処理	回転糸切	完全実測	Ⅱ区
2	土師器	坏	12.9	5.2	4.5	―	黒色処理	回転糸切・墨書「主」	完全実測	No3
3	土師器	坏	13.0	7.5	3.9	―	黒色処理	回転糸切	完全実測	No4
4	土師器	坏	(13.0)	―	<3.6>	―	黒色処理	回転糸切	回転実測	Ⅳ区
5	土師器	坏	(13.2)	(6.4)	(4.6)	―	―	回転糸切	回転実測	カマド
6	土師器	坏	(15.8)	―	<4.5>	―	黒色処理	回転糸切	回転実測	Ⅳ区
7	土師器	坏	(16.6)	―	<5.1>	―	黒色処理	―	回転実測	Ⅱ区
8	土師器	坏	―	6.0	<2.7>	―	黒色処理	回転糸切	完全実測	No6
9	土師器	坏	―	(6.0)	<2.3>	―	黒色処理	回転糸切	回転実測	カマド
10	土師器	坏	―	(6.2)	<2.6>	―	ミガキ	回転糸切	回転実測	カマド
11	土師器	坏	―	(6.2)	<3.5>	―	黒色処理・剥離	回転糸切	回転実測	Ⅱ区
12	土師器	坏	―	(6.2)	<1.6>	―	ミガキ	回転糸切	回転実測	Ⅰ区
13	土師器	坏	―	(6.6)	<2.0>	―	黒色処理	回転糸切	回転実測	Ⅱ区
14	土師器	碗	―	(6.4)	<3.2>	―	黒色処理	回転糸切→付高台	回転実測	No5
15	土師器	碗	―	―	<1.9>	―	ミガキ	付高台	回転実測	Ⅰ区
16	須恵器	坏	(12.5)	(6.0)	(3.8)	―	火襷	回転糸切・火襷	回転実測	Ⅳ区
17	須恵器	坏	―	(5.4)	<3.4>	―	―	―	回転実測	カマド
18	須恵器	坏	―	(6.4)	<1.5>	―	ロクロナデ	右回転糸切	回転実測	Ⅳ区
19	灰釉陶器	碗	(15.8)	―	<2.2>	―	施釉	施釉	回転実測	Ⅱ区
20	灰釉陶器	碗	―	7.4	<2.1>	―	施釉・刻書「財」	施釉	完全実測	No1・2
21	土師器	ロクロ甕	(22.0)	―	<5.7>	―	ハケナデ	ヘラケズリ	回転実測	カマド

H 3 号住居址出土遺物観察表 (2)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内　面	外　面		
22	土師器	ロクロ甕	—	—	<18.4>	—	ハケ目	ヘラケズリ	回転実測	Ⅳ区
23	石器・石製品	打製石斧	<3.6>	<5.1>	<1.0>	<17.8>	—		完全実測	Ⅳ区
24	石器・石製品	打製石斧	<5.3>	<5.6>	<0.6>	<23.6>	—		完全実測	Ⅳ区
25	石器・石製品	打製石斧	<5.7>	<5.5>	<0.8>	<35.6>	—		完全実測	Ⅳ区
26	石器・石製品	打製石斧	<4.5>	<6.1>	<1.7>	<54.9>	—		完全実測	Ⅳ区
27	石器・石製品	打製石斧	<7.0>	<4.1>	<1.2>	<78.3>	—		完全実測	Ⅰ区
28	石器・石製品	打製石斧	<7.5>	<4.2>	<1.3>	<58.9>	—		完全実測	Ⅱ区
29	石器・石製品	打製石斧	<8.8>	<6.7>	<2.9>	<197.1>	—		完全実測	Ⅱ区
30	石器・石製品	加工痕の有る剥片	4.3	1.3	1.0	16.9	安山岩		完全実測	Ⅲ区床
31	石器・石製品	磨石	<10.1>	<15.6>	<6.1>	<1536.9>	磨面 1・被熱有		完全実測	S10
32	石器・石製品	砥石	<15.5>	<17.2>	<6.7>	<2750.0>	砥面 1		完全実測	S13
33	石器・石製品	砥石	22.5	20.0	5.6	4230.0	砥面 2		完全実測	S4

H 4 号住居址出土遺物観察表 (1)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内　面	外　面		
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	縄文・半裁竹管並行沈線間に刻目		破片実測・拓本、前期諸磯ｂ式	覆土
2	縄文土器	深鉢	—	(10.6)	<9.9>	—	蛇行隆帯・沈線文・縄文 (RL)		回転実測、中期後半加曽利ＥⅡ	覆土
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	垂下隆帯・隆帯脇沈線・縄文 (RL)		破片実測・拓本、中期後半加曽利ＥⅡ	覆土
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	垂下隆帯・隆帯脇沈線・縄文 (RL)		破片実測・拓本、中期後半加曽利ＥⅡ	覆土
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯・縄文 (LR)		破片実測・拓本、中期後半加曽利ＥⅠ	覆土
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	半裁竹管の隆線		破片実測・拓本、中期後半曽利	覆土
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯・縄文 (LR)		破片実測・拓本、中期後半加曽利Ｅ	覆土
8	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯・隆帯上の刻目・R 撚系軸巻		破片実測・拓本、中期後半加曽利ＥⅠ	覆土
9	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯・半裁竹管沈線文		破片実測・拓本、中期後半唐草文	覆土
10	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯・縄文 (LR) の軸巻		破片実測・拓本、中期後半加曽利Ｅ	覆土
11	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線文・縄文 (RL)		破片実測・拓本、中期後半加曽利ＥⅡ	覆土
12	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線文・縄文 (LR)		破片実測・拓本、中期後半加曽利ＥⅡ	覆土
13	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	蛇行沈線文・縄文 (LR)		破片実測・拓本、中期後半加曽利ＥⅡ	覆土
14	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	縄文 (LR)		破片実測・拓本、中期後半加曽利Ｅ	覆土
15	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	羽状縄文 (RL)		破片実測・拓本、前期	覆土
16	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯・隆帯脇沈線・綾杉沈線文		破片実測・拓本、中期後半唐草文Ⅱ段階	覆土
17	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯・沈線文		破片実測・拓本、中期後半唐草文	覆土
18	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	綾杉沈線文・蛇行懸垂文		破片実測・拓本、中期後半郷戸	覆土
19	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	綾杉沈線文		破片実測・拓本、中期後半郷戸	覆土
20	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	綾杉沈線文		破片実測・拓本、中期後半郷戸	覆土
21	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	鱗状沈線文		破片実測・拓本、中期後半郷戸	覆土
22	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯・沈線文		破片実測・拓本、中期後半	覆土
23	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯・沈線文・縄文		破片実測・拓本、中期後半郷戸	覆土
24	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	条線		破片実測・拓本、中期後半曽利	覆土
25	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	条線		破片実測・拓本、中期後半曽利	覆土
26	縄文土器	深鉢	—	(12.2)	<3.6>	—	—		回転実測	覆土
27	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	微隆帯・沈線文・縄文		破片実測・拓本、中期末～後期初頭	覆土

H４号住居址出土遺物観察表 (2)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内　面	外　面		
28	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	微隆帯		破片実測・拓本、中期末	覆土
29	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	微隆帯		破片実測・拓本、中期末	覆土
30	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	沈線文・帯縄文		破片実測・拓本、中期末～後期初頭	覆土
31	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	沈線文・帯縄文		破片実測・拓本、中期末～後期初頭	覆土
32	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	沈線文・帯縄文		破片実測・拓本、中期末～後期初頭	覆土
33	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	沈線文・帯縄文 (LR)		破片実測・拓本、中期末～後期初頭	覆土
34	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	沈線文・帯縄文 (LR)		破片実測・拓本、中期末～後期初頭	覆土
35	土師器	鉢	―	(9.0)	<2.5>	―	ヘラミガキ・黒色処理	ヘラミガキ	回転実測	覆土
36	石器・石製品	打製石斧	7.0	5.6	1.4	71.4	―		完全実測	覆土
37	石器・石製品	打製石斧	12.5	7.8	2.0	277.8	安山岩		完全実測	覆土
38	石器・石製品	打製石斧	15.0	6.0	1.1	120.7	安山岩		完全実測	覆土
39	石器・石製品	磨・敲石	11.4	8.5	2.8	283.2	磨面１・敲打痕		完全実測	覆土
40	石器・石製品	石皿	19.4	20.5	5.8	3280.0	使用面２		完全実測	覆土
41	石器・石製品	石皿	43.65	24.0	11.5	25430.0	使用面２		完全実測	覆土
42	石器・石製品	加工痕のある剥片	4.5	4.3	1.5	33.3	安山岩		完全実測	覆土
43	石器・石製品	加工痕のある剥片	9.1	9.3	1.6	94.3	安山岩		完全実測	覆土
44	石器・石製品	加工痕のある剥片	9.2	4.0	1.6	44.6	安山岩		完全実測	覆土
45	石器・石製品	加工痕のある剥片	10.7	3.5	1.1	33.9	安山岩		完全実測	覆土

H５号住居址出土遺物観察表 (1)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内　面	外　面		
1	縄文土器	深鉢	(15.0)	―	―	―	環状突起・隆帯・沈線・縄文（RL）		回転実測、中期後半加曽利ＥⅡ	覆土
2	縄文土器	深鉢	(12.6)	―	―	―	渦巻隆帯・ヘラ状工具による沈線文		回転実測、中期後半加曽利ＥⅡ	覆土
3	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	隆帯・棒状工具による沈線・縄文（RL）		回転実測・拓本、中期後半加曽利ＥⅡ	覆土
4	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	渦巻隆帯・ヘラ状工具による沈線・縄文（RL)		回転実測・拓本、中期後半加曽利ＥⅡ	覆土
5	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	隆帯・棒状工具による沈線・縄文（RL）		回転実測・拓本、中期後半加曽利ＥⅡ	覆土
6	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	渦巻隆帯・棒状工具による沈線・ヘラ状工具による短沈線		回転実測・拓本、中期後半加曽利Ｅ	覆土
7	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	隆帯・棒状工具による沈線・縄文（LR）		回転実測・拓本、中期後半加曽利Ｅ	覆土
8	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	隆帯・半裁竹管による沈線		回転実測、中期後半	覆土
9	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	隆帯・半裁竹管による沈線		破片実測・拓本、中期後半	覆土
10	縄文土器	深鉢	(55.0)	―	―	―	横位蛇行隆帯・沈線		回転実測、中期後半曽利Ⅰ	覆土
11	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	隆帯・縄文（RL)		破片実測・拓本、中期後半加曽利ＥⅠ	覆土
12	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	縄文（RL)		破片実測・拓本、中期後半加曽利Ｅ	覆土
13	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	縄文 (RL)		破片実測・拓本、中期後半加曽利Ｅ	覆土
14	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	隆帯・棒状工具による沈線・縄文（LR）		回転実測・拓本、中期後半加曽利ＥⅡ	覆土
15	縄文土器	深鉢	―	7.1	―	―	半裁竹管による３条の平行沈線・縄文（RL)		完全実測、中期後半加曽利ＥⅡ	覆土
16	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	半裁竹管による６条の平行沈線・縄文（RL)		破片実測・拓本、中期後半加曽利ＥⅡ	覆土
17	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	隆帯・縄文（LR)		破片実測・拓本、中期後半加曽利ＥⅡ	覆土
18	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	微隆帯・縄文（RL)		破片実測・拓本、中期後半加曽利ＥⅣ	覆土
19	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	棒状工具による沈線・円形刺突・縄文（RL)		破片実測・拓本、中期後半加曽利Ｅ	覆土
20	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	隆帯・沈線・隆帯上の刻目		破片実測・拓本、中期中葉勝坂	覆土
21	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	沈線		破片実測・拓本、中期後半	覆土

H 5 号住居址出土遺物観察表 (2)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内　面	外　面		
22	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯・沈線		破片実測・拓本、中期中葉焼町	覆土
23	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	縦位波状条線		破片実測・拓本、中期後半曽利	覆土
24	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯・ヘラ状工具による沈線		破片実測・拓本、中期中葉焼町	覆土
25	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線		破片実測・拓本、中期後半	覆土
26	縄文土器	浅鉢	(27.3)	—	—	—	赤彩		回転実測、中期後半	覆土
27	縄文土器	浅鉢	(23.8)	—	—	—	—		回転実測、中期後半	覆土
28	縄文土器	浅鉢	—	—	—	—	沈線文・突起剥離		破片実測・拓本、中期後半	覆土
29	縄文土器	浅鉢	—	—	—	—	赤彩		破片実測、中期後半	覆土
30	縄文土器	浅鉢	—	—	—	—	赤彩		破片実測、中期後半	覆土
31	縄文土器	浅鉢	—	—	—	—	赤彩		破片実測、中期後半	覆土
32	縄文土器	浅鉢	—	—	—	—	赤彩		破片実測、中期後半	覆土
33	石器・石製品	石鏃	2	1.6	0.6	1.2	安山岩		完全実測	覆土
34	石器・石製品	石鏃未成品	1.8	1.4	0.7	1.4	黒曜石		完全実測	覆土
35	石器・石製品	石錐	2.2	0.7	0.55	0.5	黒曜石		完全実測	覆土
36	石器・石製品	打製石斧	5.4	4.9	1	39.5	—		完全実測	覆土
37	石器・石製品	凹・磨・敲石	11.6	8.3	4.95	713.4	磨面 2、花崗岩		完全実測	覆土
38	石器・石製品	磨石	9	9.7	6.95	1117.9	磨面 2		完全実測	覆土
39	石器・石製品	磨石	10.65	9.7	1.7	362.7	磨面 1		完全実測	覆土
40	石器・石製品	磨・敲の台石	32.35	25.5	5.15	7070	磨面 1、被熱		完全実測	覆土
41	石器・石製品	横刃型石器	13.5	6.2	1.5	101.5	安山岩		完全実測	覆土
42	石器・石製品	加工痕の有る剥片	4.0	4.6	1.1	19.1	安山岩		完全実測	覆土
43	石器・石製品	加工痕の有る剥片	8.0	7.2	3.8	202.6	安山岩		完全実測	覆土
44	鉄器・鉄製品	釘	—	—	—	<4.6>	—		完全実測	覆土

H 6 号住居址出土遺物観察表 (1)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内　面	外　面		
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	羽状縄文 (RL)・隆帯・キザミ目、胎土に含繊維		破片実測・拓本、早期末塚田式	覆土
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	環状突起		破片実測、中期中葉焼町	覆土
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	環状突起		破片実測、中期中葉焼町	覆土
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	双環状突起・隆帯・沈線		破片実測、中期中葉焼町	覆土
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	双環状突起		破片実測、中期中葉焼町	覆土
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	双環状把手・隆帯・沈線		破片実測、中期中葉焼町	覆土
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	環状突起・隆帯・沈線		破片実測、中期中葉焼町	覆土
8	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	環状把手		破片実測、中期中葉焼町	覆土
9	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯・沈線・刺突充填		破片実測・拓本、中期中葉焼町	覆土
10	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯・沈線		破片実測、中期中葉勝坂式	覆土
11	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	双環状把手・隆帯・沈線		破片実測、中期中葉焼町	覆土
12	縄文土器	深鉢	(14.6)	—	—	—	縄文 (RL)		回転実測・拓本、中期中葉勝坂式	覆土
13	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯・沈線		破片実測、中期中葉	覆土
14	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯・ペン先状刺突文		回転実測・拓本、中期中葉勝坂式	覆土
15	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯・キャタピラ文		回転実測・拓本、中期中葉勝坂式	覆土
16	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯・キャタピラ文・矢羽根状刻目文		回転実測・拓本、中期中葉勝坂式	覆土

H 6 号住居址出土遺物観察表 (2)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内　面	外　面		
17	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	縄文 (RL)		破片実測・拓本	覆土
18	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯・沈線		回転実測・拓本、中期中葉勝坂式	覆土
19	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	縄文 (糸軸巻 L)・沈線		回転実測・拓本、中期中葉勝坂式	覆土
20	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	口唇部刻目		回転実測・拓本、中期中葉勝坂式	覆土
21	縄文土器	深鉢	—	5.7	(2.8)	—	縄文 (RL)		回転実測・拓本	覆土
22	縄文土器	浅鉢	—	—	—	—	赤彩・把手		破片実測、中期中葉	覆土
23	縄文土器	浅鉢	—	—	—	—	—		破片実測・拓本、中期中葉	覆土
24	縄文土器	?	—	—	—	—	沈線		破片実測・拓本、中期中葉	覆土
25	縄文土器	浅鉢	—	—	—	—	赤彩		破片実測・拓本、中期中葉	覆土
26	縄文土器	浅鉢	—	—	—	—	赤彩		破片実測・拓本、中期中葉	覆土
27	縄文土器	浅鉢	—	—	—	—	—		破片実測・拓本、中期中葉	覆土
28	縄文土器	釣手	—	—	—	—	沈線渦巻・沈線三叉文		破片実測、中期中葉勝坂式	覆土
29	石器・石製品	石鏃	<2.3>	2.2	0.6	2.5	黒曜石		完全実測	覆土
30	石器・石製品	打製石斧	8.7	5.6	1.8	125.1	—		完全実測	覆土
31	石器・石製品	打製石斧	10.3	5.8	2.7	199	—		完全実測	覆土
32	石器・石製品	打製石斧	11.7	3.9	1.6	83.9	安山岩		完全実測	覆土
33	石器・石製品	打製石斧	18.1	4.9	1.3	126.8	安山岩		完全実測	覆土
34	石器・石製品	ピエス・エスキーユ	1.9	2.0	0.8	3.4	黒曜石		完全実測	覆土
35	石器・石製品	加工痕の有る剥片	3.1	3.4	1.1	9.5	安山岩		完全実測	覆土
36	石器・石製品	加工痕の有る剥片	3.5	4.4	1.3	19.6	安山岩		完全実測	覆土
37	石器・石製品	加工痕の有る剥片	5.0	3.8	1.7	26.7	安山岩		完全実測	覆土
38	石器・石製品	加工痕の有る剥片	5.5	5.8	1.5	53.2	安山岩		完全実測	覆土
39	石器・石製品	加工痕の有る剥片	6.8	4.8	2.0	42.0	安山岩		完全実測	覆土
40	石器・石製品	加工痕の有る剥片	7.2	4.8	1.8	41.9	貢岩		完全実測	覆土
41	石器・石製品	磨石	10.0	9.8	3.0	452.0	磨面 1		完全実測	覆土
42	石器・石製品	磨・凹石	<9.9>	<10.0>	<9.7>	<1000.0>	凹 1 ヶ所、磨面－ 1		完全実測	覆土

H 7 号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内　面	外　面		
1	縄文	深鉢	—	—	—	—	沈線文・縄文 (LR)		破片実測・拓本、中期後半加曽利 E	覆土
2	縄文	深鉢	—	—	—	—	隆帯・鱗状沈線文		破片実測・拓本、中期後半郷戸	覆土
3	縄文	深鉢	—	—	—	—	隆帯・綾杉状沈線文		破片実測・拓本、中期後半唐草文	覆土
4	縄文	深鉢	—	—	—	—	櫛刃状工具による刺突沈線文		破片実測・拓本、中期後半曽利	覆土
5	縄文	浅鉢	—	(10.2)	(10.1)	—	—		回転実測	覆土
6	石器・石製品	打製石斧	(5.0)	(5.0)	(1.3)	(37.4)	—		完全実測	覆土
7	石器・石製品	使用痕のある剥片	(5.4)	(6.7)	(0.9)	(30.2)	安山岩		完全実測	覆土

D 2 号土坑出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内　面	外　面		
1	志野焼	皿	—	—	—	—	—	—	破片実測・写真、17 世紀	覆土

D 3 号土坑出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内　面	外　面		
1	土師器	坏	(15.1)	—	—	—	黒色処理	—	回転実測	覆土
2	土師器	皿	—	(5.2)	<1.0>	—	—	右回転糸切	回転実測	覆土
3	灰釉陶器	碗	—	(7.6)	—	—	灰釉・円滑	回転糸切→回転ヘラケズリ→高台貼付・灰釉	回転実測	覆土
4	灰釉陶器	長頸瓶	—	—	—	—	—	—	回転実測	覆土
5	石器・石製品	砥石	<10.5>	<10.1>	2.5	<390.0>	—	砥面 1	完全実測	覆土
6	石器・石製品	砥石	<8.7>	<12.0>	2.0	<458.0>	—	砥面 2	完全実測	覆土
7	石器・石製品	砥石	18.5	<20.7>	5.9	<2568.0>	—	砥面 1	完全実測	覆土

D 4 号土坑出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内　面	外　面		
1	縄文	深鉢	—	—	—	—	沈線・縄文 (LR)		破片実測・拓本、後期称名寺式	覆土
2	縄文	深鉢	—	—	—	—	隆帯		破片実測・拓本、後期称名寺式期	覆土
3	縄文	深鉢	—	—	—	—	隆帯、被熱により歪んでいる		破片実測・拓本、後期称名寺式期	覆土
4	縄文	深鉢	—	—	—	—	突起・隆帯		破片実測・拓本、後期称名寺式	覆土
5	縄文	深鉢	—	—	—	—	突起		破片実測・拓本、後期称名寺式	覆土
6	縄文	深鉢	—	—	—	—	突起・隆帯・沈線文		破片実測・拓本、後期称名寺式	覆土
7	縄文	深鉢	—	—	—	—	沈線文・縄文 (RL)		破片実測・拓本、後期称名寺式	覆土
8	縄文	深鉢	—	—	—	—	沈線文・縄文 (RL)		破片実測・拓本、後期称名寺式	覆土
9	縄文	深鉢	—	—	—	—	沈線文・縄文 (LR)		破片実測・拓本、後期称名寺式	覆土
10	縄文	深鉢	—	—	—	—	沈線文・縄文 (LR)		破片実測・拓本、後期称名寺式	覆土
11	石器・石製品	打製石斧	<5.3>	<4.4>	<1.9>	<38.8>	—		完全実測	覆土
12	石器・石製品	打製石斧	15.9	7.7	2.0	288.6	砥面 1		完全実測	覆土
13	石器・石製品	砥石？	9.3	7.4	6.0	678.3	凹 1 ヶ所		完全実測	覆土
14	石器・石製品	磨石・凹石	<11.7>	<13.5>	<11.7>	<3390.0>	安山岩		完全実測	覆土

D 5 号土坑出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内　面	外　面		
1	土師質土器	内耳鍋	—	—	—	—	—		破片実測・拓本	覆土
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	渦巻隆帯		破片実測・拓本、中期後半	覆土
3	石器・石製品	砥石	15.0	<11.7>	3.3	<1054.7>	砥面 1		完全実測	覆土
4	石器・石製品	砥石	19.7	14.6	3.6	1.900	砥面 1、全面に煤付着		完全実測	覆土
5	石器・石製品	砥石	10.7	22.5	10.5	3.340	砥面 2		完全実測	覆土

D 6 号土坑出土遺物観察表 (1)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内　面	外　面		
1	縄文	深鉢	—	—	—	—	隆帯・沈線文・縄文 (LR)		破片実測・拓本、中期後半加曽利 E Ⅱ	覆土
2	縄文	深鉢	—	—	—	—	隆帯・沈線文・縄文 (RL)		破片実測・拓本、中期中葉	覆土
3	縄文	浅鉢	—	—	—	—	隆帯・沈線文・外面赤彩		破片実測・拓本、中期後半加曽利 E Ⅱ	覆土
4	縄文	深鉢	(16.6)	—	—	—	沈線文		回転実測、中期後半曽利 Ⅰ	覆土
5	縄文	深鉢	—	—	—	—	隆帯・沈線文・押引文		破片実測・拓本、中期後半唐草文 Ⅰ	覆土
6	縄文	深鉢	—	—	—	—	隆帯・沈線文・縄文 (RL)		破片実測・拓本、中期後半加曽利 E	覆土

D 6 号土坑出土遺物観察表 (2)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内　面	外　面		
7	縄文	深鉢	—	—	—	—	沈線文		破片実測・拓本、中期中葉焼町	覆土
8	縄文	有孔鍔付土器？	—	—	—	—	隆帯		破片実測・拓本、中期中葉勝坂	覆土
9	石器・石製品	石鏃	<2.0>	<1.8>	0.3	<1.0>	黒曜石		完全実測	覆土

D 7 号土坑出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内　面	外　面		
1	縄文	深鉢	—	—	—	—	R 撚糸軸巻・刻み隆帯		破片実測・拓本、中期中葉勝坂	覆土
2	縄文	深鉢	—	—	—	—	沈線文・縄文 (RL)		破片実測・拓本、後期称名寺式	覆土

D 9 号土坑出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内　面	外　面		
1	土師器	皿	8.8	6.0	2.4	—	煤付着	回転糸切、煤付着	完全実測	No3
2	石器・石製品	磨・敲石	11.6	4.3	3.8	278	両端部敲、その他の面磨り		完全実測	覆土
3	石器・石製品	磨石	<42.4>	21.7	23.0	<32800>	磨面 1		完全実測	覆土

D 10 号土坑出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内　面	外　面		
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線・半裁竹管押引文		破片実測・拓本、中期後半曽利Ⅰ	覆土
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線		破片実測・拓本、中期後半加曽利Ｅ	覆土
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線・隆帯・縄文 LR		破片実測・拓本、中期後半加曽利ＥⅣ	覆土
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線・隆帯・縄文 LR		破片実測・拓本、中期後半加曽利ＥⅣ	覆土
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線		破片実測・拓本	覆土
6	石器・石製品	横刃型石器	5.1	7.8	0.9	46.5	—		完全実測	覆土

D 15 号土坑出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内　面	外　面		
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線・隆帯		破片実測・拓本、中期後半	覆土
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線		破片実測・拓本、中期後半	覆土

D 18 号土坑出土遺物観察表 (1)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内　面	外　面		
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯剥離、刺突門		破片実測・拓本、中期中葉阿玉台Ⅱ式	覆土
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯		破片実測・拓本、中期中葉焼町土器	覆土
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯、双環状突起		破片実測・拓本、中期中葉勝坂式	覆土
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	渦巻文		破片実測・拓本、中期中葉勝坂式	覆土
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯		破片実測・拓本、中期中葉勝坂式	覆土
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯		破片実測・拓本、中期中葉勝坂式	覆土
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯		破片実測・拓本、中期中葉勝坂式	覆土
8	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯上に半裁竹管による押引、半裁竹管による隆線		回転実測、中期後半曽利Ⅰ式	覆土

D 18 号土坑出土遺物観察表 (2)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内　面	外　面		
9	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯上に半裁竹管による押引、半裁竹管による隆線		破片実測・拓本、中期後半曽利Ⅰ式	覆土
10	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線、縄文		破片実測・拓本、中期後半曽利Ⅱ式	覆土
11	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯		破片実測・拓本、中期後半曽利Ⅱ式	覆土
12	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	無文		破片実測・拓本、中期後半曽利Ⅱ式	覆土
13	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	縦位条線		破片実測・拓本、中期後半曽利Ⅳ・Ⅴ式	覆土
14	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	蛇行懸垂隆帯、沈線		破片実測・拓本、中期後半唐草文系	覆土
15	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯、弧状沈線		破片実測・拓本、中期後半郷戸式	覆土
16	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	渦巻文、弧状沈線		破片実測・拓本、中期後半郷戸式	覆土
17	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	矢羽状沈線		破片実測・拓本、中期後半郷戸式	覆土
18	縄文土器	深鉢	(24.8)	—	—	—	縦位沈線、円形刺突列		破片実測・拓本、中期後半加曽利Ｅ系	覆土
19	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	円形刺突文、沈線、縄文		破片実測・拓本、中期後半加曽利Ｅ系	覆土
20	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	無文		破片実測・拓本、中期後半	覆土
21	縄文土器	浅鉢	—	—	—	—	無文		破片実測・拓本、中期後半	覆土
22	縄文土器	浅鉢	—	—	—	—	無文		破片実測・拓本、中期後半	覆土
23	縄文土器	浅鉢	—	—	—	—	赤彩		破片実測・拓本、中期後半	覆土
24	縄文土器	深鉢	—	11	—	—	無文		破片実測・拓本、中期後半	覆土
25	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	無文		破片実測・拓本、中期後半	覆土
26	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯、刺突、沈線、縄文（ＬＲ）		破片実測・拓本、後期称名寺式	覆土
27	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	押圧隆帯		破片実測・拓本、後期	覆土
28	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	押圧隆帯		破片実測・拓本、後期	覆土
29	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	押圧隆帯		破片実測・拓本、後期	覆土
30	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線、円文		破片実測・拓本、後期	覆土
31	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	鎖状隆帯脇に円形刺突列		破片実測・拓本、後期	覆土
32	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線、縄文（ＬＲ）		破片実測・拓本、後期	覆土
33	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線、縄文（ＲＬ）		破片実測・拓本、後期	覆土
34	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線、縄文		破片実測・拓本、後期	覆土
35	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線		破片実測・拓本、後期堀之内１式	覆土
36	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線、縄文（ＬＲ）		破片実測・拓本、後期堀之内１式	覆土
37	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線		破片実測・拓本、後期堀之内１式	覆土
38	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	口唇部に１本の沈線		破片実測・拓本、後期堀之内１式	覆土
39	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	口唇部に２本の沈線		破片実測・拓本、後期堀之内１式	覆土
40	縄文土器	深鉢	(29.5)	—	(21.3)	—	鎖状隆帯、「8」字状貼付文、沈線、縄文、口唇部に刻目		完全実測、後期堀之内２式	覆土
41	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	鎖状隆帯、沈線、縄文		破片実測・拓本、後期堀之内２式	覆土
42	縄文土器	深鉢	14	7.95	13.3	—	鎖状隆帯、沈線、縄文、網代底		完全実測、後期堀之内２式	覆土
43	縄文土器	深鉢	15	5.65	11.8	—	鎖状隆帯、沈線、縄文、網代底		完全実測、後期堀之内２式	覆土
44	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線		破片実測・拓本、後期堀之内２式	覆土
45	縄文土器	深鉢	(20.8)	—	—	—	鎖状隆帯、「8」字状貼付文、沈線、縄文（ＬＲ）、波状口縁		完全実測、後期堀之内２式	覆土
46	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	鎖状隆帯、「8」字状貼付文、沈線、縄文		破片実測・拓本、後期堀之内２式	覆土
47	縄文土器	深鉢	(19.6)	(8.2)	(19.95)	—	鎖状隆帯、「8」字状貼付文、沈線、縄文		完全実測、後期堀之内２式	覆土
48	縄文土器	深鉢	(28.2)	—	—	—	沈線、縄文（ＬＲ）、口唇部刻目		破片実測・拓本、後期堀之内２式	覆土
49	縄文土器	深鉢	(18.8)	—	—	—	鎖状隆帯、「8」字状貼付文、沈線、縄文（ＬＲ）、波状口縁		完全実測、後期堀之内２式	覆土
50	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線、縄文（ＬＲ）		破片実測・拓本、後期堀之内２式	覆土
51	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	鎖状隆帯、沈線、縄文		破片実測・拓本、後期堀之内２式	覆土

D 18 号土坑出土遺物観察表 (3)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内　面	外　面		
52	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	小波状口縁、沈線		破片実測・拓本、後期堀之内期	覆土
53	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	円形刺突列		破片実測・拓本、後期堀之内期	覆土
54	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	無文、粗製		破片実測・拓本、後期堀之内期	覆土
55	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	無文		破片実測・拓本、後期堀之内期	覆土
56	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	無文、粗製		破片実測・拓本、後期堀之内期	覆土
57	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	無文、粗製		破片実測・拓本、後期堀之内期	覆土
58	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	網代底		破片実測・拓本、後期堀之内期	覆土
59	縄文土器	深鉢	—	(10.6)	—	—	網代底		破片実測・拓本、後期堀之内期	覆土
60	縄文土器	深鉢	16.15	8.9	10.9	—	無文、粗製、網代底		破片実測・拓本、後期堀之内期	覆土
61	縄文土器	深鉢	(20.7)	(11.2)	(25.0)	—	無文		破片実測・拓本、後期堀之内期	覆土
62	縄文土器	深鉢	42	—	—	—	無文、粗製		破片実測・拓本、後期堀之内期	覆土
63	縄文土器	注口	—	—	—	—	把手		破片実測、後期堀之内期	覆土
64	縄文土器	注口	—	—	—	—	円形刺突文、縄文、沈線		破片実測、後期堀之内期	覆土
65	縄文土器	注口	—	—	—	—	把手		破片実測、後期堀之内期	覆土
66	土製品	土器片円盤	—	—	—	—	縄文		破片実測・拓本、	覆土
67	土製品	土器片円盤	—	—	—	—	沈線、縄文		破片実測・拓本、	覆土
68	土製品	土器片円盤	—	—	—	—	沈線		破片実測・拓本、	覆土
69	土製品	土器片円盤	—	—	—	—	沈線		破片実測・拓本、	覆土
70	土製品	土器片円盤	—	—	—	—	沈線、縄文		破片実測・拓本、	覆土
71	土製品	土器片円盤	—	—	—	—	無文		破片実測・拓本、	覆土
72	土製品	土器片円盤	—	—	—	—	沈線		破片実測・拓本、	覆土
73	土製品	土器片円盤	—	—	—	—	沈線、縄文		破片実測・拓本、	覆土
74	土師器	坏	(12.0)	(4.5)	(4.5)	—	黒色処理	右回転糸切	回転実測、平安時代	覆土
75	土師器	内耳鍋	—	—	—	—		—	破片実測・拓本、	覆土
76	石器・石製品	石鏃	<1.75>	<1.2>	<0.4>	<0.5>	黒曜石		完全実測	覆土
77	石器・石製品	石鏃	<1.85>	<1.2>	<0.3>	<0.4>	頁岩		完全実測	覆土
78	石器・石製品	石鏃	<1.8>	<1.5>	<0.6>	<1.0>	黒曜石		完全実測	覆土
79	石器・石製品	石鏃	<2.1>	<1.5>	<0.6>	<1.0>	チャート		完全実測	覆土
80	石器・石製品	石鏃	<2.5>	<1.7>	<0.6>	<1.5>		—	完全実測、未成品、黒曜石	覆土
81	石器・石製品	石錐	2.5	1.2	0.5	1.2		—	完全実測、黒曜石	覆土
82	石器・石製品	打製石斧	<4.4>	<3.1>	<0.9>	<14.6>		—	完全実測	覆土
83	石器・石製品	打製石斧	<4.2>	<3.7>	1	<19.1>		—	完全実測	覆土
84	石器・石製品	打製石斧	<3.6>	<3.4>	1.1	<24.3>		—	完全実測	覆土
85	石器・石製品	打製石斧	<4.2>	<4.9>	1	<22.3>		—	完全実測	覆土
86	石器・石製品	打製石斧	<5.0>	5	0.9	<26.9>		—	完全実測	覆土
87	石器・石製品	打製石斧	<5.2>	4.9	1.3	<43.9>		—	完全実測	覆土
88	石器・石製品	打製石斧	<5.6>	5.1	1.1	<42.1>		—	完全実測	覆土
89	石器・石製品	打製石斧	<5.7>	5.2	1.4	<56.9>		—	完全実測	覆土
90	石器・石製品	打製石斧	<6.0>	5.7	1.1	<50.7>		—	完全実測	覆土
91	石器・石製品	打製石斧	<6.5>	5.9	1.1	<82.0>		—	完全実測	覆土
92	石器・石製品	打製石斧	<7.2>	6.3	1.1	<68.9>		—	完全実測	覆土
93	石器・石製品	打製石斧	<7.3>	5.1	1.7	<84.1>		—	完全実測	覆土
94	石器・石製品	打製石斧	<6.9>	5.5	1	<45.9>		—	完全実測	覆土

D 18 号土坑出土遺物観察表 (4)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内　面	外　面		
95	石器・石製品	打製石斧	<7.35>	5	1.2	<68.2>	—		完全実測	覆土
96	石器・石製品	打製石斧	<8.0>	7.5	1.3	<93.6>	—		完全実測	覆土
97	石器・石製品	打製石斧	<8.7>	5.4	1.1	<72.5>	—		完全実測	覆土
98	石器・石製品	打製石斧	<8.3>	4.9	1.8	<134.8>	—		完全実測	覆土
99	石器・石製品	打製石斧	<10.9>	4.7	1.3	<226.0>	—		完全実測	覆土
100	石器・石製品	打製石斧	<16.3>	11.3	2.7	<499.9>	—		完全実測	覆土
101	石器・石製品	磨石	<3.3>	4.7	<0.7>	<14.8>	—		完全実測	覆土
102	石器・石製品	磨石	<9.8>	6.4	<5.1>	<381.0>	—		完全実測、磨面 2	覆土
103	石器・石製品	磨石	10.6	9.9	7.2	1026.7	—		完全実測、磨面 1	覆土
104	石器・石製品	磨石	7.1	10	<6.1>	<636.3>	—		完全実測、磨面 1	覆土
105	石器・石製品	磨石	<10.8>	8.8	<7.3>	<1210.0>	—		完全実測、磨面 2	覆土
106	石器・石製品	磨石	12.3	9.4	3.7	<512.7>	—		完全実測、磨面 1	覆土
107	石器・石製品	磨石	<8.8>	<12.2>	<3.1>	<441.2>	—		完全実測、磨面 1	覆土
108	石器・石製品	磨石	<12.3>	8.7	<4.1>	<836.7>	—		完全実測、磨面 2	覆土
109	石器・石製品	磨石	<12.8>	<8.7>	<4.2>	<902.0>	—		完全実測	覆土
110	石器・石製品	磨石	<10.3>	12.6	5.5	<715.4>	—		完全実測、磨面 1	覆土
111	石器・石製品	磨石	<12.0>	11.9	<8.9>	<1990.0>	—		完全実測、磨面 1	覆土
112	石器・石製品	磨石	<13.1>	<9.3>	<6.8>	<1636.2>	—		完全実測、磨面 1	覆土
113	石器・石製品	磨石	<13.2>	<11.0>	<3.1>	<746.9>	—		完全実測、磨面 1	覆土
114	石器・石製品	磨石	16.7	<8.7>	<1.4>	<244.1>	—		完全実測、磨面 1	覆土
115	石器・石製品	磨石	<13.6>	<12.9>	8.8	<1621.2>	—		完全実測、磨面 1	覆土
116	石器・石製品	磨石	<8.9>	15.9	5.5	<1272.3>	—		完全実測、磨面 1	覆土
117	石器・石製品	磨石	<14.7>	<14.3>	<8.0>	<2420.0>	—		完全実測、磨面 1	覆土
118	石器・石製品	磨石	<15.5>	<12.4>	<12.0>	<3590.0>	—		完全実測、磨面 1	覆土
119	石器・石製品	磨石	<20.7>	<15.6>	<9.7>	<4330.0>	—		完全実測、磨面 1	覆土
120	石器・石製品	磨石	<21.0>	<14.0>	<13.3>	<4500.0>	—		完全実測、磨面 1	覆土
121	石器・石製品	磨・敲石	<5.4>	7.3	2.2	<151.6>	—		完全実測、砂岩	覆土
122	石器・石製品	磨・敲石	11.7	8.8	3.9	622.7	—		完全実測、磨面 1・敲面 2	覆土
123	石器・石製品	磨・敲石	<16.3>	<11.7>	<6.6>	<1297.4>	—		完全実測、磨面 2・敲面 1	覆土
124	石器・石製品	磨・敲石	12	<15.7>	<3.8>	<867.9>	—		完全実測、磨面 1・敲面 1	覆土
125	石器・石製品	磨石・敲石	<43.7>	<24.2>	<13.8>	—	—		完全実測	覆土
126	石器・石製品	磨・凹石	22.7	19.2	18.8	14180	—		完全実測、磨面 1・凹 1	覆土
127	石器・石製品	石皿	<22.6>	27.1	13.1	—	—		完全実測、砥面 2	覆土
128	石器・石製品	石皿	<20.8>	<19.0>	<9.0>	<3120.0>	—		完全実測	覆土
129	石器・石製品	砥石	29.2	<21.4>	<7.0>	<5700.0>	—		完全実測、砥面 1、被熱	覆土
130	石器・石製品	スクレイパー	3.2	2.6	1.7	9.5	—		完全実測、黒曜石	覆土
131	石器・石製品	横刃型石器	5.4	6.7	1	29.6	—		完全実測、安山岩	覆土
132	石器・石製品	横刃型石器	6.8	6.3	2.8	152.9	—		完全実測	覆土
133	石器・石製品	ピエス・エスキーユ	6.4	5.3	2.4	133.7	—		完全実測	覆土
134	石器・石製品	加工痕の有る剥片	2.2	3	0.8	5.97	—		完全実測、チャート	覆土
135	石器・石製品	加工痕の有る剥片	3	2.2	0.8	5.64	—		完全実測、黒曜石	覆土
136	石器・石製品	加工痕の有る剥片	3.3	3.5	1.1	18.2	—		完全実測、ガラス質安山岩	覆土
137	石器・石製品	加工痕の有る剥片	3.2	4.1	0.9	11.5	—		完全実測、ガラス質安山岩	覆土

D 18 号土坑出土遺物観察表 (5)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内　面	外　面		
138	石器・石製品	加工痕の有る剥片	3.5	3.4	1.3	10.5	―		完全実測、頁岩	覆土
139	石器・石製品	加工痕の有る剥片	5.3	4	1	23.1	―		完全実測、ガラス質安山岩	覆土
140	石器・石製品	加工痕の有る剥片	4.9	4	1.8	40.1	―		完全実測、ガラス質安山岩	覆土
141	石器・石製品	加工痕の有る剥片	13.5	7	1.7	204.3	―		完全実測、ガラス質安山岩	覆土
142	石器・石製品	加工痕の有る剥片	6	4.2	1.6	25.6	―		完全実測、安山岩	覆土
143	石器・石製品	使用痕の有る剥片	6.2	3.4	1.3	32.9	―		完全実測、ホルンフェス	覆土

D 19 号土坑出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内　面	外　面		
1	縄文土器	深鉢	47.0	14.9	67.1	―	縄文 RL 縦・隆帯		回転実測、曽利Ⅰ～Ⅱ古	覆土
2	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	鋸歯状口縁・平行沈線文		破片実測・拓本、中期中葉末焼町	覆土
3	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	隆帯		破片実測・拓本、中期後半	覆土
4	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	ナデ・沈線文		破片実測・拓本、加曽利ＥⅢ	覆土
5	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	縄文 LR・隆帯・半裁竹管刺突文		破片実測・拓本、中期後半	覆土
6	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	縄文 RL、半裁竹管による３本の微隆帯		破片実測・拓本、加曽利ＥⅡ	覆土
7	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	微隆帯		破片実測・拓本、加曽利ＥⅣ	覆土
8	縄文土器	深鉢	―	(6.5)	―	―	縄文 RL 横		回転実測・拓本	覆土
9	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	隆帯・沈線		破片実測・拓本、中期後半	覆土
10	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	隆帯・綾杉		破片実測・拓本、唐草文系	覆土
11	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	隆帯・綾杉		破片実測・拓本、唐草文系	覆土
12	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	隆帯・鱗状沈線		破片実測・拓本、郷戸式	覆土
13	縄文土器	注口	―	―	―	―	沈線		破片実測・拓本、後期堀之内式	覆土
14	石器・石製品	打製石斧	<3.1>	3.9	1.3	<19.2>	―		完全実測	覆土
15	石器・石製品	打製石斧	<40.2>	60.7	1.0	<30.0>	―		完全実測	覆土
16	石器・石製品	打製石斧	<4.0>	4.0	0.7	<17.8>	―		完全実測	覆土
17	石器・石製品	磨石	3.8	8.6	1.4	44.2	磨面 1		完全実測	覆土
18	石器・石製品	磨石	<8.5>	6.5	5.0	<449.2>	―		完全実測	覆土
19	石器・石製品	砥石	<11.2>	<11.3>	<6.0>	<797.3	―		完全実測	覆土
20	石器・石製品	砥石	<16.3>	13.3	5.3	<1585.6>	砥面 2		完全実測	覆土
21	石器・石製品	砥石	17.4	15.8	3.5	1568.5	―		完全実測	覆土
22	石器・石製品	加工痕のある剥片	6.9	5.3	1.3	53.7	安山岩		完全実測	覆土

ＳＤ１号土坑出土遺物観察表 (1)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内　面	外　面		
1	灰釉陶器	碗	―	7.6	(2.3)	―	ロクロナデ	ロクロナデ・底部回転糸切	回転実測	覆土
2	須恵器	甕	―	―	―	―	―		破片実測・拓本	覆土
3	縄文	深鉢	―	―	―	―	蛇行隆帯・籠目文		破片実測・拓本、曽利Ⅰ式	覆土
4	縄文	深鉢	―	―	―	―	沈線文		破片実測・拓本、曽利Ⅰ式	覆土
5	縄文	深鉢	―	―	―	―	縄文 (LR)		破片実測・拓本、加曽利ＥⅣ式	覆土
6	前山焼	擂鉢	―	―	―	―	―		破片実測・18 世紀末	覆土
7	陶器	土瓶蓋	―	―	―	―	―		幕末	覆土
8	石器・石製品	打製石斧	(6.8)	(4.8)	(1.7)	(73.0)	―		破片実測	覆土

ＳＤ１号土坑出土遺物観察表 (2)

Ｎｏ	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内　面	外　面		
9	石器・石製品	打製石斧	(7.1)	(5.7)	(2.1)	(129.8)	―		破片実測	覆土
10	石器・石製品	砥石	(6.5)	(4.2)	(2.0)	(110.1)	砥面２		破片実測	覆土
11	石器・石製品	砥石	(4.7)	(7.0)	(6.3)	(423.7)	砥面２		破片実測	覆土
12	石器・石製品	砥石	(7.3)	(3.3)	(3.5)	(144.5)	砥面３、条線		破片実測	覆土
13	石器・石製品	砥石	(15.6)	(10.1)	(6.2)	(1549.9)	砥面２		破片実測	覆土
14	石器・石製品	砥石	(12.7)	(14.6)	(8.1)	(2028.5)	砥面１		破片実測	覆土
15	石器・石製品	石皿	(13.9)	(10.5)	(3.7)	(558.6)	砥石に転用か？		破片実測	覆土
16	石器・石製品	砥石	(11.3)	(20.2)	(3.9)	(1935.6)	砥面１		破片実測	覆土

ＳＤ２号土坑出土遺物観察表

Ｎｏ	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内　面	外　面		
1	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	―		破片実測・拓本	覆土

ＳＤ３号土坑出土遺物観察表

Ｎｏ	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	（重量）	内　面	外　面		
1	土師質土器	内耳鍋	―	―	―	―	―	―	破片実測・拓本	覆土
2	土師質土器	内耳鍋	―	―	―	―	―	―	破片実測・拓本	覆土
3	陶器	呉器手碗	―	―	―	―	―	―	破片実測・唐津・17C 後半	覆土
4	陶器	呉器手碗	―	―	―	―	―	―	破片実測・唐津・17C 後半	覆土
5	陶器	呉器手碗	―	―	―	―	―	―	破片実測・唐津・17C 後半	覆土
6	陶器	呉器手碗	―	―	―	―	―	―	破片実測・唐津・17C 後半	覆土
7	陶器	陶胎碗	―	―	―	―	―	―	破片実測・肥前系・平戸波佐見・18C	覆土
8	陶器	陶胎碗	―	―	―	―	―	―	破片実測・肥前系・平戸波佐見・18C	覆土
9	陶器	丸碗	―	―	―	―	―	―	破片実測・瀬戸・美濃・19C	覆土
10	陶器	片口碗	―	―	―	―	―	―	破片実測・前山・18C 末～ 19C	覆土
11	陶器	不明	―	―	―	―	―	―	破片実測・瀬戸・美濃・18C 末～ 19C	覆土
12	石器・石製品	砥石	(12.2)	(3.3)	(3.4)	(230.2)	―		完全実測	覆土
13	石器・石製品	磨石	(6.2)	(6.3)	(2.2)	(141.0)	―		完全実測	覆土
14	石器・石製品	擂鉢	(330.0)	(143.0)	(85.0)	(5780.0)	輝石安山岩		完全実測	覆土

ＳＤ４号土坑出土遺物観察表

Ｎｏ	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	（重量）	内　面	外　面		
1	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	沈線・LR 縄文		破片実測・拓本、加曽利ＥⅢ	覆土
2	石器・石製品	砥石	5.7	<3.2>	<3.9>	<107.8>	砥面５		完全実測	覆土
3	石器・石製品	砥石	<7.6>	<8.5>	6.6	<212.1>	砥面２		完全実測	覆土
4	石器・石製品	砥石	<17.3>	<8.7>	5.6	<1256.1>	砥面１		完全実測	覆土
5	石器・石製品	磨石	<7.2>	7.6	4.2	<337.7>	磨面２		完全実測	覆土
6	石器・石製品	加工痕のある剥片	4.0	3.5	1.4	22.8	玻璃質安山岩		完全実測	覆土
7	石器・石製品	五輪塔地輪？	253	25.1	20.9	―	―		完全実測	覆土

ＳＤ５号土坑出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内　面	外　面		
1	土師器	かわらけ	—	(6.4)	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	覆土
2	土師質土器	内耳鍋	—	—	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	破片実測・拓本	覆土
3	土師質土器	内耳鍋	—	—	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	破片実測・拓本	覆土
4	土師質土器	内耳鍋	—	—	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	破片実測・拓本	覆土
5	土師質土器	内耳鍋	—	—	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	破片実測・拓本	覆土
6	土師質土器	内耳鍋	—	—	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	破片実測・拓本	覆土
7	土師質土器	内耳鍋	—	—	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	破片実測・拓本	覆土
8	須恵器	甕	—	—	—	—	当具痕	平行叩目	破片実測・拓本	覆土
9	陶器	瓶子	—	—	—	—	灰釉、４条の横位沈線		破片実測・写真、古瀬戸・14C ？・中期様式	覆土
10	陶器	天目茶碗	—	—	—	—			破片実測・写真、古瀬戸・14C 後半・後期様式Ⅰ	覆土
11	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯、沈線、縄文 LR		破片実測・拓本、加曽利ＥⅡ	覆土
12	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯、沈線		破片実測・拓本、中期後半	覆土
13	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	微隆帯、縄文		破片実測・拓本、加曽利ＥⅣ	覆土
14	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	半裁竹管沈線		破片実測・拓本、曽利Ⅰ	覆土
15	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線、縄文 RL		破片実測・拓本、加曽利ＥⅡ	覆土
16	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	半裁竹管沈線、隆帯		破片実測・拓本、曽利Ⅰ	覆土
17	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯、縄文		破片実測・拓本、加曽利ＥⅢ	覆土
18	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	鎖状隆帯		破片実測・拓本、後期堀之内	覆土
19	土製品	土器片円盤	3.9	3.0	1.2	—	無文		破片実測・拓本	覆土
20	石器・石製品	打製石斧	16.0	5.1	2.3	210.0			完全実測	覆土
21	石器・石製品	打製石斧	<4.4>	<5.4>	<1.5>	<32.9>			完全実測	覆土
22	石器・石製品	打製石斧	<3.6>	<5.0>	<1.2>	<35.3>			完全実測	No25
23	石器・石製品	打製石斧	<5.1>	<4.2>	<2.0>	<44.3>			完全実測	No7
24	石器・石製品	打製石斧	<59.0>	<4.5>	<1.7>	<56.1>			完全実測	No13
25	石器・石製品	打製石斧	<6.8>	<5.4>	<2.2>	<82.1>			完全実測	Ⅱ区
26	石器・石製品	打製石斧	<8.4>	<5.7>	<2.7>	<156.7>			完全実測	覆土
27	石器・石製品	打製石斧	<8.2>	<5.0>	<1.5>	<68.8>			完全実測	No18
28	石器・石製品	打製石斧	<11.1>	4.7	1.4	<84.7>			完全実測	Ⅰ区
29	石器・石製品	磨石	11.7	7.4	4.2	611.2			完全実測	No2
30	石器・石製品	磨石	14.4	5.9	4.3	474.5			完全実測	覆土
31	石器・石製品	砥石	<5.8>	<2.9>	<0.9>	<11.1>	砥面１		完全実測	覆土
32	石器・石製品	砥石	<5.8>	<6.4>	1.9	<100.5>			完全実測	Ⅱ区
33	石器・石製品	石錐	<2.1>	<0.8>	<0.6>	<0.65>			完全実測	覆土
34	石器・石製品	石棒	<13.9>	13.4	11.8	<2920.0>			完全実測	覆土
35	石器・石製品	加工痕の有る剥片	9.4	3.7	2.2	70.0	ガラス質安山岩		完全実測	覆土
36	石器・石製品	加工痕の有る剥片	1.2	1.8	0.3	0.6	黒曜石		完全実測	覆土

ＳＤ６号土坑出土遺物観察表 (1)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径 (長)	底径 (短)	器高 (厚)	(重量)	内　面	外　面		
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯、沈線、縄文		破片実測・拓本、加曽利Ｅ	覆土
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯、半裁竹管刺突、沈線		破片実測・拓本、曽利	覆土
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	Ｒ撚糸、沈線		破片実測・拓本、加曽利ＥⅠ	覆土

ＳＤ６号土坑出土遺物観察表(2)

Ｎｏ	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内　面	外　面		
4	縄文土器	深鉢	－	－	－	－	隆帯、ＲＬ縄文		破片実測・拓本、加曽利ＥⅢ	覆土
5	縄文土器	深鉢	－	－	－	－	沈線、ＲＬ縄文		破片実測・拓本、加曽利ＥⅢ	覆土
6	縄文土器	深鉢	－	－	－	－	沈線		破片実測・拓本、加曽利ＥⅣ	覆土
7	縄文土器	深鉢	－	－	－	－	隆帯、沈線		破片実測・拓本、郷戸１	覆土
8	縄文土器	深鉢	－	－	－	－	隆帯、沈線		破片実測・拓本、郷戸１	覆土
9	縄文土器	深鉢	－	－	－	－	Ｌ撚糸		破片実測・拓本、加曽利ＥⅠ	覆土
10	縄文土器	深鉢	－	－	－	－	条線		破片実測・拓本、曽利	覆土
11	石器	磨石	6.1	5.9	4.9	286.0	磨面２面		完全実測	覆土
12	石器	磨石	6.6	6.7	5.7	327.4	磨面２面		完全実測	覆土
13	石器	磨石	8.6	7.8	5.7	499.8	磨面１面		完全実測	覆土
14	石器	磨石	9.9	6.5	5.3	593.3	磨面２面		完全実測	覆土
15	石器	磨・敲石	10.3	9.3	6.7	999.6	敲面１、磨面１面		完全実測	覆土
16	石器	凹・敲石	9.7	8.4	5.9	703.4	凹面２、敲面１		完全実測	覆土
17	石器	凹・敲・磨石	13.0	8.5	7.2	1052.7	凹面２、敲面２、磨面１面		完全実測	覆土
18	石器	砥石	8.1	6.4	2.3	165.0	砥面１面		完全実測	覆土
19	石器	砥石	7.5	8.2	1.5	107.5	砥面１面		完全実測	覆土
20	石器	砥石	17.4	10.2	3.6	880.0	砥面１面		完全実測	覆土
21	石器	石棒	＜7.5＞	10.2	10.7	819.6	－		完全実測	覆土
22	石器	石棒	13.5	4.0	4.2	327.8	－		完全実測	覆土
23	石器	石棒	＜21.3＞	12.2	9.6	4560.0	－		完全実測	覆土
24	石器	石臼	24.1	＜15.3＞	12.6	5130.0	下臼		完全実測	覆土
25	石器	石臼	＜20.5＞	21.1	8.8	3750.0	下臼		完全実測	覆土
26	石器	五輪塔	33.5	30.9	14.4	11780.0			完全実測	覆土

ＳＤ７号土坑出土遺物観察表

Ｎｏ	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	（重量）	内　面	外　面		
1	土師器	ロクロ甕	－	6.8	＜3.4＞	－	ナデ	回転糸切	回転実測、平安時代	覆土
2	陶器	灯明皿	10.4	5.6	2.1	－	施釉	回転ヘラケズリ、施釉	回転実測、前山焼	覆土
3	須恵器	壺	－	－	－	－	ナデ	櫛描波状文	破片実測・拓本	覆土
4	縄文土器	深鉢	－	－	－	－	隆帯		破片実測・拓本、曽利Ⅰ	覆土
5	縄文土器	深鉢	－	－	－	－	隆帯、沈線		破片実測・拓本、唐草文	覆土
6	縄文土器	深鉢	－	－	－	－	沈線、ＬＲ縄文		破片実測・拓本、加曽利ＥⅢ	覆土
7	石器	打製石斧	7.9	6.8	2.4	171.3	隆帯、沈線		完全実測	覆土
8	石器	打製石斧	8.9	6.4	1.6	142.6	隆帯、沈線		完全実測	覆土
9	石器	砥石	5.5	3.8	1.55	64.0	砥面４面		完全実測	覆土
10	石器	砥石	11.2	8.9	＜6.2＞	＜923.0＞	砥面１面		完全実測	覆土
11	石器	砥石	12.3	11.0	＜2.65＞	＜462.4＞	砥面１面		完全実測	覆土
12	石器	磨石	7.1	6.1	4.1	200.8	磨面１面		完全実測	覆土
13	石器	磨石	16.5	11.8	8.5	2270.0	磨面１面		完全実測	覆土

ＳＤ８号土坑出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	（重量）	内　面	外　面		
1	石器	打製石斧	＜ 6.7 ＞	4.7	1.0	＜ 41.2 ＞	―		完全実測	覆土

Ｔａ１号竪穴建物址出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	（重量）	内　面	外　面		
1	土師質土器	内耳鍋	―	―	―	―	―	―	破片実測・拓本	覆土
2	土師質土器	内耳鍋	―	―	―	―	―	―	破片実測・拓本	覆土
3	土師質土器	内耳鍋	―	―	―	―	―	―	破片実測・拓本	覆土
4	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	沈線・縄文Ｌ撚糸軸巻		破片実測・拓本、加曽利Ｅ式	覆土
5	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	隆帯・縄文 RL		破片実測・拓本、加曽利ＥⅢ式	覆土
6	縄文土器	深鉢	―	(3.8)	―	―	―		回転実測・拓本、中期	覆土
7	縄文土器	深鉢	―	(11.0)	―	―	―		回転実測、中期	覆土

Ｔａ２号竪穴建物址出土遺物観察表 (1)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	（重量）	内　面	外　面		
1	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	隆帯・半裁竹管沈線文		破片実測・拓本、中期後半	覆土
2	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	隆帯・半裁竹管沈線文		破片実測・拓本、中期中葉	覆土
3	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	沈線・縄文 LR		破片実測・拓本、加曽利ＥⅡ	覆土
4	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	縄文 RL		破片実測・拓本、中期後半	覆土
5	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	沈線・縄文 RL		破片実測・拓本、加曽利ＥⅡ	覆土
6	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	沈線・縄文 RL		破片実測・拓本、加曽利ＥⅠ	覆土
7	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	沈線・縄文 LR		破片実測・拓本、称名寺	覆土
8	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	半裁竹管沈線文・半裁竹管押引文		破片実測・拓本、曽利Ⅰ	覆土
9	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	―		破片実測・拓本、曽利Ⅱ	覆土
10	縄文土器	浅鉢	―	―	―	―	―		破片実測・拓本、中期後半	覆土
11	縄文土器	深鉢	―	(10.4)	<2.5>	―	―		回転実測・拓本、郷戸？	覆土
12	縄文土器	器台	―	―	―	―	―		破片実測・拓本、中期後半	覆土
13	土師質土器	内耳鍋	―	―	―	―	―	―	破片実測・拓本	覆土
14	土師質土器	内耳鍋	―	―	―	―	―	―	破片実測・拓本	覆土
15	土師質土器	内耳鍋	―	―	―	―	―	―	破片実測・拓本	覆土
16	石器・石製品	石鏃	<2.0>	1.5	0.45	<1.4>	―		完全実測	覆土
17	石器・石製品	石鏃	2.8	1.9	0.6	1.8	―		完全実測	覆土
18	石器・石製品	打製石斧	<5.2>	4.7	2.1	<66.2>	―		完全実測	覆土
19	石器・石製品	打製石斧	<5.3>	4.5	1.4	<51.2>	―		完全実測	覆土
20	石器・石製品	打製石斧	7.0	5.5	1.5	62.7	―		完全実測	覆土
21	石器・石製品	打製石斧	7.0	5.1	1.5	86.5	―		完全実測	覆土
22	石器・石製品	打製石斧	<12.8>	4.7	1.3	<100.3>	―		完全実測	覆土
23	石器・石製品	磨石	<5.3>	5.2	1.4	<44.4>	磨面 1		完全実測	覆土
24	石器・石製品	砥石	15.4	10.1	3.2	749.0	砥面 2		完全実測	No11
25	石器・石製品	加工痕のある剥片	3.2	2.7	0.9	7.4	安山岩		完全実測	覆土
26	石器・石製品	加工痕のある剥片	3.6	2.4	1.2	9.1	安山岩		完全実測	覆土
27	石器・石製品	加工痕のある剥片	3.7	4.9	0.8	13.2	―		完全実測	覆土

Ｔａ２号竪穴建物址出土遺物観察表 (2)

Ｎｏ	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	（重量）	内　面	外　面		
28	石器・石製品	使用痕のある剥片	5.6	2.2	0.9	9.1	安山岩		完全実測	覆土
29	石器・石製品	石臼	<10.3>	<15.2>	<11.1>	<1770.0>	上臼、目は切線主溝型		完全実測	覆土
30	銅製品	古銭	2.2	2.2	0.1	2.2	「開元通寶」真書		完全実測	Ｉ区

Ｔａ３号竪穴建物址出土遺物観察表

Ｎｏ	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	（重量）	内　面	外　面		
1	縄文	深鉢	―	―	―	―	隆帯・半裁竹管線文		破片実測・拓本、中期後半	覆土

埋甕１出土遺物観察表

Ｎｏ	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	（重量）	内　面	外　面		
1	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	隆帯		回転実測、中期末～後期初頭	入子状態
2	縄文土器	把手付鉢	（26.3）	―	―	―	把手、隆帯		回転実測、中期末～後期初頭	

埋甕２出土遺物観察表

Ｎｏ	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	（重量）	内　面	外　面		
1	縄文土器	深鉢	18.2	―	―	―	Ｌ撚糸、隆帯、沈線		完全実測、加曽利ＥⅡ	―

ピット出土遺物観察表

Ｎｏ	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	（重量）	内　面	外　面		
1	土師器	坏	―	5.6	＜ 1.3 ＞	―	ナデ	回転糸切	完全実測、平安時代	Ｐ４
2	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	口唇部に沈線		破片実測・拓本、中期後半	Ｐ４
3	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	沈線		破片実測・拓本、曽利Ⅱ	Ｐ４
1	石器	石鏃	＜ 1.7 ＞	1.5	0.3	0.6			完全実測、黒曜石	Ｐ７
1	石器	砥石	＜ 20.5 ＞	＜ 12.7 ＞	5.1	2303	砥面１面		完全実測	Ｐ13
1	陶器	丸皿	―	(5.8)	2.2	―	瀬戸・美濃		回転実測、17 世紀	Ｐ14
1	土師器	坏	―	(5.6)	＜ 1.8 ＞	―	ナデ	回転糸切	回転実測	Ｐ29
1	縄文土器	深鉢	―	―	―	―	無文		破片実測・拓本、後期	Ｐ30

遺構外出土遺物観察表 (1)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	（重量）	内　面	外　面		
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線文		破片実測・拓本、曽利Ⅱ	Z
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	S 字状隆帯・R 撚糸軸巻		破片実測・拓本、加曽利ＥⅡ	I4b
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	渦巻き沈線文		破片実測・拓本、加曽利ＥⅡ	Z
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線文		破片実測・拓本、中期後半	E11a
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯・沈線文		破片実測・拓本、中期後半	H10a
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	S 字状隆帯・沈線文		破片実測・拓本、唐草文系？	H10c
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線文		破片実測・拓本、加曽利ＥⅢ	H11a
8	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯・沈線文・RL 縄文		破片実測・拓本、加曽利ＥⅡ	H12 覆土
9	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	縦・横条線		破片実測・拓本、曽利Ⅴ？	J11a
10	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	蛇行沈線文・RL 縄文		回転実測、加曽利ＥⅡ	I6a
11	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	竹籠目文		破片実測・拓本、曽利Ⅰ	J10G
12	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯刻み・R 撚糸軸巻		破片実測・拓本、加曽利ＥⅠ	I6d
13	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	LR 縄文・隆帯		破片実測・拓本、曽利？	Z
14	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯・沈線		破片実測・拓本、中期後半	Z
15	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線文・R 撚糸軸巻		破片実測・拓本、加曽利ＥⅠ	D10a カクラン
16	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	R 撚糸軸巻		破片実測・拓本、加曽利Ｅ	I10 カクラン
17	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	半裁竹管の横・波状隆線文・RL 縄文		破片実測・拓本、加曽利ＥⅠ	D8a
18	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	半裁竹管の縦隆線文・RL 縄文		破片実測・拓本、加曽利Ｅ	D10a カクラン
19	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	横沈線文・RL 縄文		破片実測・拓本、加曽利Ｅ	I8d
20	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	渦巻き沈線文・LR 縄文		破片実測・拓本、加曽利Ｅ	H9c
21	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線文・RL 縄文		破片実測・拓本、加曽利ＥⅢ	J5c
22	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	半裁竹管の隆線文・LR 縄文		破片実測・拓本、加曽利Ｅ	G9a
23	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	蛇行隆帯・RL 縄文		破片実測・拓本、加曽利ＥⅡ	C10 カクラン
24	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	半裁竹管の刺突・隆線文		破片実測・拓本、加曽利Ｅ	H9c
25	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線文・RL 縄文		破片実測・拓本、加曽利ＥⅢ	H12 覆土
26	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線・LR 縄文		破片実測・拓本、加曽利ＥⅢ	H12 覆土
27	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	条線		破片実測・拓本、曽利	H12b
28	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯・綾杉状沈線文		破片実測・拓本、郷戸	D10a カクラン
29	縄文土器	深鉢	—	(9.6)	<5.0>	—	沈線文・RL 縄文		回転実測・拓本、加曽利ＥⅢ	F7c
30	縄文土器	深鉢	—	(7.4)	<3.5>	—	RL 縄文		回転実測・拓本、中期後半	Ⅱ区
31	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線文・LR 縄文		破片実測・拓本、加曽利ＥⅡ	I6a
32	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	刻み付隆帯・沈線文		破片実測・拓本、井戸尻	D9G カクラン
33	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	LR 羽状縄文		破片実測・拓本、前期	G6a
34	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	綾杉状沈線文		破片実測・拓本、唐草文系	M4d
35	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	綾杉状沈線文		破片実測・拓本、唐草文系	H9b
36	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯・綾杉状沈線文		破片実測・拓本、唐草文系	D9d カクラン
37	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	綾杉状沈線文		破片実測・拓本、唐草文系	D8d カクラン
38	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	蛇行沈線・沈線文		破片実測・拓本、曽利	H11a
39	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線文・うろこ状沈線文		破片実測・拓本、郷戸	M3d
40	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	条線		破片実測・拓本、曽利	M2
41	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	環状把手		破片実測、称名寺	G5a カクラン
42	縄文土器	深鉢	(20.8)	—	—	—	沈線文・RL 縄文・突起		回転実測、称名寺	I12b
43	縄文土器	深鉢注口付	—	—	—	—	隆線・刺突・LR 縄文		破片実測、称名寺	G9a

遺構外出土遺物観察表 (2)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	（重量）	内　面	外　面		
44	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線文・LR 縄文		破片実測・拓本、称名寺	D7d カクラン
45	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	突起		破片実測・拓本、称名寺	J10d
46	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線文・RL 縄文		破片実測・拓本、称名寺	H12a
47	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線文・LR 縄文		破片実測・拓本、称名寺	I12b
48	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線文・LR 縄文		破片実測・拓本、称名寺	H12 覆土
49	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆線文・LR 縄文		破片実測・拓本、加曽利 E Ⅳ	D9c カクラン
50	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線文・LR 縄文		破片実測・拓本、称名寺	P3d
51	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆線文・LR 縄文		破片実測・拓本、称名寺	I9b
52	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆線文・LR 縄文		破片実測・拓本、称名寺	H12b
53	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線文・LR 縄文		破片実測・拓本、称名寺	D9d
54	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線文・LR 縄文		破片実測・拓本、称名寺	I9c
55	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線文・RL 縄文		破片実測・拓本、称名寺	Z
56	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線文・RL 縄文		破片実測・拓本、称名寺	覆土
57	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線文・LR 縄文		破片実測・拓本、称名寺	I12b
58	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線文・LR 縄文		破片実測・拓本、称名寺	G5a カクラン・J12a
59	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線文・LR 縄文		破片実測・拓本、称名寺	J12
60	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線文・LR 縄文		破片実測・拓本、称名寺	H12 覆土
61	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線文・LR 縄文		破片実測・拓本、称名寺	E10d
62	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線文・LR 縄文		破片実測・拓本、後期	J12a
63	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線文		破片実測・拓本、後期	H10a
64	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	隆帯文		破片実測・拓本、後期	I9c
65	縄文土器	深鉢	—	(8.2)	<4.0>	—	RL 縄文		回転実測、後期	H12 覆土
66	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線文		破片実測・拓本、中期中葉	G6a
67	縄文土器	釣手土器	—	—	—	—	玉抱き・三叉文		破片実測、中期中葉	I9c
68	土師器	坏	—	(6.4)	<2.1>	—	黒色処理	回転糸切	回転実測、平安	Z
69	土師器	かわらけ	(10.0)	(5.8)	3.0	—	—	—	回転実測、中世	E10c
70	土師器	羽釜	(24.2)	—	<11.0>	—	ヘラナデ	ヘラケズリ→ナデ	回転実測、平安	L3b
71	土師器	内耳鍋	—	—	—	—	—	—	破片実測、中世	Z
72	土師器	土鍋	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本、中世	G11d
73	土師器	土鍋	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本、中世	D10b
74	土師器	土鍋	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本、中世	D9c カクラン
75	土師器	土鍋	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本、中世	B12 カクラン
76	灰釉陶器	皿	(7.5)	—	—	—	施釉	施釉	破片実測・写真、平安	J5b
77	陶器	擂鉢	—	—	—	—	—	—	破片実測・写真、18 末～ 19 世紀、前山焼	Ⅱ区
78	陶器	擂鉢	—	—	—	—	—	—	破片実測・写真	Ⅰ区
79	陶器	皿	—	—	—	—	—	—	破片実測・写真、19 世紀後半、前山焼	F8A
80	陶器	?	—	—	—	—	—	—	破片実測・写真、近世	E9a カクラン
81	陶器	擂鉢	—	—	—	—	—	—	破片実測・写真	G6d
82	陶器	?	—	—	—	—	—	—	破片実測・写真	G11
83	陶器	碗	—	—	—	—	—	—	破片実測・写真	覆土
84	陶器	?	—	—	—	—	—	—	破片実測・写真	覆土
85	石器・石製品	石鏃	<1.9>	<1.7>	<0.3>	<1.0>	黒曜石		完全実測	F7c
86	石器・石製品	石鏃	1.8	1.4	0.6	1.1	黒曜石		完全実測	F11b

遺構外出土遺物観察表 (3)

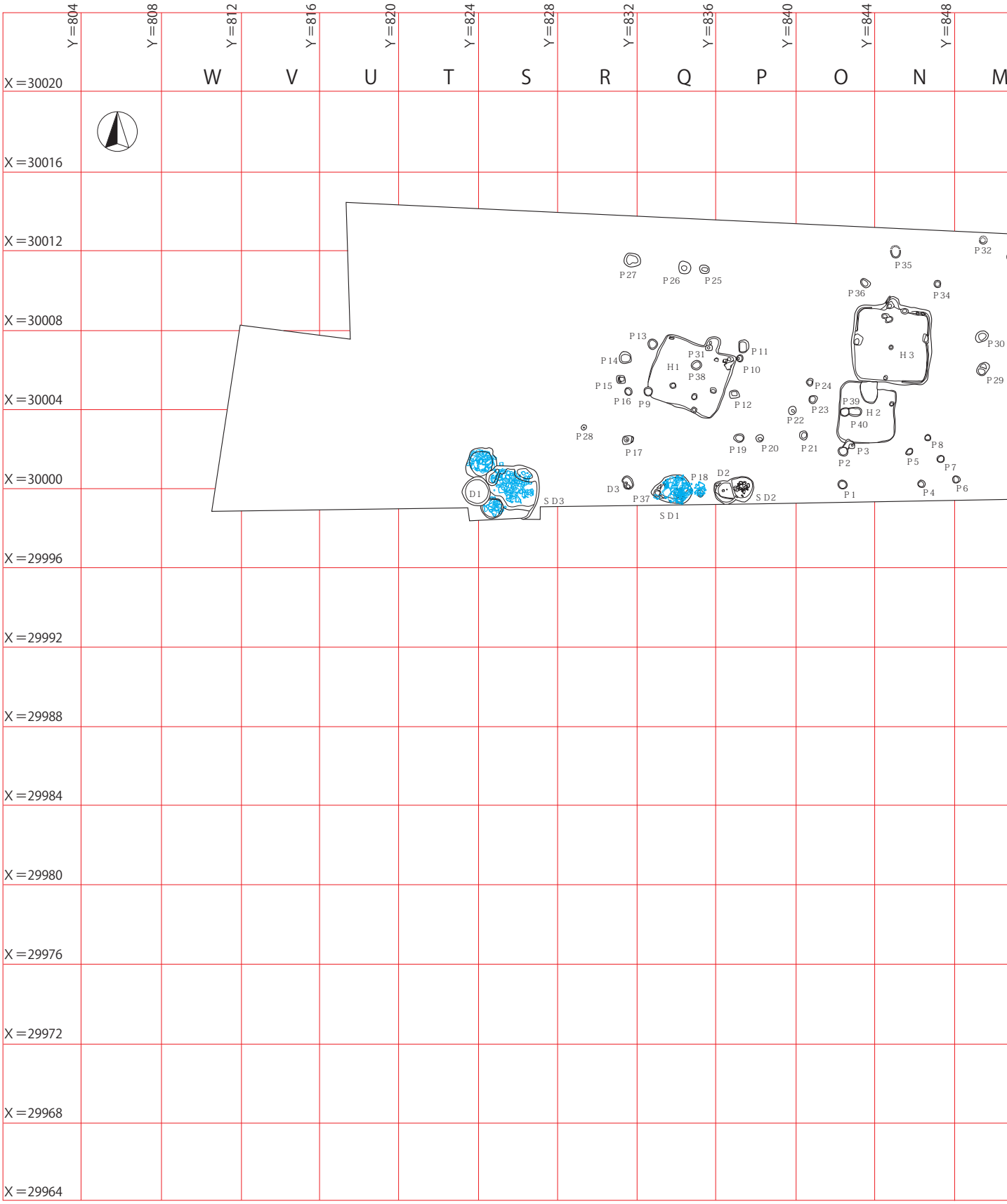
No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	（重量）	内　面	外　面		
87	石器・石製品	石鏃	<2.4>	<1.7>	0.4	<0.9>	チャート		完全実測	J12a
88	石器・石製品	石鏃	3.0	<1.9>	0.5	<1.8>	チャート		完全実測	F5c
89	石器・石製品	石鏃	<2.2>	<2.5>	<0.6>	<2.5>	玻璃質安山岩		完全実測	Z
90	石器・石製品	石鏃	<2.7>	<1.2>	<0.4>	<1.0>	安山岩		完全実測	D12a
91	石器・石製品	打製石斧	<3.9>	<3.2>	<1.0>	<11.9>	―		完全実測	Z
92	石器・石製品	打製石斧	<4.3>	3.8	1.5	<29.4>	―		完全実測	E10b カクラン
93	石器・石製品	打製石斧	<5.4>	3.7	1.45	<28.2>	―		完全実測	Z
94	石器・石製品	打製石斧	<4.9>	4.7	9.5	<23.2>	―		完全実測	G5a カクラン
95	石器・石製品	打製石斧	<4.6>	4.85	1.9	<5.31>	―		完全実測	Z
96	石器・石製品	打製石斧	<4.5>	4.2	0.8	<24.6>	―		完全実測	I9a
97	石器・石製品	打製石斧	<4.7>	5.3	2.0	<71.5>	―		完全実測	E10G カクラン
98	石器・石製品	打製石斧	<6.5>	<3.7>	1.0	<25.4>	―		完全実測	H12G
99	石器・石製品	打製石斧	<5.3>	<2.8>	0.8	<16.0>	―		完全実測	H12a
100	石器・石製品	打製石斧	<5.2>	<5.2>	<1.8>	<61.7>	―		完全実測	F16b
101	石器・石製品	打製石斧	<6.9>	<4.8>	<1.9>	<59.5>	―		完全実測	H10a
102	石器・石製品	打製石斧	<6.2>	5.3	1.5	<61.5>	―		完全実測	Z
103	石器・石製品	打製石斧	6.8	<6.9>	0.7	<35.2>	―		完全実測	H6a
104	石器・石製品	打製石斧	<6.55>	5.5	1.1	<52.2>	―		完全実測	Z
105	石器・石製品	打製石斧	7.9	4.9	1.2	47.8	―		完全実測	H11c
106	石器・石製品	打製石斧	<6.3>	4.4	2.8	<80.0>	―		完全実測	P4a
107	石器・石製品	打製石斧	<6.2>	4.7	1.3	<67.3>	―		完全実測	B12G カクラン
108	石器・石製品	打製石斧	<6.1>	5.2	1.45	<49.5>	―		完全実測	J8c
109	石器・石製品	打製石斧	<6.9>	4.7	1.8	<69.7>	―		完全実測	H10b
110	石器・石製品	打製石斧	<7.3>	7.9	1.8	<118.2>	―		完全実測	D10a カクラン
111	石器・石製品	打製石斧	<8.6>	4.0	2.3	<88.2>	―		完全実測	L4c
112	石器・石製品	打製石斧	<8.5>	4.2	2.5	<114.6>	―		完全実測	D9d
113	石器・石製品	打製石斧	<8.3>	5.8	1.15	<99.0>	―		完全実測	D10a
114	石器・石製品	打製石斧	<9.5>	4.7	1.3	<105.8>	―		完全実測	M2d
115	石器・石製品	打製石斧	9.3	4.6	2.6	141.7	下部欠損		完全実測	C10c カクラン
116	石器・石製品	打製石斧	<10.1>	5.4	1.35	<101.7>	―		完全実測	Ⅰ区 H10a
117	石器・石製品	打製石斧	<10.25>	6.55	1.2	<87.7>	―		完全実測	J2・172
118	石器・石製品	磨・敲石	12.2	8.6	3.0	452.8	花崗岩		完全実測	Z
119	石器・石製品	凹・磨・敲石	14.2	7.4	3.5	615.7	砥面２		完全実測	H12a
120	石器・石製品	砥石 or 石皿	<15.7>	<23.3>	6.5	<2980.0>	砥面１、被熱有、煤付着		完全実測	I7d
121	石器・石製品	砥石	4.45	<3.4>	0.8	<18.0>	砥面１？		完全実測	D10a カクラン
122	石器・石製品	砥石	<4.0>	3.2	1.4	<29.3>	砥面２		完全実測	G5a カクラン
123	石器・石製品	砥石	4.0	<3.9>	1.4	<29.9>	砥面１		完全実測	H12b
124	石器・石製品	砥石	4.9	3.9	<0.95>	<22.2>	砥面１		完全実測	J2・172
125	石器・石製品	砥石	<5.3>	3.3	0.7	<19.0>	砥面２		完全実測	F11d
126	石器・石製品	砥石	<4.9>	5.0	3.7	<170.5>	砥面２		完全実測	F5b
127	石器・石製品	砥石	2.3	6.5	1.1	24.2	―		完全実測	H8d
128	石器・石製品	砥石	<4.6>	<5.5>	2.0	<87.0>	砥面１		完全実測	G7a
129	石器・石製品	砥石	11.3	10.0	2.7	<563.5>	砥面１		完全実測	D10a

遺構外出土遺物観察表 (4)

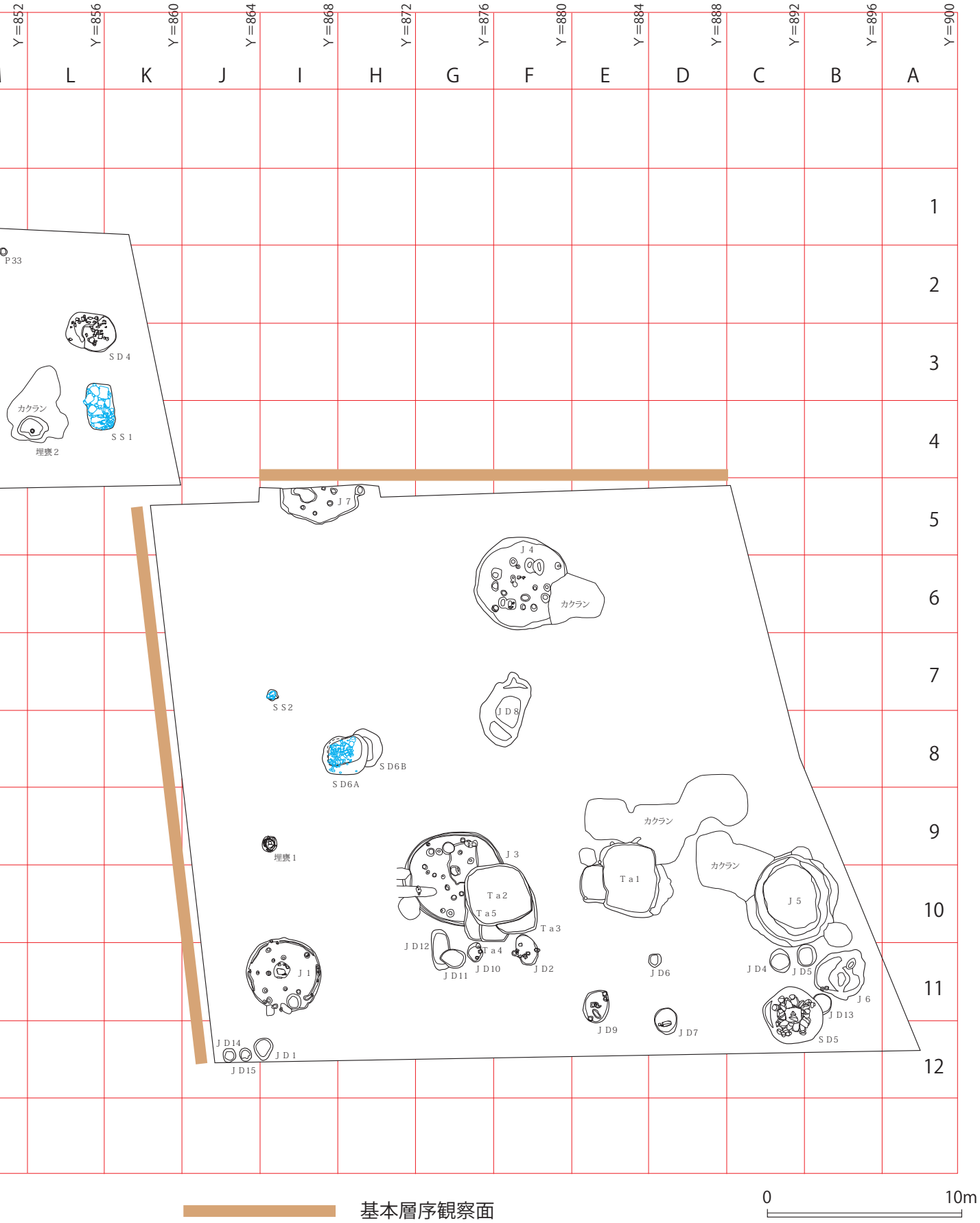
No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	（重量）	内　面	外　面		
130	石器・石製品	砥石	12.0	<9.9>	3.5	<762.6>	砥面 1		完全実測	I9b
131	石器・石製品	砥石	<13.7>	<12.6>	<4.8>	<572.1>	砥面 1 、敲打痕		完全実測	Z
132	石器・石製品	砥石	<17.0>	<7.5>	<2.0>	<308.0>	砥面 1		完全実測	Ⅰ区 J12a
133	石器・石製品	加工痕のある剥片	<2.9>	<2.9>	<1.4>	<9.6>	玻璃質安山岩		完全実測	Z
134	石器・石製品	加工痕のある剥片	<3.7>	<2.5>	<0.9>	<8.6>	頁岩		完全実測	H12a
135	石器・石製品	加工痕のある剥片	<3.5>	<2.4>	<1.6>	<13.7>	玻璃質安山岩		完全実測	Z
136	石器・石製品	加工痕のある剥片	<3.6>	<2.9>	<1.1>	<13.9>	玻璃質安山岩		完全実測	Z
137	石器・石製品	加工痕のある剥片	<3.1>	<3.5>	<0.9>	<10.6>	玻璃質安山岩		完全実測	F12a
138	石器・石製品	加工痕のある剥片	<3.5>	<3.4>	<1.25>	<14.7>	玻璃質安山岩		完全実測	H10c
139	石器・石製品	加工痕のある剥片	<3.6>	<3.8>	<2.4>	<27.8>	チャート		完全実測	F16b
140	石器・石製品	加工痕のある剥片	<4.0>	<5.3>	<0.9>	<16.5>	玻璃質安山岩		完全実測	D10a カクラン
141	石器・石製品	加工痕のある剥片	<4.0>	<503>	<0.9>	<19.0>	―		完全実測	D9b
142	石器・石製品	加工痕のある剥片	<4.5>	<4.8>	<1.1>	<31.4>	頁岩		完全実測	B12a カクラン
143	石器・石製品	加工痕のある剥片	<4.0>	<5.8>	<0.9>	<17.5>	黒色頁岩		完全実測	I5d
144	石器・石製品	加工痕のある剥片	<6.1>	<4.1>	<1.3>	<34.5>	―		完全実測	D11a
145	石器・石製品	加工痕のある剥片	<5.0>	<4.5>	<1.3>	<32.2>	玻璃質安山岩		完全実測	H12G7
146	石器・石製品	加工痕のある剥片	<5.3>	<4.3>	<1.7>	<35.0>	玻璃質安山岩		完全実測	F7c
147	石器・石製品	加工痕のある剥片	<7.3>	<4.1>	<0.9>	<31.7>	―		完全実測	I11c
148	石器・石製品	加工痕のある剥片	<7.3>	<5.8>	<1.4>	<61.4>	玻璃質安山岩		完全実測	I10G カクラン
149	石器・石製品	加工痕のある剥片	<5.9>	<3.9>	<1.1>	<26.3>	玻璃質安山岩		完全実測	I12b
150	石器・石製品	加工痕のある剥片	<6.2>	<3.3>	<0.8>	<18.4>	玻璃質安山岩		完全実測	H10a
151	石器・石製品	石錘	<5.7>	<5.2>	<1.95>	<73.5>	―		完全実測	C12a
152	石器・石製品	加工痕のある剥片	<6.4>	5.7	1.3	<55.4>	煤付着		完全実測	Z
153	銅製品	古銭	2.4	2.4	1.0	2.9	「寛永通寶」		完全実測・拓本	P4d
154	銅製品	古銭	2.4	2.35	1.0	<3.2>	「紹聖元寶」篆		完全実測・拓本	D9cG

引用・参考文献

1978 年	平根村誌		平根小学校
1995 年	佐久市志歴史編（一）原始・古代		佐久市志刊行会
2005 年	聖原遺跡　第 5 分冊		佐久市教育委員会
2006 年	文化としての縄文土器	川崎保	㈱雄山閣
2008 年	総覧　縄文土器	小林達雄	㈱アム・プロモーション


Y＝804
Y＝808
Y＝812
Y＝816
Y＝820
Y＝824
Y＝828
Y＝832
Y＝836
Y＝840
Y＝844
Y＝848
X＝30020
X＝30016
X＝30012
X＝30008
X＝30004
X＝30000
X＝29996
X＝29992
X＝29988
X＝29984
X＝29980
X＝29976
X＝29972
X＝29968
X＝29964
W
V
U
T
S
R
Q
P
O
N
M
P27
P26
P25
P35
P32
P36
P34
P13
P14
P31
H1
P38
P11
P10
H3
P30
P29
P15
P16
P9
P12
P24
P23
P22
P39
H2
P40
P28
P17
P19
P20
P21
P2
P3
P8
P5
P7
P6
P4
P1
D1
S D3
D3
P37
P18
S D1
D2
S D2

第 49 図　山伏

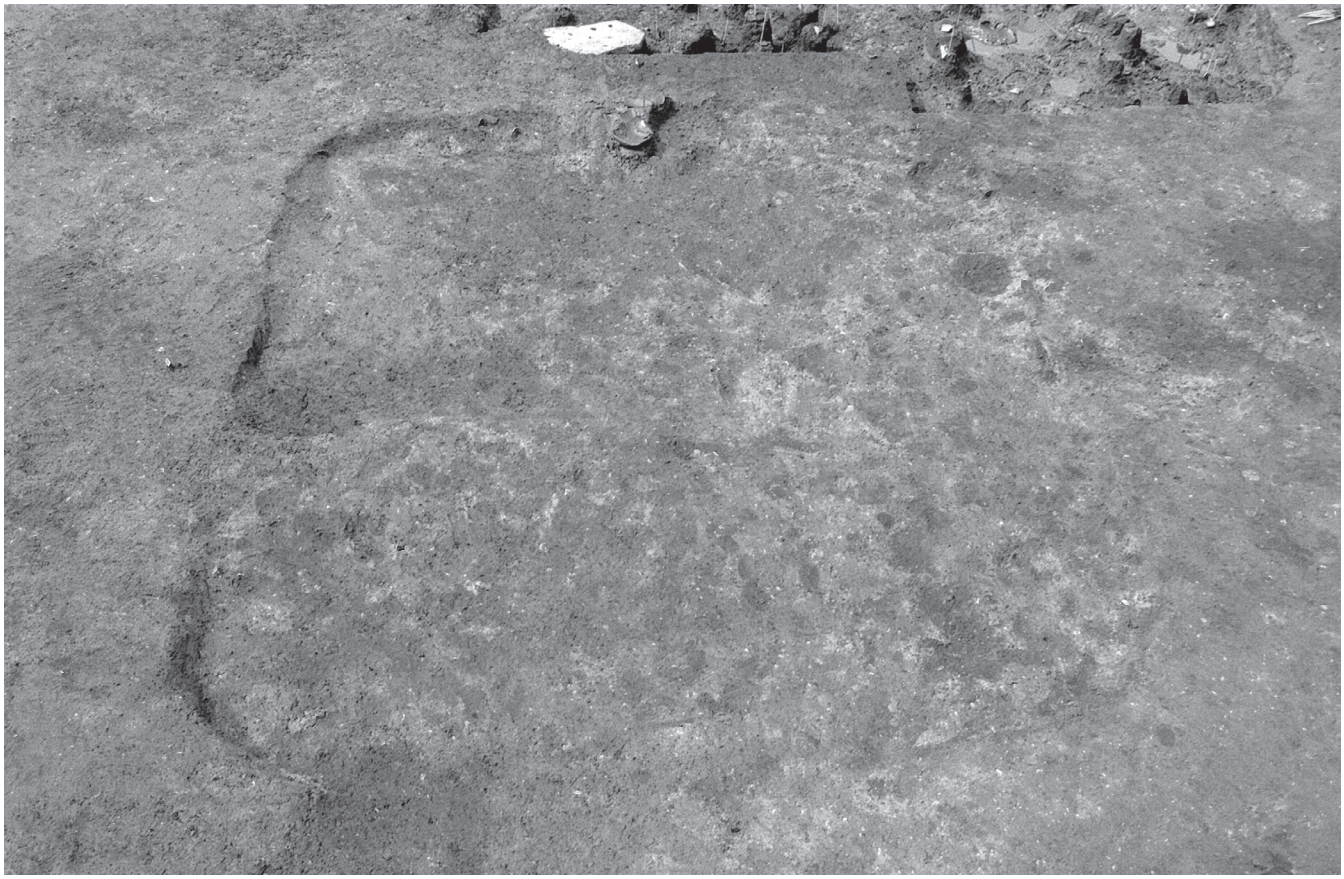


基本層序観察面

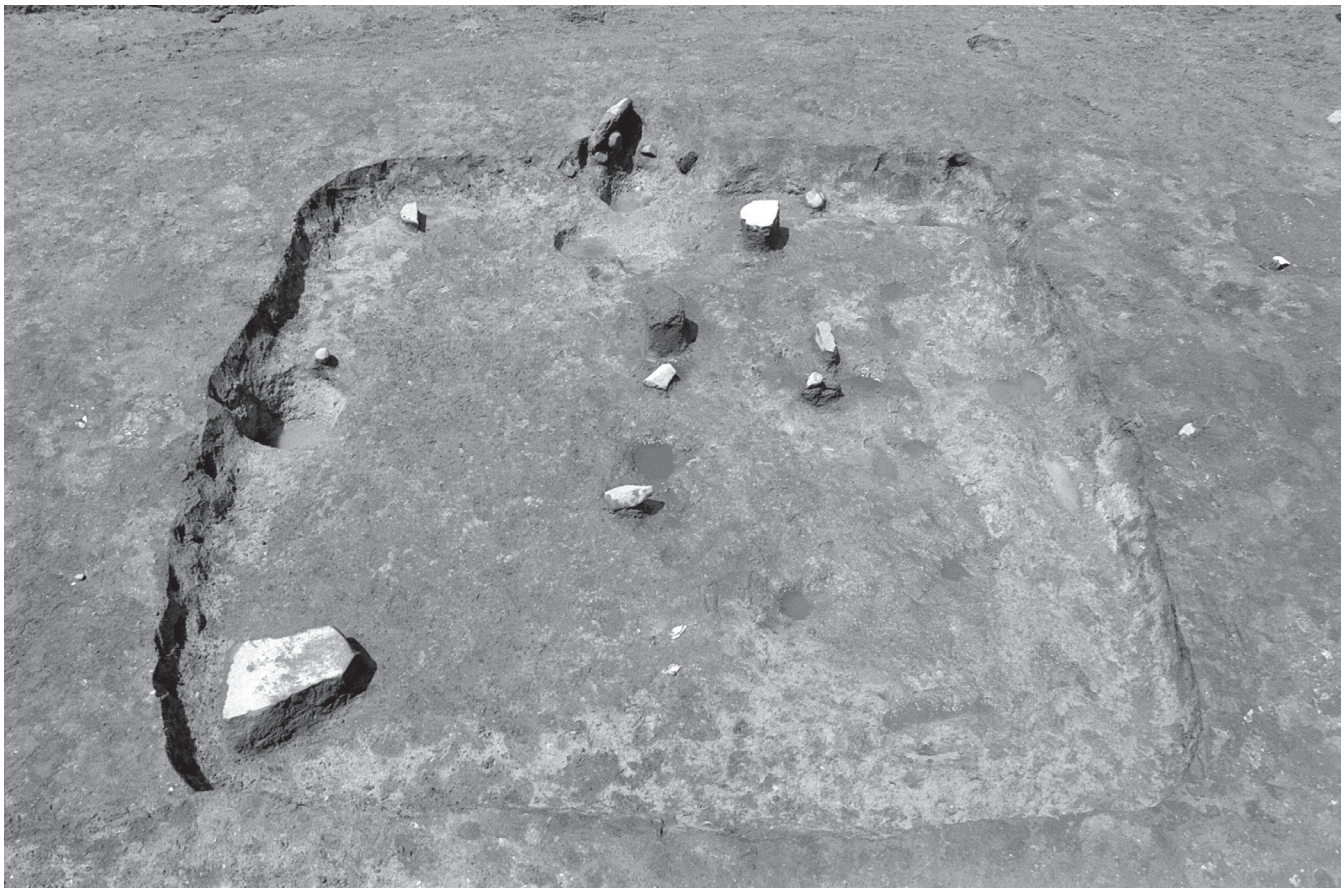
0 10m

木遺跡全体図

Ｈ１号住居址



Ｈ２号住居址



Ｈ３号住居址

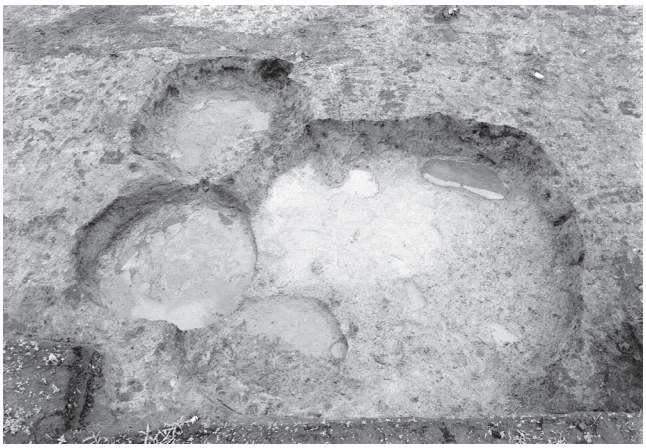
Ｈ４号住居址

Ｈ４号住居址炉

Ｈ５号住居址

Ｈ６号住居址

Ｈ７号住居址



Ｄ１号土坑、ＳＤ３号集石土坑（石除去後）

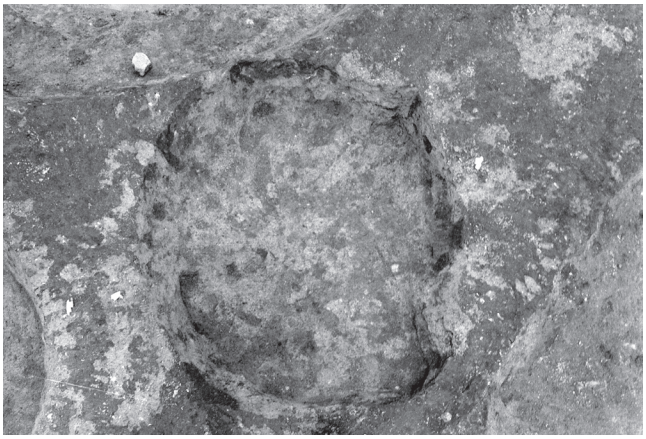
Ｄ２号土坑、ＳＤ２号集石土坑

Ｄ３号土坑

Ｄ４号土坑

Ｄ５号土坑

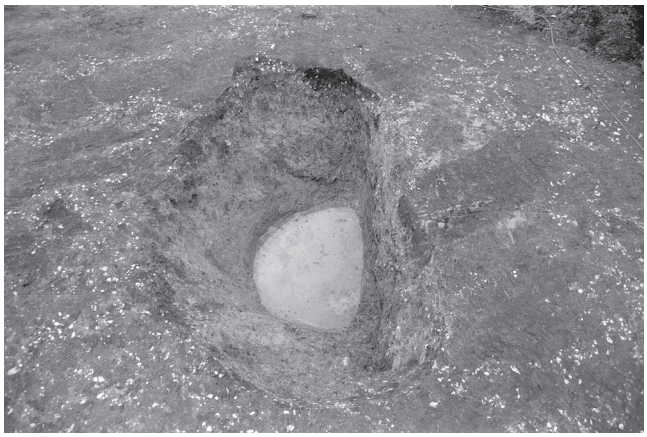
Ｄ６号土坑



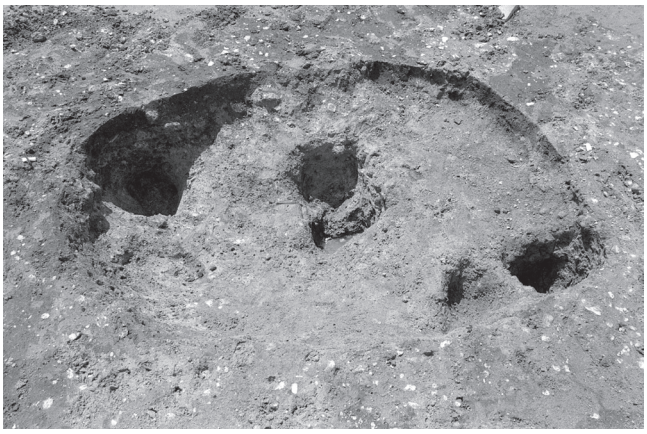
Ｄ７号土坑

Ｄ８号土坑

D 9 号土坑

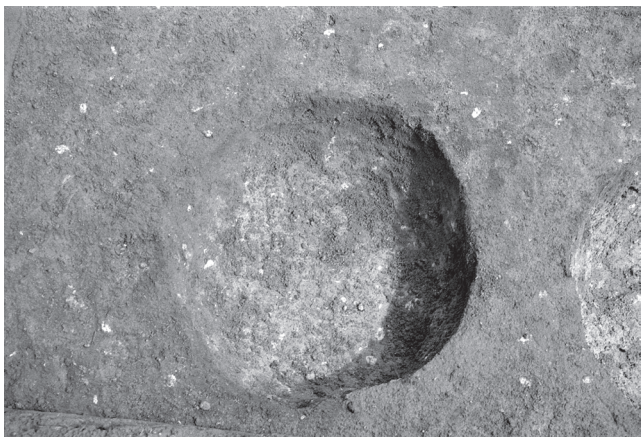


D 10 号土坑

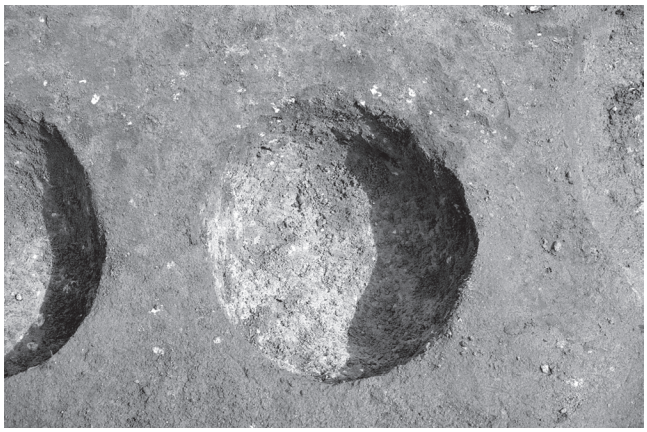


D 11 号土坑

D 14 号土坑

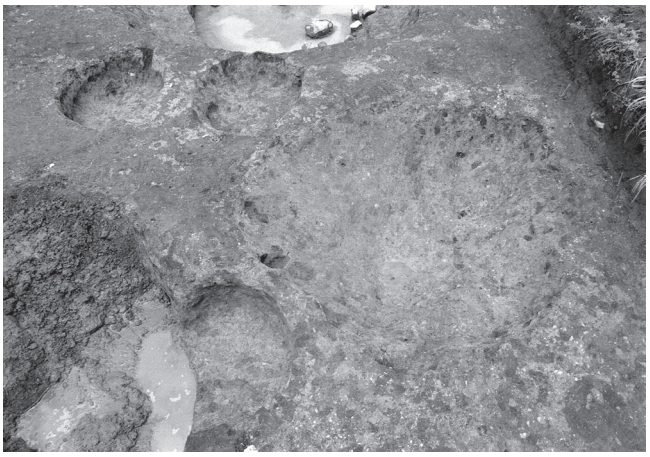


D 16 号土坑



D 17 号土坑

D 18 号土坑



D 19 号土坑

ＳＤ１号集石土坑

ＳＤ３号集石土坑

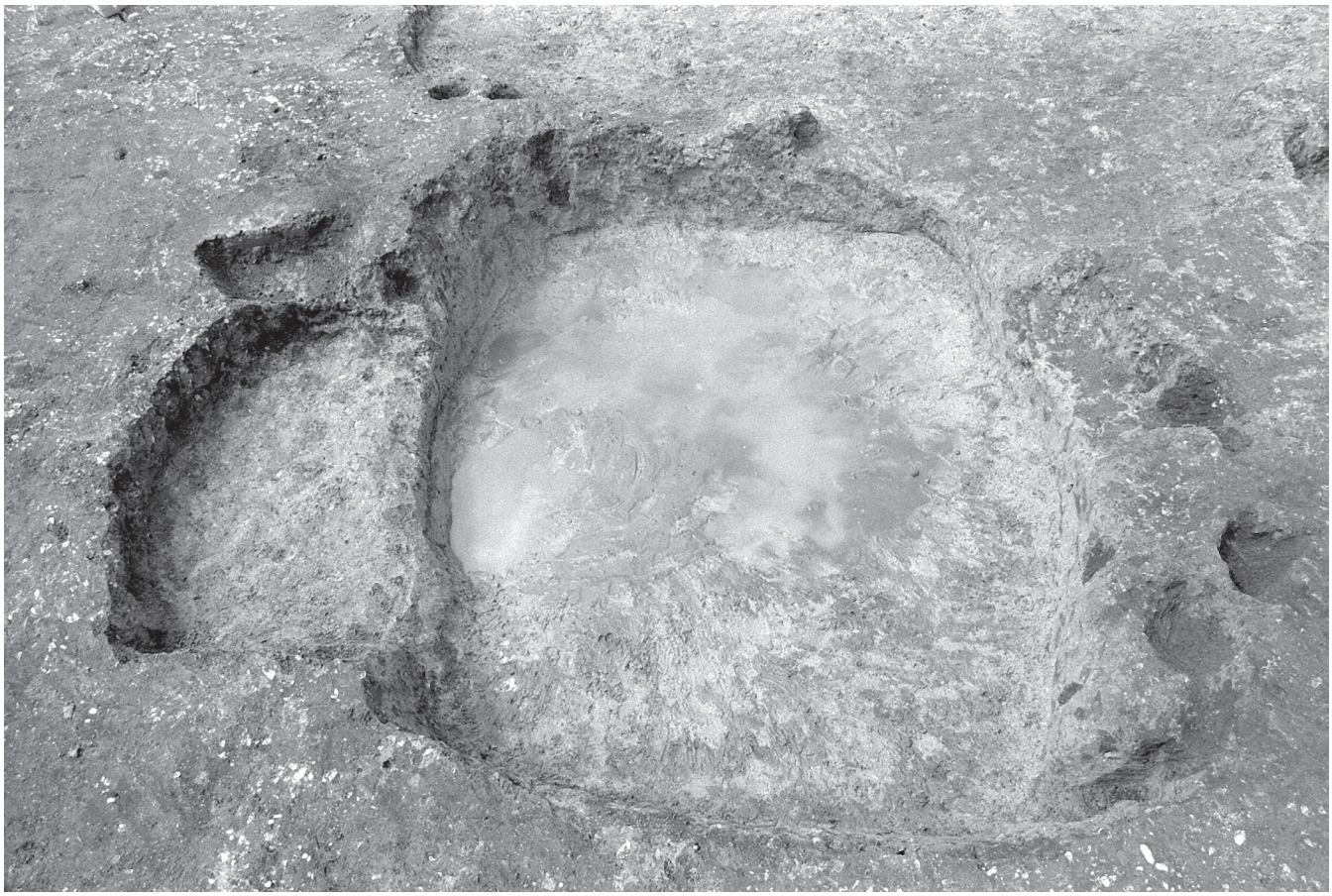
ＳＤ４号集石土坑

ＳＤ５号集石土坑（井戸址）

ＳＤ６号集石土坑、Ｄ20号土坑

ＳＤ７号集石土坑

ＳＤ８号集石土坑



Ｔａ１号竪穴建物址

Ｔａ２・３・４・５号竪穴建物址

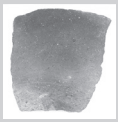
埋甕１(検出状況)

埋甕１(断面)

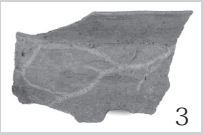
埋甕２(断面)

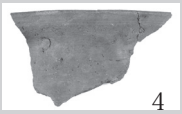
調査風景

調査風景


1

2


3


4

5

9

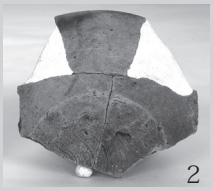
6

8

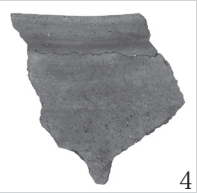
7

Ｈ１号住居址出土遺物

1


2

3


4

5

Ｈ２号住居址出土遺物

1

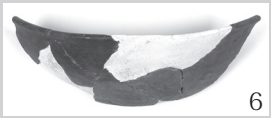
2

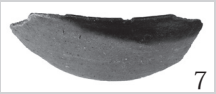
3

4

5

Ｈ３号住居址出土遺物（１）


6


7

8

9

10

11

12

13

14

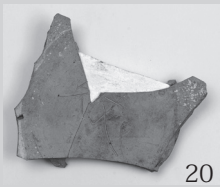
15

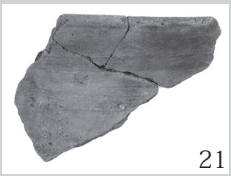
16

17

18

19


20


21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

Ｈ３号住居址出土遺物（２）

1

2

3

4

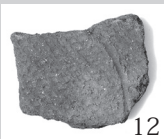
5

16

6

8

10


12

14

15

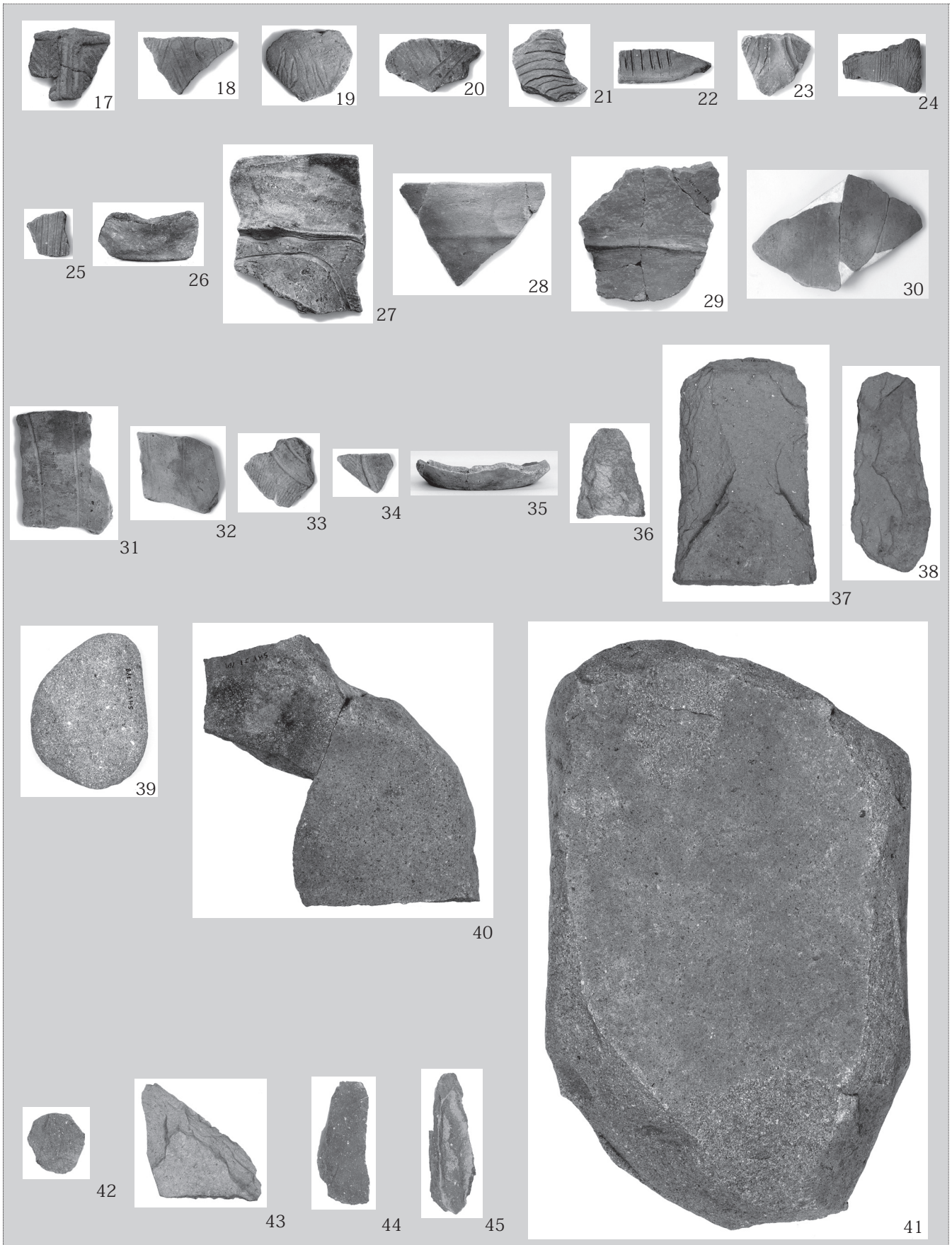
7

9

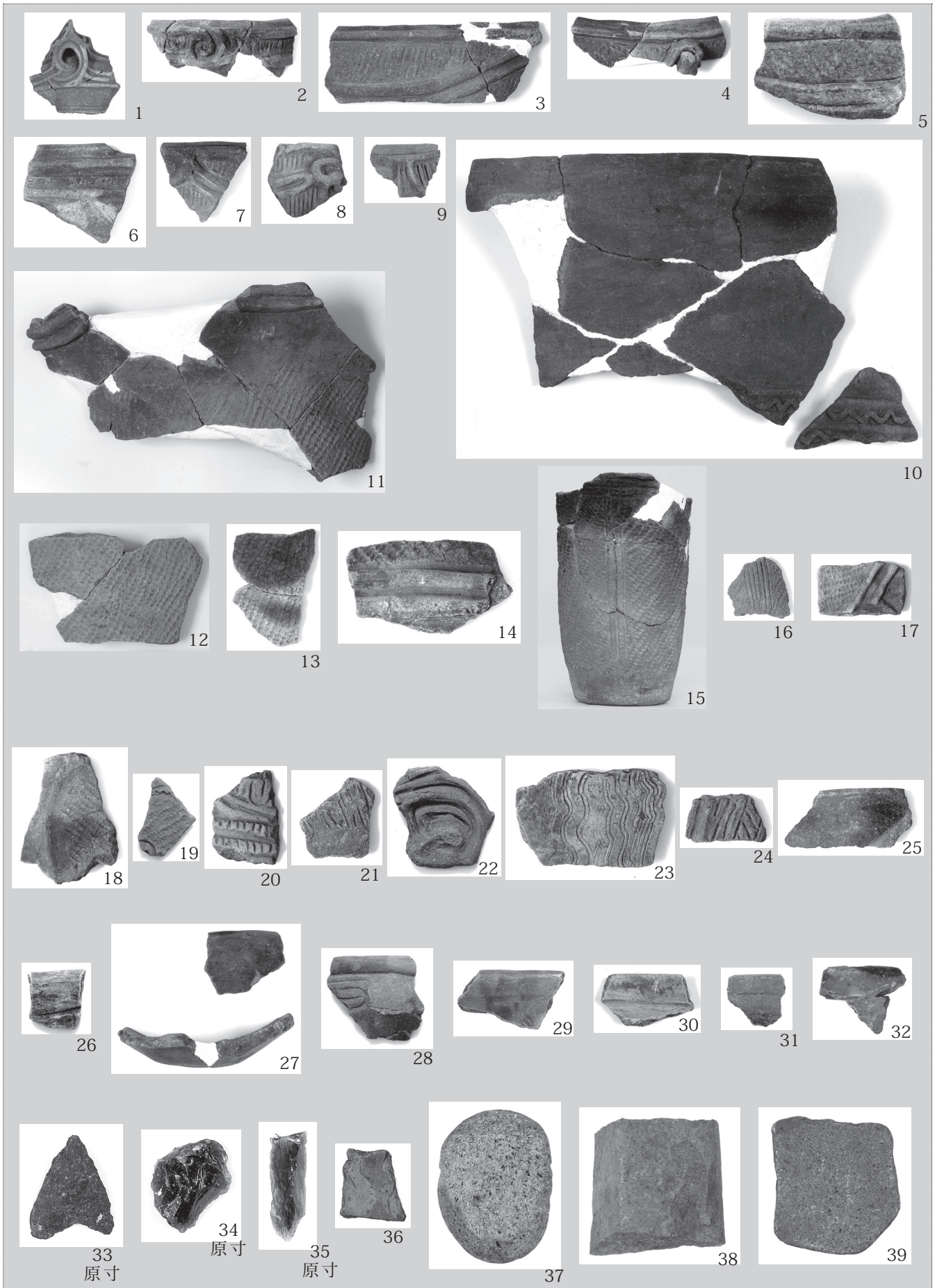
11

13

Ｈ４号住居址出土遺物（１）



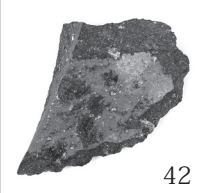
Ｈ４号住居址出土遺物（２）



Ｈ５号住居址出土遺物（１）

40

41


42
50％

43

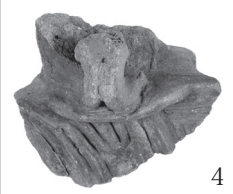
44
50％

Ｈ５号住居址出土遺物（２）

1

2

3


4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

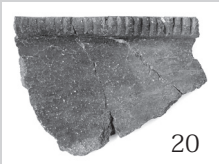
15

16

17

18

19


20

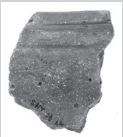
21

22

23

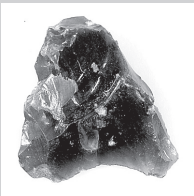
24

25


26

27

28


29
原寸

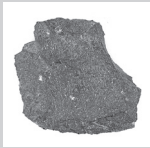
30

31

32

33

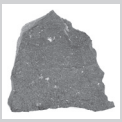
34
原寸

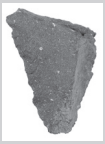

35
50％

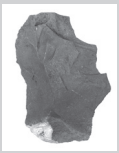
Ｈ６号住居址出土遺物（１）

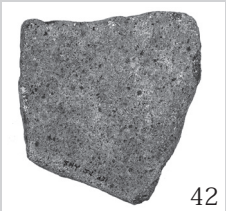
37

38


39


40


41


42

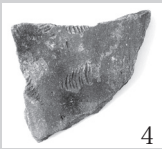
43

Ｈ６号住居址出土遺物（２）

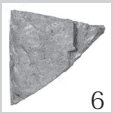
1

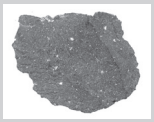
2

3


4

5


6


7

Ｈ７号住居址出土遺物

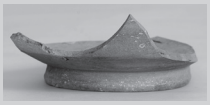
1

Ｄ２号土坑出土遺物

1

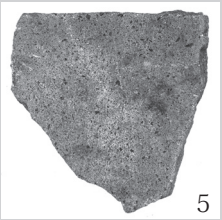
1

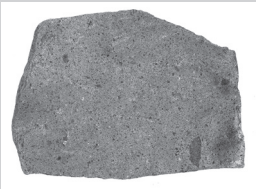
2


3

4

ＳＤ２号土坑出土遺物


5


6

7

Ｄ３号土坑出土遺物

1

2

3

4

5

6

7

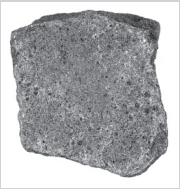
8

9

10

11

12

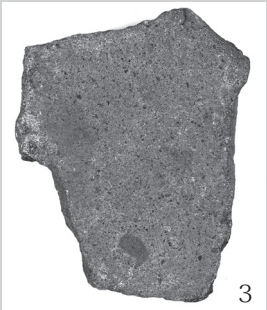

13

14

Ｄ４号土坑出土遺物

1

2


3

4

5

D 5 号土坑出土遺物

1

3

4

8

9

2

5

6

7

D 6 号土坑出土遺物

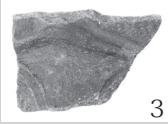
1

2

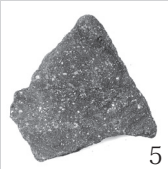
D 7 号土坑出土遺物

1

2


3

4


5

6

D 10 号土坑出土遺物

1

2

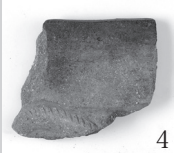
3
12.5％

D 9 号土坑出土遺物

1

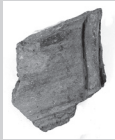
2

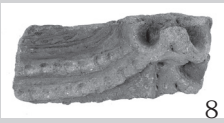
3


4

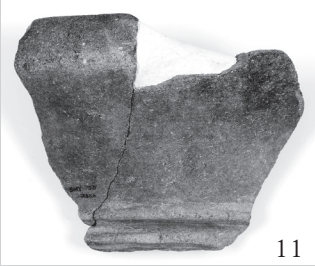
5

6


7


8

9


11

10

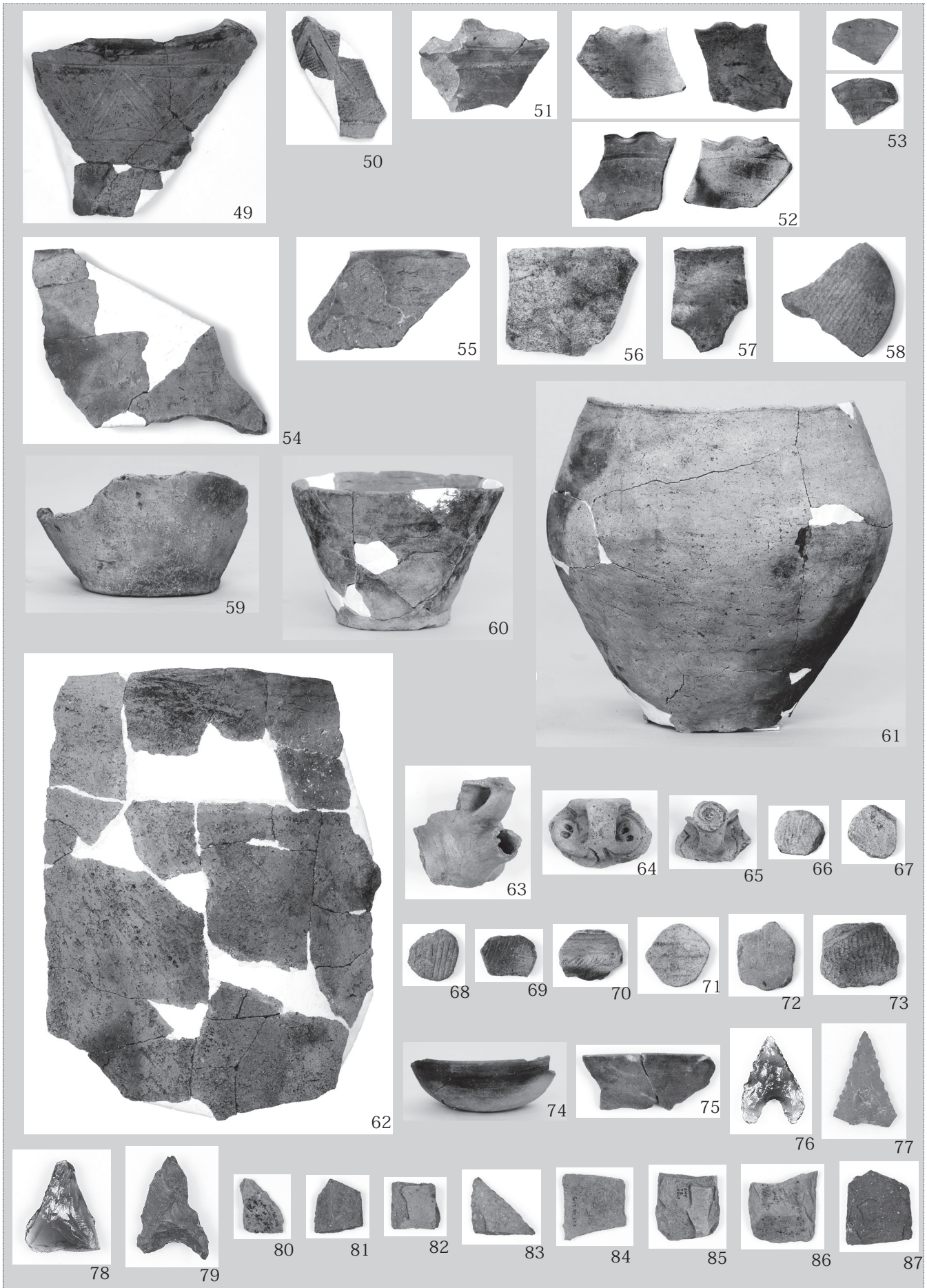
D 18 号土坑出土遺物（1）

1

2

D 15 号土坑出土遺物

D 18 号土坑出土遺物（2）



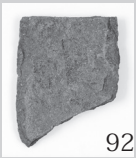
D 18 号土坑出土遺物（3）

88

89

90

91


92

93

94

95

96

97

98

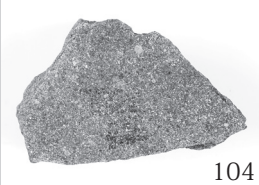
99

100

101

102

103


104

105

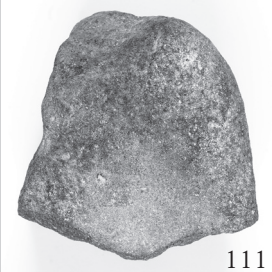
106

107

108

109

110


111

112

113

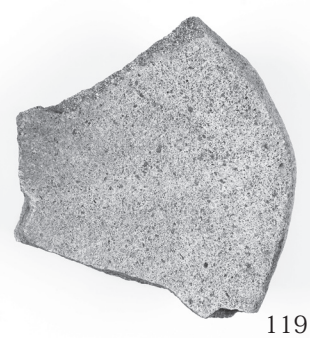
114

115

116

117

118


119

120

D 18 号土坑出土遺物（4）

121

122

124

123

125

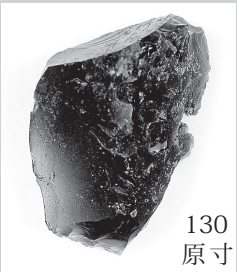
126

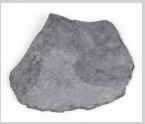
D 18 号土坑出土遺物（5）

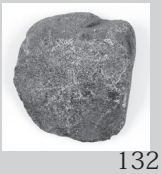
127

128
原寸

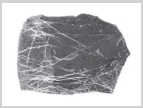
129
原寸


130
原寸


131

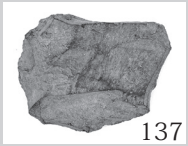

132

133

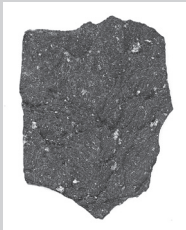

134
50％

135
50％

136
50％


137
50％

138
50％


139
50％

140
50％

141

142

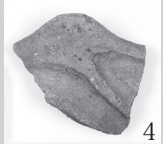
143

D 18 号土坑出土遺物（6）

1
12.5％

2

3


4

5

6

7

8

9

10

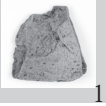
11

12

13

14

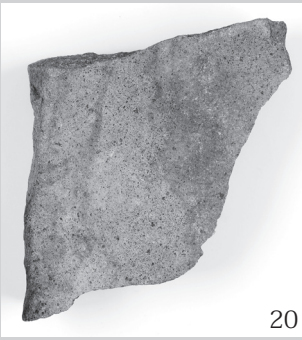
15


16

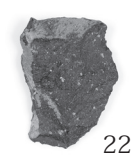
17

18

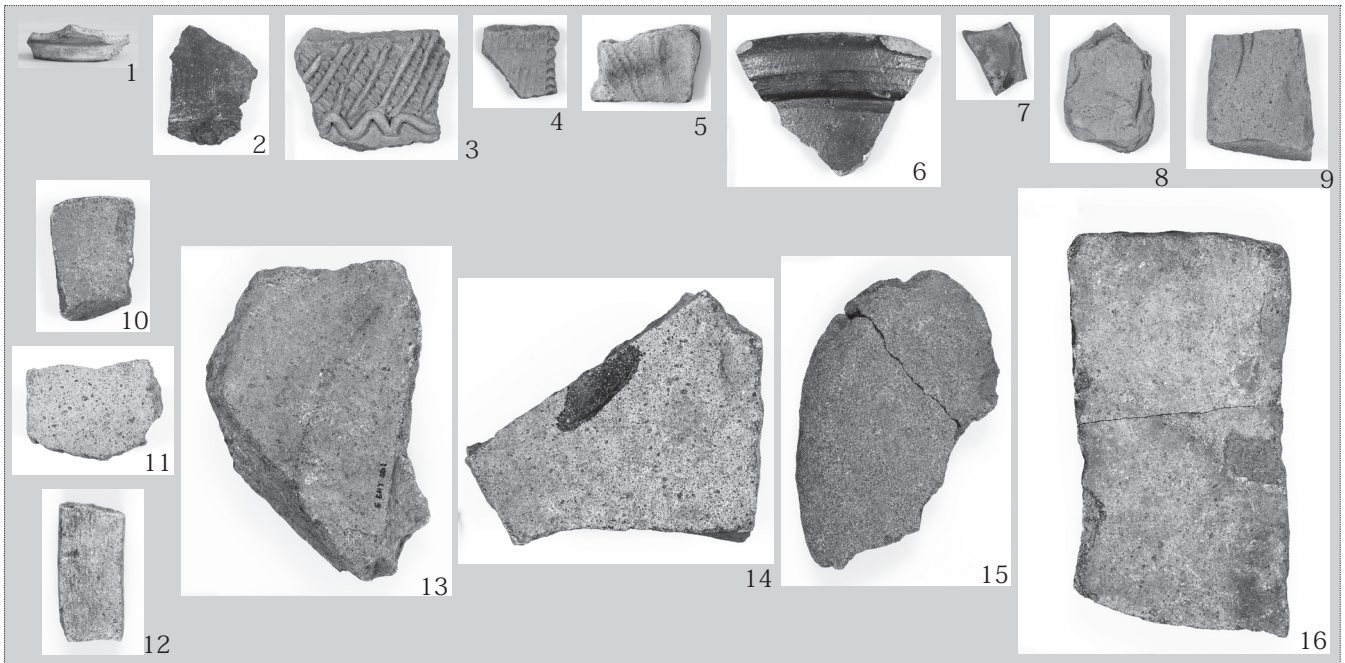
19


20

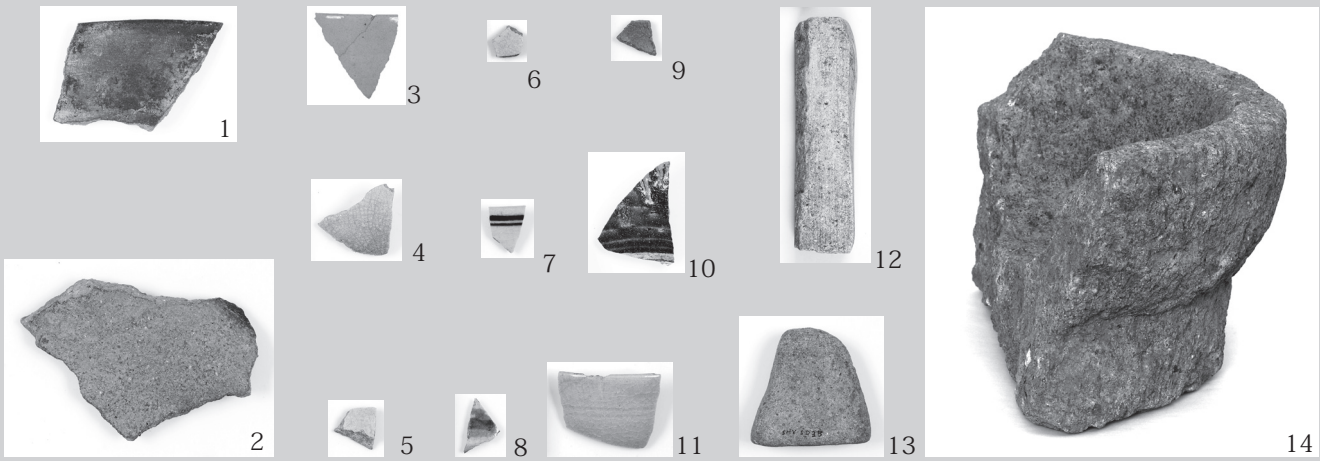
21


22

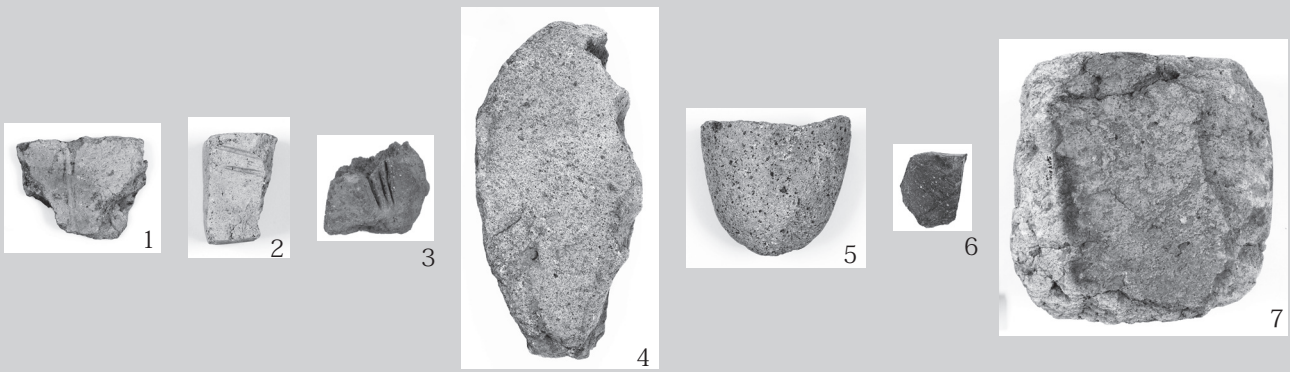
D 19 号土坑出土遺物



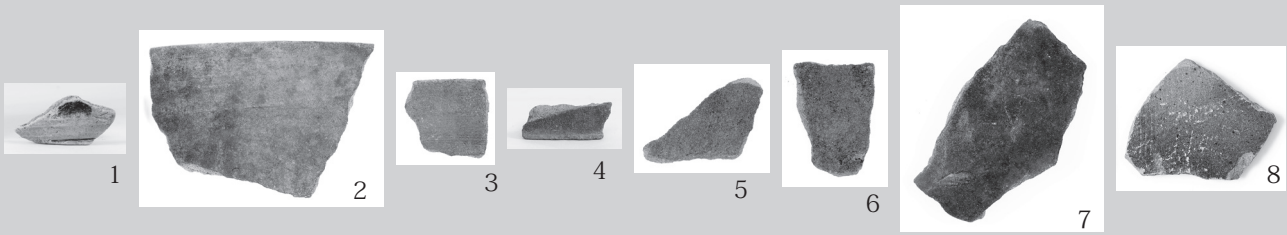
ＳＤ１号土坑出土遺物



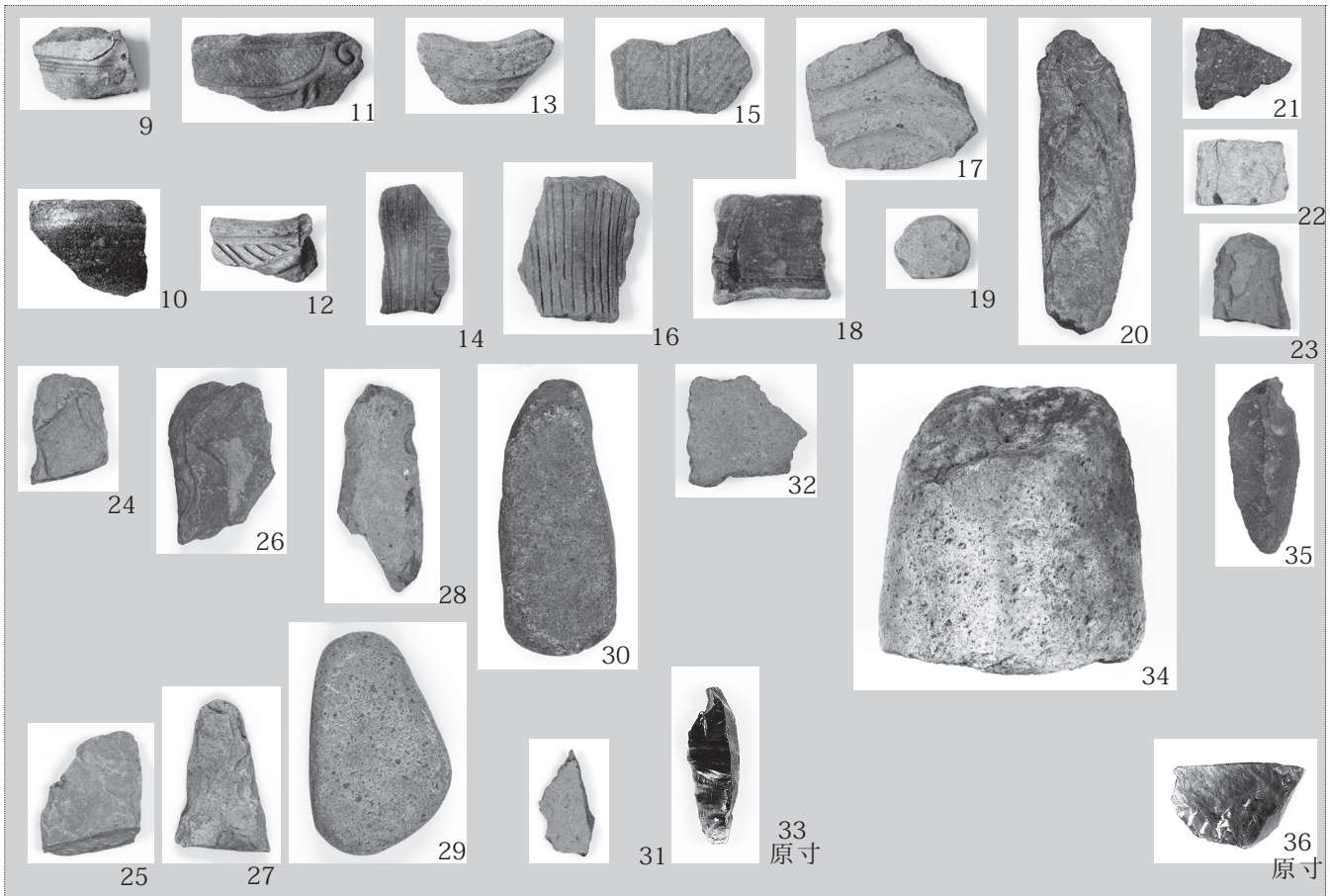
ＳＤ３号土坑出土遺物



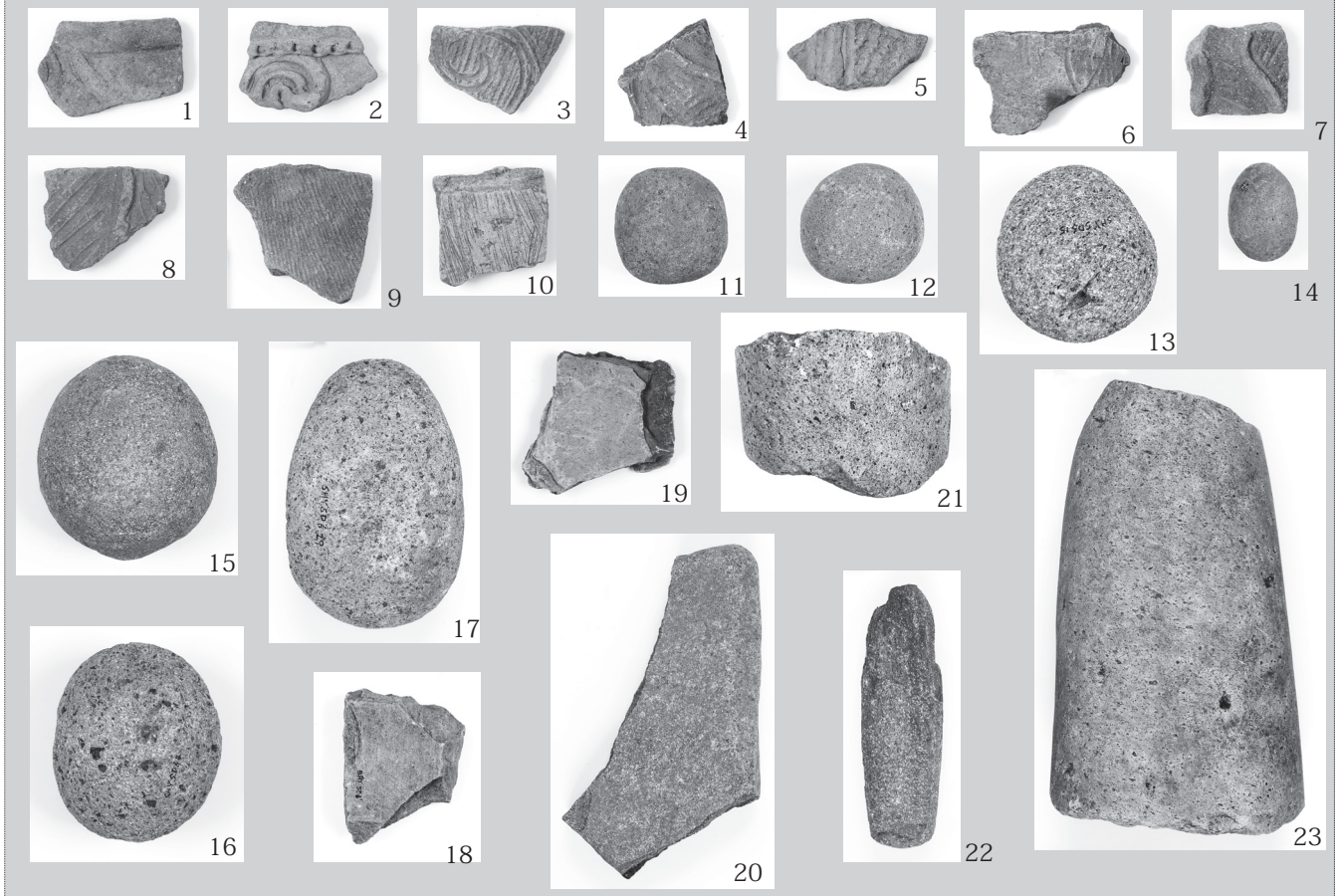
ＳＤ４号土坑出土遺物



ＳＤ５号土坑出土遺物（１）



ＳＤ５号土坑出土遺物（２）



ＳＤ６号土坑出土遺物（１）

24

26

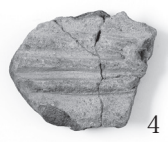
25

ＳＤ６号土坑出土遺物（２）

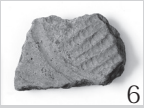
1

2

3


4

5


6

7

8

9

10

11

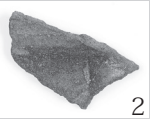
12

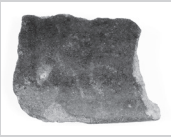
13

ＳＤ７号土坑出土遺物

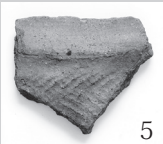
1

1


2


3

4


5

6

7

ＳＤ８号土坑出土遺物

Ｔａ１号竪穴建物址出土遺物

1

2

3

4

5

6

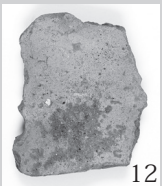
7

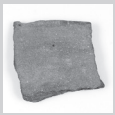
8

9

10

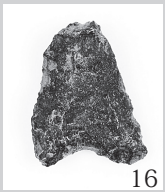
11


12


13

14

15


16
原寸

17
原寸

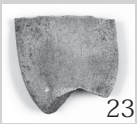
18

19

20

21

22


23

24

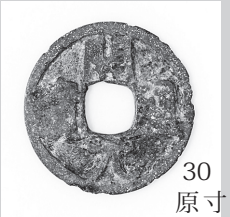
25

26

27

28

29


30
原寸

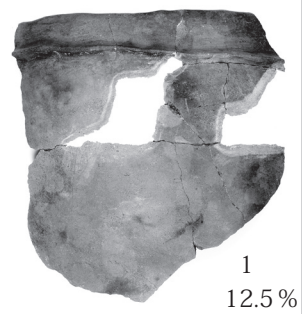
Ｔａ２号竪穴建物址出土遺物

1

Ｔａ３号竪穴建物址出土遺物

1

埋甕２出土遺物


1
12.5％

2
12.5％

埋甕１出土遺物

1

2

1
Ｐ７　原寸

3

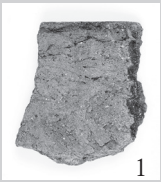
Ｐ４

1
Ｐ 14

1
Ｐ 13

ピット出土遺物

1
Ｐ 29


1
Ｐ 30

1

4

5

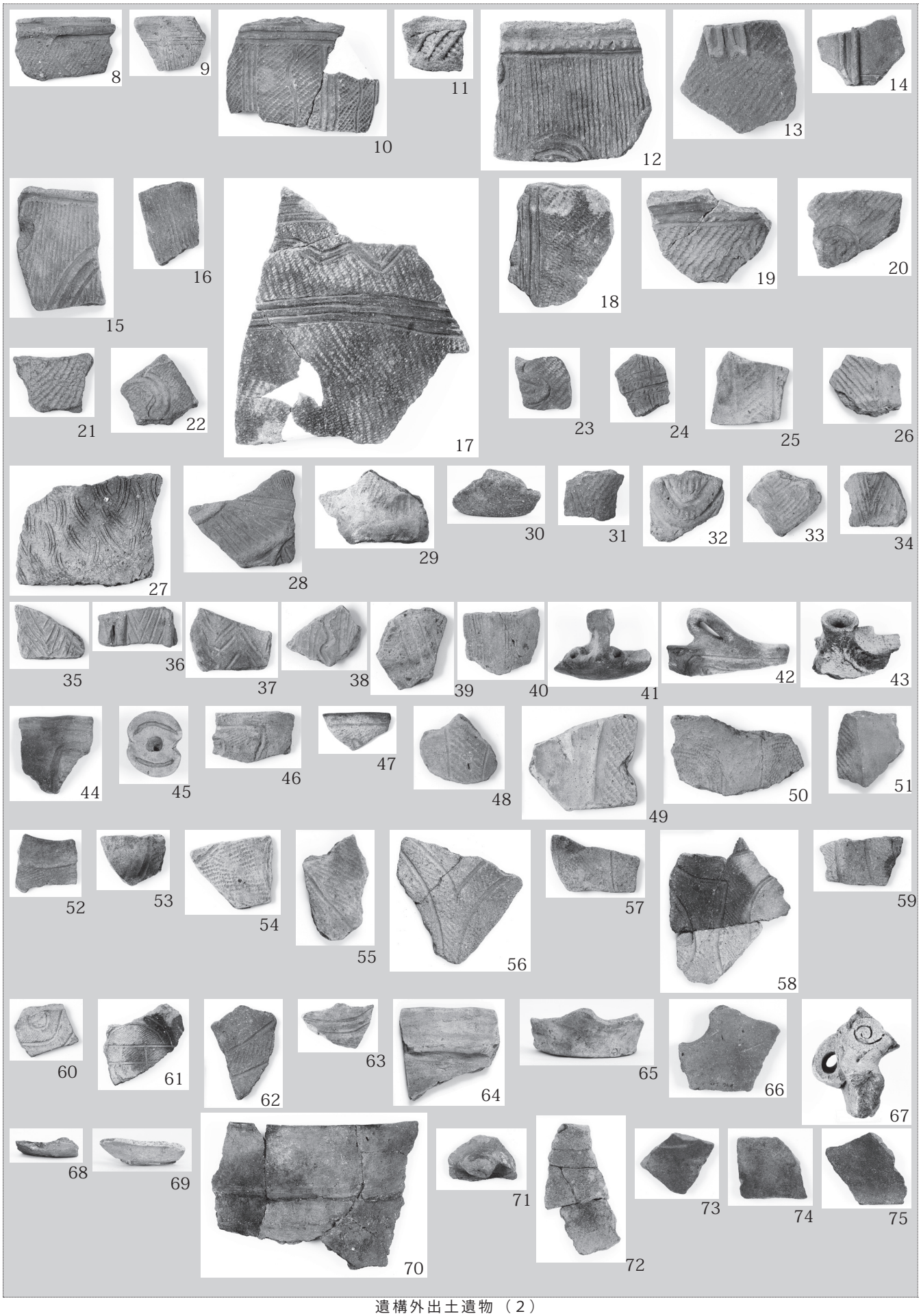
2

6

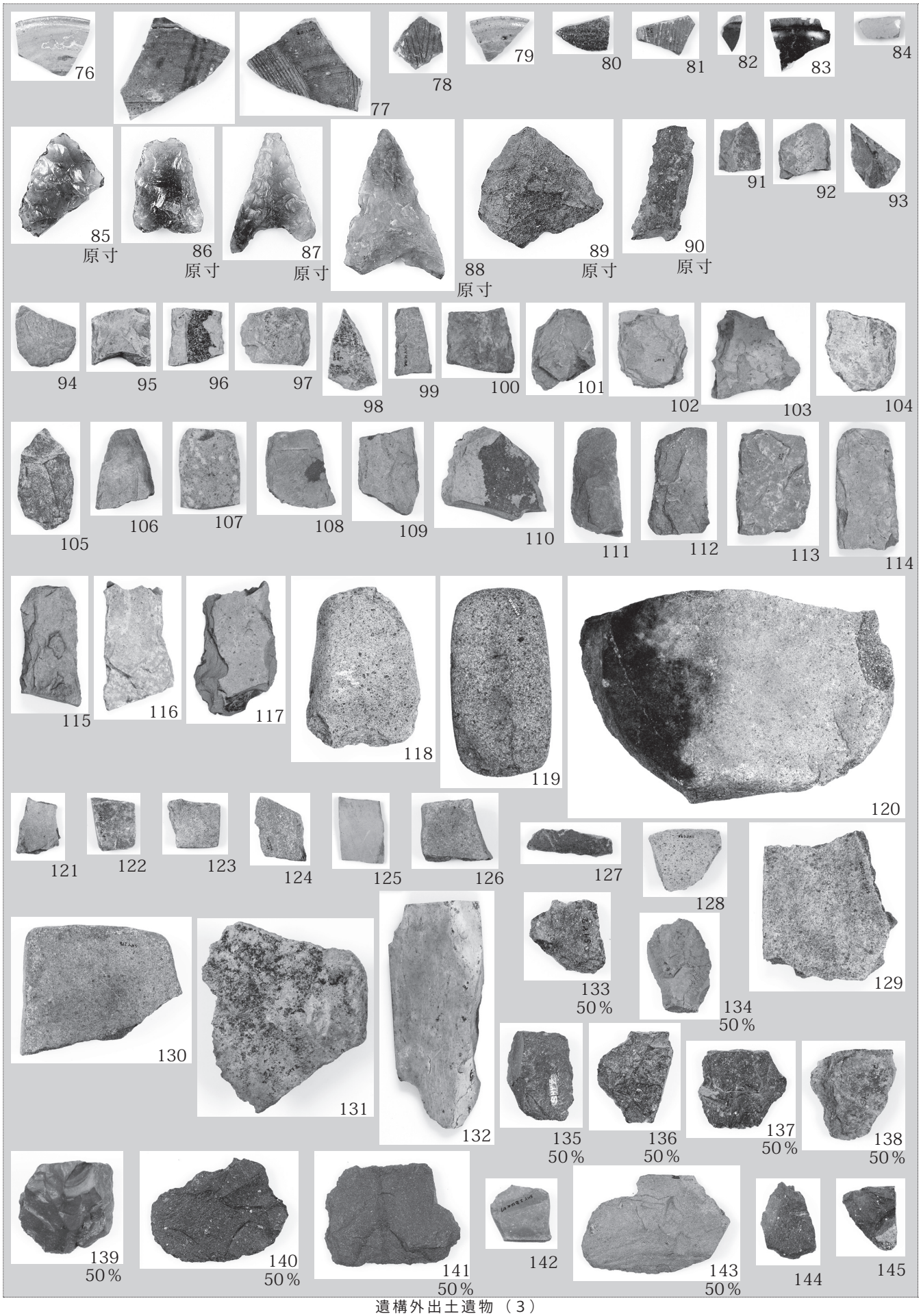
3

7

遺構外出土遺物（１）


8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75

遺構外出土遺物（２）


76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
原寸
86
原寸
87
原寸
88
原寸
89
原寸
90
原寸
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
50％
134
50％
135
50％
136
50％
137
50％
138
50％
139
50％
140
50％
141
50％
142
143
50％
144
145

遺構外出土遺物（3）

遺構外出土遺物（4）

報告書抄録

ふりがな	ひがしむらいせきぐん　やまぶしぎいせき
書名	東村遺跡群　山伏木遺跡
副書名	－
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書
巻次	第256集
編集者名	小林眞寿
編集機関	佐久市教育委員会
所在地	〒385-0006　長野県佐久市中込2913　TEL 0267－63－5321
発行年月日	2019年3月31日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	36°16′24″	138°30′24″	989年6月28日 1 ～ 2019年3月31日	1,900㎡	宅地造成
やまぶしぎいせき 山伏木遺跡	ながのけんさくしおおあざしもひらおやまぶしぎ1274-6ほか 長野県佐久市大字下平尾山伏木1274-6他	20217	131-1					

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
山伏木遺跡	集落	縄文・平安・中近世	竪穴住居址7軒・土坑20基・集石土坑8基 埋甕2基・竪穴建物址5・ピット42基	縄文土器・土師器・石器 陶磁器	－
要約	沖積地における縄文集落の調査。				

佐久市埋蔵文化財調査報告書　第 256 集

東村遺跡群

山伏木遺跡

平成 31 年（2019）3 月
編集・発行　佐久市教育委員会

〒 385-8501　長野県佐久市中込 3056

社会教育部　文化振興課文化財事務所

〒 385-0051　長野県佐久市中込 2913

℡ 0267-63-5321

印刷所